

## 総長就任挨拶 役員新体制紹介 平成29年度入学式の挙行 本学永年勤続者表彰に96氏

お知らせ

- ・大学文書館公文書室が「国立公文書館等」の指定を受ける
- ・平成29年度 人間ドックの実施について





北海道テレビ放送株式会社と連携プログラム実施協定締結



平成28年度北海道大学企業研究セミナー実施協定締結

## 1 総長就任挨拶 役員新体制紹介

### ■ 全学ニュース

- 9 平成28年度学位記授与式の挙
- 11 総長告辞（学士学位記授与式）
- 13 来賓祝辞（学士学位記授与式）
- 15 平成29年度入学式の挙
- 16 総長告辞（入学式）
- 18 平成29年4月 教育研究組織の改革
- 18 教育関係共同利用拠点に再認定
- 19 本学永年勤続者表彰に96氏
- 21 名誉教授に43氏
- 22 野町素己准教授が日本学術振興会賞と日本学士院学術奨励賞を受賞
- 22 北海道大学と北海道テレビ放送株式会社が連携プログラム実施協定を締結
- 23 平成29年度北海道大学の予算
- 25 北大フロンティア基金
- 26 新渡戸スクール修了式を挙
- 27 平成28年度新渡戸カレッジ修了祝賀会を挙
- 28 平成28年北大えるむ賞授与式を挙
- 29 平成28年度北海道大学大塚賞授与式を挙
- 29 平成28年度北海道大学クラーク賞授与式を挙
- 30 平成28年度北海道大学鈴木章科学奨励賞－自然科学実験－表彰式を挙
- 31 平成28年度北海道大学企業研究セミナーを開催
- 32 ガーナ大学で「日本留学フェア」を開催
- 33 北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式を開催（インドネシア、フィンランド、フィリピン）
- 34 2017 ProSPER.Net Young Researchers' Schoolに参加
- 34 第3回HUCIフォーラム「北海道大学の国際化を今後どのように進めるか～IAU-ISAS提言を受けて～」を開催
- 35 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第4回シンポジウムを開催
- 36 第2回北大URAシンポジウム「大学の『研究力』のモノサシとは？－指標による可視化とその活用－」を開催
- 37 学位取得を計画的に進めるためのプロジェクトマネジメント研修を開催
- 37 TF振り返り研修会を開催
- 38 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第31回「赤い糸会&緑の会」を開催

### ■ 部局ニュース

- 39 国際広報メディア・観光学院が株式会社JT北海と連携協定を締結
- 40 総合化学院と南京大学化学化工学院がダブル・ディグリー・プログラムの覚書を締結
- 41 「総合化学院ラーニング・サテライト」を国立台湾大学、南京大学で実施

- 42 水産科学院各種表彰授賞式を挙
- 42 水産学部キャンパス移行式及びくろしお賞授賞式を挙
- 43 会計専門職大学院でメルコ学術振興財団と共催セミナーを開催
- 44 北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催
- 46 第1回保健科学研究院市民公開シンポジウム「高齢者をとりまく社会と健康」を開催
- 46 薬学研究院が第9回薬学研究院研究発表会（FD研修会）を開催
- 47 工学系部局で平成28年度工学系産業技術フォーラムを開催
- 47 工学研究院で寄附分野「原子力支援社会基盤技術分野」の開設式を挙
- 48 観光学高等研究センター「観光地域マネジメント寄附講座研究部門」開設10周年記念シンポジウムを開催
- 49 医学部寄附講座「探索病理学講座」が終了
- 50 社会科学実験研究センターで2016年度SAGE-北大社会科学国際優秀論文賞授与式を挙
- 51 環境健康科学研究教育センターが平成28年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催
- 51 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第13期修了生に修了証書授与
- 52 総合博物館「知の交差点」で卒論ポスター発表会を開催

### ■ お知らせ

- 53 大学文書館公文書室が「国立公文書館等」の指定を受ける
- 54 平成29年度 人間ドックの実施について

### ■ 博士学位記授与 55

### ■ 諸会議の開催状況 73

### ■ 学内規程 74

### ■ 表敬訪問 85

### ■ 人事 86

- 109 新任部局長等紹介
- 113 部局長等（再任）紹介
- 115 新任教授紹介
- 117 新任部課長等紹介

### ■ 訃報

- 122 名誉教授 横山 眞太郎 氏

### ■ 資料

- 123 平成29年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- 124 平成29年度入学者の都道府県分布及び地域比率

表紙：平成29年度入学式（関連記事15頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景㊟ 早春の根室本線を往く

# 独立心と自律心を持った 豊かな北海道大学を創る

第19代総長 なわ とよはる  
名和 豊春



## 1. 北海道大学を取り巻く現況

世界人口は今、1年に約8,000万人が増えることによって70億人を突破し、食糧や資源の不足、少子高齢化や環境問題が深刻化しています。さらに、世界経済のグローバル化により、問題の解決は1ヶ国で済む問題でなくなり、沢山の事柄が複雑に絡み合った国際問題となりつつあります。

一方で、情報通信技術の急速な発達により膨大な情報が一瞬に世界を駆け巡る環境ができあがり、これまで想像すらしていなかった科学技術イノベーションが、次々と生じてきており、その結果、大学に対して、イノベーションやグローバル化に対応した改革が待たなしで要請されてきています。

北海道大学は、「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」、そして「実学の重視」を教育研究の理念として掲げて、多くの人材を輩出し、多くの研究成果を世に送りだしてきました。また、山口佳三前総長の下では、世界のリーディングユニバーシティを目指して努力してきました。しかし残念ではありますが、ここ数年は世界大学ランキングが徐々に下がってきておりますし、大学運営面での問題も生じています。また、基盤経費が少なくなり、大学の研究者は競争的資金の申請や獲得後の事務作業に追われ、研究に従事する時間が減少しており、それによって大学現場における研究・教育の競争力が失われ、さらに短期的な結果を求める競争的資金の増大により、長期的展望に則った基盤的研究が弱体化し、若手研究者がアカデミズムから遠ざかる危機に瀕しております。このような状況では、1980年代に世界トップレベルの革新的な科学技術を創造した我が国の「知の集積」が消尽されていき、やがて喪失することが危惧されます。

本学が今置かれている危機的な状況を突破するためには、全学の教職員の声に真摯にそして謙虚に耳を傾け、大学が向かうべき将来像を考え直す必要があります。その最善策を導き出すためには、大学の基本理念や費用対効果の観点から、事業内容を精査し、戦略を再構築することが必要です。

## 2. 北海道大学が果たすべき2つの使命

私は、これから6年間にやるべきことを2つ提示したいと思います。一つは「世界トップ100を目指す研究・教育拠点の構築」です。世界に飛躍するために必要な教育・研究面での課題を定量的に示し、改善策もなるべく定量的に目標を設定し、その一つひとつを丁寧に解決しながら前進していきたいと思います。

2つ目は「北海道の地域創生の先導」となることです。インターネットをはじめとするIT革命は、流通コストの低減、新ビジネスの創出、コミュニケーションコストの激減を実現し、経済のボーダーレス化をもたらしております。グローバル化した経済下では、国際競争力の強化、不断のモノづくりイノベーションが要求され、これに基づく新しいビジネスが、私たちの生活、経済、社会を大きく変革しています。また、大企業やその下請産業が海外に進出し国内の空洞化が生じ、地域産業の崩壊をもたらし、地方の一人当たり所得の下落や、雇用減少による人口流出が大きな社会問題となっています。

東日本大震災から約6年が経過し、長期安定政権の下、日本経済も復興しつつありますが、未だ道半ばの状況にあります。北海道大学は日本のフロンティアである北海道の発展を担う中核的研究・高等教育機関として、地域活性化の先導役になり、北海道の経済・社会の創生にとどまらず、日本全体の再興を引っ張っていくエンジンの役割を果たすことが求められています。

幸い、北海道大学には、長い歴史を有し、世界レベルの研究を数多く発信している農学部や医学部、ノーベル化学賞を受賞した鈴木 章先生を輩出した理学部・工学部、さらに獣医学部や低温科学研究所、触媒科学研究所、電子科学研究所、スラブ・ユーラシア研究センターなどの、世界レベルでの研究拠点が多数存在します。その他の部局でも、文系理系共に我が国をリードする多様な研究が積み重ねられてきています。これらの「知の集積」を更に強化し、連結・融合させて情報発信することによって、全世界の英知を本学に結集し、新しい知識・技術を生みだし、産業の育成や施策を通して、北海道の地域創生を先導したい

と思います。

私が総長を務めさせていただく6年間で、「世界トップ100を目指す研究・教育拠点の構築」と「北海道の地域創生の先導」の2つを達成したいと考えています。たとえ道半ばになったとしても、次世代では実現するように強い基盤を築きます。

### 3. 世界トップ100を目指す教育・研究イノベーション

社会から要請されている最高学府としての大学の使命は、大きく言えば教育と研究を通して社会の発展に貢献することです。さらに、グローバル社会で大学教育に求められているのは、卒業した大学の「ブランド」ではなく、受けた教育の質を保証することです。既に、GPA (Grade Point Average) 制度の導入により、厳格な成績評価と単位の実質化を推進してきましたが、全教員が「1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成する」という基準に則った単位数に見合った予習・復習、そしてまたアクティブな学修を必要とする授業を展開することで、学生が「講義を聴く」教育から「自ら学ぶ」教育への転換を図っていきたいと考えております。

現代の混沌とした社会状況の中では、自らの足元をしっかり見定め、遠くまで見通すことのできる確かな視力と広い視野を養い、問題を根本的に考えて判断を下せる社会のリーダーを育成することが何よりも大切です。リーダーを養成する一つの手法として古くから欧米ではリベラルアーツが重視されてきました。本学でも、札幌農学校以来リベラルアーツが重視され、学部や大学院でも幅広い分野の教養・専門に関する講義を受けることが可能となっております。しかし、時代とともに必要となる教養の内容は変化します。自然科学・応用科学、さらには人文社会科学の変化を見据えながら、現在必要なリベラルアーツとは何なのか、もう一度見直す必要があると考えております。専門教育との両立、課外活動の充実など課題は多いのですが、教育は大学の本分ですので最優先で対応し、根幹となる科目を絞って提示し、これを必修化することで、本学の卒業生が、必須となる教養を必ず身につけて卒業するようになりたいと思います。

また、情報化が進み国境のない世界になりつつある現代社会では、外国語で意思の疎通がとれることは勿論、異なる文化的背景や価値観を持つ人々と対話し、相互理解を深める中で互いに学び合うことができなければなりません。「国際的に通用する人材の育成」が大学教育のキーワードであり、平成25年度に開始した新渡戸カレッジの内容を充実させ、「品位ある自律的な個人の確立、それぞれの文化的・社会的背景に根ざしたアイデンティティの確立、同時に国際性とリーダーシップを持って活躍する人材」を育成してまいります。

さらに、大学には「知の府」として、健全な人間社会の在り方を示し、次代の文化の創造や地域創生への貢献も求められています。北海道大学は、北海道の土地の多くが作物の生育には不向きな泥炭土や火山灰土からなり、不利な農業条件に関わらず、排水や客土をして良質な土壌を作ることから始め、研究成果を社会に還元し、食料自給率200%の北海道の形成に尽力してきました。今後も研究成果の社会還元を継続し、よりよい社会の実現を目指していきます。

なお、北海道大学が世界と伍す大学として発展するには、研究面での国内外への積極的な情報発信と国際共同研究の促進など更なる飛躍が必要です。これらのワールドクラスの研究を推進し、世界中の人の耳目を集めるためには、ごく当たり前ですが、北海道大学の優れている研究をさらに伸ばしていき、未達の部分を改善いたします。このため、各部署と一緒に、自分たちの得手不得手を客観的に分析し、どう変革していくべきかについて議論していきます。

北海道大学は「実学の重視」を研究理念としています。これから、とすれば、今述べた社会で役立つ研究だけを重視し資源を集中させようと考えがちですが、研究で大切なのは多様性です。社会での実用化に対して即効性は無くても、広い意味で社会を豊かにする基礎研究は、今まで、大学の「研究の幅」を広げ、大きな成果をもたらしてきました。今後も応用研究と基礎研究が共存し協力し合って進歩する体制になるように支援していきます。

また、新しい学問領域を創成するために設立した創成研究機構では、これまで生命科学系を中心に成果を上げてきました。今、世界では人工知能AIやビッグデータなどのデータサイエンスと、数理学、工学、生命科学、感染症学、医学、農学、人文社会科学が関わる分野融合的なネットワーク科学が次々と生まれており、日本の立ち遅れが指摘されています。今後は、生命科学分野以外の、多分野融合による新学術分野の創造も試み、気候変動、少子高齢化、資源枯渇問題などの人類共通の課題の解決に重点的に取り組みたいと思います。

### 4. 北海道の地域創生を先導する産学官連携イノベーション

次に、2番目の目標である「北海道の地域創生の先導」について説明いたします。地域との連携に関しては、北海道大学は、140年間にわたり札幌市民や北海道民から愛されてきましたが、今後とも北海道、札幌市、函館市と共に発展していきたいと考えています。このため、研究成果を社会に還元する組織である産学・地域協働推進機構を、さらに活発に稼働させたいと思います。

一例をあげると、北海道大学が中核となり、食と農林水産の研究・産業集積地「フードバレー」を作っていきたいと考えています。北海道には自然に恵まれた広大なフィー

ルドがあり、農業産出額は1兆円超で全国の12%を占め、食料自給率は201%で全国第1位（2012年度）となっており、我が国最大の食料供給基地と言えます。日本は安全で高品質な食品を提供する技術を有している一方で、産業として捉えた場合は規模やコストの面で多くの改善が必要とされています。このため、北海道大学周辺に他の国立研究機関や食産業関連企業を集めて、さらに、企業と研究機関の調整役として、産学官が出資する財団を立ち上げ『北海道版フードバレー』を目指したいと思っております。なお、この財団には、外部資金の調達に加え、研究者に研究費を出資するファンドの役割、さらに研究の進捗状況を把握し、助言を与えるリサーチ・アドミニストレーター（RA）の役割も果たさせたいと思っております。北海道版フードバレーは、本学のためだけではなく、道内はもちろん国内外の大学とも緊密に連携し、活発な共同研究を遂行することを可能にします。こうした、柔軟性の高い、盤石な財政基盤を有する財団を作ることで、10年、20年と長期にわたる研究開発を計画・推進することが可能になります。

## 5. イノベーションを支える人材の確保

一方、これらの教育・研究活動や地域創生を進めるためには、優秀な人材が必要です。しかし、大学教育の国際化がもたらす教育経費の高騰は大学の基盤経費を圧迫しております。これは日本だけの問題でなく、欧米でも大きな問題となっており、MOOCs（大規模オープンオンライン講座）のような遠隔地教育が開発された一因となっています。しかし、遠隔地教育も最終的な解決策ではなく、米国の教員からも、最終的には選抜された優秀な学生との対面式の教育が大切であり、教員の人数は減らせないと意見を聞きます。換言すれば、様々な創造的事業の実施で、拡大した組織的・人的コストを見直し、必要な専任の教員を確保することが肝要であると言えます。私は、国から交付される基盤的な経費の削減に相当する人件費の第3期中期目標期間における削減を7.5%に圧縮するよう全力を注ぎます。なお、人件費の削減に伴って不足した教員は、財政的工夫によるテニユア教員の雇用維持、外部資金による任期付き教員の採用や65歳以上の退職教員の教育専任の任期付き教員としての再雇用などで対応いたします。

また、人件費不足分を外部資金で確保するために、大学内での各分野間の協働的な研究を開拓して既存の様々な研究助成をさらに獲得していくことはもちろん、先に述べた財団を大学外に設置し、部局の枠を超えた連合研究グループと企業との協働研究に発展させ、研究開発費の大幅な増加を図り、人件費の削減を7.5%に圧縮するための資金を確保したいと考えております。

## 6. 民主的な運営体制でのガバナンスの強化

大学運営に関しては、ぶれない「軸」を持ち、謙虚に学び、果敢に実行することが大切だと考えております。また、トップが担うべき仕事として、次の5つを行いたいと考えております。

- ① 明確な経営ビジョンを示し、それに基づいた経営計画を作成する。
- ② 経営ビジョンと実行計画を公表する。
- ③ 公表した経営ビジョンと実行計画を、着実に実行する。
- ④ 情報開示は迅速にする。
- ⑤ 部局等の声を活かした民主的な運営をする。

以上の業務を実行する体制を作るため、総合IR室、政策調整室、広報室を総長の直轄組織として編成します。総合IR室は、簡単に言えば、企業でいうところの情報戦略室であり、大学の運営に役立つ様々な情報を提供する役割を担う機能を果たします。また、政策調整室は総合IR室の情報分析結果を大学のガバナンス、資源配分へフィードバックする方策の方針を作成するところです。広報室は、教員の研究成果だけでなく、教育や大学全体の組織的な活動を国内外に情報発信します。また、海外への情報発信機能の強化の他に、海外オフィス及び国際連携機構の組織と機能を改善・強化し、世界における北海道大学のプレゼンスを高めたいと思っております。なお、北海道大学の国際化に向けた最も本質的で有効な処方箋は北海道大学の教育と研究を、国内外から見ると魅力あるものにレベルアップすることであり、その目的達成のための教育・研究環境の整備に全力を注ぎます。

ところで、北海道大学が抱える問題点に関しては、既に各部局等で議論がなされており、全学的に自由に意見を述べあえる環境を整えさえすれば、人材豊富な本学では必ず経営改善の糸口やアイデアが見つかる、私は信じております。挙げられたアイデアを公平な目で取捨選択をし、方針を提示するのがトップを含めた本部の務めと考えます。大きな目標を最終的に達成するために、具体的で実現性の高い小さな目標を、自ら決めた期限を守りながら一つひとつ確実に達成し、教職員の皆さん全員が大学の発展の担い手であることを実感できる、「ワクワクするような職場」を創っていきます。

## 7. 生涯教育とそれを支えるキャンパスの充実：Not only four years, but also forty years

卒業してから学生時代を振り返る時に、いいキャンパスだったと思えるのが理想の姿とよく言われます。しかし、北海道大学は、「Not only four years, but also forty years」を合言葉に、一生涯の保証を目指したいと思っております。一生涯の保証とは、いかに科学技術や社会科学が進歩しても通用する基本的な教養や専門知識を在学中に身に付けさせ、大学にもう一度学び直しに来る機会を提供することを意味しております。このような、生涯教育のために、今後何を行うべきか、同窓会とも一緒になり、真剣に検討していきたいと考えております。

欧米の大学は長い歴史の中で誇りうるキャンパス環境を順次整えてきています。欧米の大学の良さに学びながら北

北海道大学も、50年100年先を見越したキャンパスの将来構想作りをスタートさせなければなりません。機能、配置、景観、交通網、市民との接点などを考慮しながら、緑豊かで、美しく、安全なキャンパス作りに励みます。

## 8. おわりに

最後になりましたが、「世界トップ100を目指す研究・教育拠点の構築」と「北海道の地域創生の先導」を実現するためには、同窓生の皆様をはじめ、教職員、在校生及びその保護者を構成員とする校友会エラムの皆様のご理解とご支援が不可欠と考えています。また、本学と会員の皆様とのネットワーク及び会員同士のネットワークを通じて「愛校心の醸成」を図り、皆様との絆を深め、「独立心と自律心を持った豊かな北海道大学」を作っていきたいと願っております。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## 略 歴

昭和52年3月 北海道大学工学部建築工学科卒業  
昭和55年3月 北海道大学大学院工学研究科建築工学専攻修士課程修了  
昭和55年3月 秩父セメント株式会社中央研究所（現 太平洋セメント株式会社）  
平成4年1月 博士（工学）（東京工業大学）  
平成6年10月 秩父小野田株式会社中央研究セメントコンクリート研究所  
平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科助教授  
平成16年5月 北海道大学大学院工学研究科教授  
平成19年4月 独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター研究員  
平成22年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員・大学院工学研究院副研究院長  
平成26年3月 }  
平成26年4月 } 北海道大学大学院工学研究院院長・工学院長・工学部長  
平成29年3月 }

## 役員新体制紹介

平成29年4月1日現在



理事・副学長に

かさほら まさのり  
笠原 正典 氏

笠原正典教授は、平成29年4月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

### 担当

総括、国際全般、教員人事制度、教育研究組織、国際連携研究教育局（GI-CoRE）関連統括、情報公開、内部統制、リスク管理、同窓会、全学運用教員、海外オフィス、男女共同参画

### 兼務する職

企画・経営室長、国際連携機構長、人材育成本部長、技術支援本部長

### 略歴

生年月日 昭和30年10月22日  
昭和55年3月 北海道大学医学部卒業  
昭和59年3月 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了  
昭和59年3月 医学博士（北海道大学）  
平成4年6月 北海道大学医学部助教授  
平成10年4月 総合研究大学院大学先導科学研究科教授  
平成15年4月 } 総合研究大学院大学評議員  
平成16年3月 }  
平成16年10月 北海道大学大学院医学研究科教授  
平成17年4月 } 北海道大学病院病理部長  
平成19年3月 }  
平成23年4月 } 北海道大学大学院医学研究科副研究科長、  
平成25年3月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
平成25年4月 } 北海道大学大学院医学研究科長・医学部長  
平成29年3月 }



理事・副学長に

はせがわ こう  
長谷川 晃 氏

長谷川晃教授は、平成29年4月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

### 担当

教育、国際（教育）、学生、入試、評価（教員人事評価含む）、ハラスメント、障がい者差別解消、大学院教育改革

### 兼務する職

教育改革室長、評価室長、高等教育推進機構長、アドミッションセンター長、附属図書館長、大学文書館長

### 略歴

生年月日 昭和29年7月7日  
昭和52年3月 東北大学法学部卒業  
昭和54年3月 東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了  
昭和57年10月 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了  
昭和57年10月 法学博士（東京大学）  
昭和58年7月 北海道大学法学部助教授  
平成3年2月 北海道大学法学部教授  
平成12年4月 北海道大学大学院法学研究科教授  
平成16年4月 } 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育センター長  
平成20年3月 }  
平成23年4月 } 北海道大学役員補佐  
平成26年3月 }  
平成26年4月 } 北海道大学総長補佐  
平成26年12月 }  
平成26年12月 } 北海道大学法学研究科長・法学部長  
平成28年12月 }



理事・副学長に

にし い じゅん じ 氏  
西井 準治 氏

西井準治教授は、平成29年4月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

**担 当**

研究、国際（研究）、産学官連携、地域連携、知的財産

**兼務する職**

研究戦略室長、創成研究機構長、産学・地域協働推進機構長

**略 歴**

生 年 月 日	昭和32年 8月16日
昭和55年 3月	東京都立大学工学部卒業
昭和57年 3月	東京都立大学大学院工学研究科修士課程修了
昭和57年 4月	日本板硝子株式会社
平成 5年 4月	工業技術院大阪工業技術試験所研究官
平成 5年10月	工業技術院大阪工業技術試験所主任研究官
平成11年 4月	工業技術院大阪工業技術研究所光機能材料部室長
平成13年 4月	産業技術総合研究所光技術研究部門グループ長
平成18年 7月	産業技術総合研究所光技術研究部門主幹研究員
平成21年 7月	北海道大学電子科学研究所教授
平成25年10月	北海道大学電子科学研究所長、
平成29年 3月	



理事に

みな かわ かず し 氏  
皆川 一志 氏

皆川一志氏は、平成29年4月1日付で理事に発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

**担 当**

財務の管理・運用、安全・防災、施設・環境、情報、基金、情報推進（個人情報含む）

**兼務する職**

施設・環境計画室長、サステイナブルキャンパス推進本部長、安全衛生本部長

**略 歴**

生 年 月 日	昭和40年 3月20日
昭和62年 3月	東京大学教養学部卒業
昭和62年 4月	北海道東北開発公庫
平成11年10月	日本政策投資銀行 人事部調査役
平成13年11月	同 交通・生活部調査役
平成15年 3月	同 交通・生活部課長
平成16年 3月	同 東北支店業務課長
平成18年 4月	同 地方開発部課長
平成19年10月	同 地方開発部次長
平成20年 3月	同 企業金融第6部次長
平成20年 5月	同 人事部次長
平成20年10月	株式会社日本政策投資銀行 人事部次長
平成23年 6月	同 審査部担当部長
平成26年 6月	同 経理部長
平成27年 6月	同 執行役員





理事・事務局長に

とくひさ はるひこ  
徳久 治彦 氏

徳久治彦理事・事務局長は、平成27年8月4日から理事・事務局長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

担当

職員人事制度，予算・決算，経理の適正管理，労務管理

略歴

生年月日 昭和33年3月29日  
 昭和56年3月 東京大学法学部卒業  
 昭和56年4月 文部省大臣官房人事課  
 昭和56年8月 文部省初等中等教育局中学校教育課  
 平成元年4月 広島県教育委員会事務局管理部総務課長  
 平成3年7月 文部省初等中等教育局高等学校課課長補佐  
 平成8年7月 文部省初等中等教育局小学校課教育課程企画室長  
 平成11年7月 文部省初等中等教育局中学校課長  
 平成13年1月 文部科学省初等中等教育局児童生徒課長  
 平成14年4月 文部科学省高等教育局専門教育課長  
 平成15年7月 内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）  
 平成18年7月 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課長  
 平成19年7月 文部科学省大臣官房総務課長  
 平成20年7月 文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当）  
 平成24年1月 文部科学省大臣官房政策評価審議官  
 平成25年4月 独立行政法人日本学生支援機構理事長代理  
 平成26年4月 文部科学省大臣官房総括審議官  
 平成27年8月 北海道大学理事・事務局長



副学長に

やまぐち じゅんじ  
山口 淳二 氏

山口淳二副学長は、平成26年4月1日から副学長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

担当

新渡戸システム

略歴

生年月日 昭和31年6月23日  
 昭和56年3月 埼玉大学理学部卒業  
 昭和58年3月 名古屋大学農学研究科博士課程（前期）修了  
 昭和61年3月 名古屋大学農学研究科博士課程（後期）修了  
 昭和60年10月 日本学術振興会特別研究員  
 昭和61年11月 日本学術振興会海外特別研究員  
 昭和62年11月 名古屋大学農学部助手  
 平成7年2月 名古屋大学生物分子応答研究センター助教授  
 平成13年4月 北海道大学大学院理学研究科教授  
 平成15年4月 } 科学技術振興調整費研究領域主管（非常勤）  
 平成21年5月 }  
 平成18年4月 北海道大学大学院先端生命科学研究院教授  
 平成22年4月 北海道大学大学院理学研究院教授  
 平成22年10月 } 北海道大学高等教育推進機構副機構長  
 平成25年3月 }  
 平成23年4月 } 北海道大学役員補佐  
 平成26年3月 }  
 平成26年4月 } 北海道大学大学院生命科学院長  
 平成29年3月 }  
 平成26年4月 北海道大学副学長



副学長に

ほうきん きよひろ  
寶金 清博 氏

寶金清博教授は、平成29年4月1日付けで副学長に発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

担当

病院の財務一般、コンプライアンス、研究倫理

略歴

生年月日 昭和29年9月24日  
昭和54年3月 北海道大学医学部卒業  
昭和61年11月 } 米国カリフォルニア大学デービス校客員研究員  
平成元年1月 }  
平成2年7月 北海道大学医学部附属病院助手  
平成3年3月 医学博士(北海道大学)  
平成4年6月 北海道大学医学部附属病院講師  
平成12年11月 北海道大学大学院医学研究科助教授  
平成13年11月 札幌医科大学医学部教授  
平成22年3月 北海道大学大学院医学研究科教授  
平成22年9月 北海道大学病院副院長  
平成25年4月 北海道大学病院長、北海道大学副理事



監事に

たけや ちさと  
竹谷 千里 氏

竹谷千里監事は、平成28年4月1日から監事を務めています。

任期は、平成32年8月31日までです。

略歴

生年月日 昭和29年7月8日  
昭和53年3月 北海道大学法学部卒業  
昭和53年4月 北海道庁  
平成12年4月 経済部観光振興課長補佐  
平成17年4月 企画振興部総務課参事  
平成19年6月 知事政策部知事室広報広聴課長  
平成21年4月 経済部観光局次長  
平成22年4月 経済部観光局国際観光担当局長  
平成23年4月 留萌振興局長  
平成25年4月 環境生活部長  
平成26年4月 北海道監査委員  
平成28年4月 北海道大学監事



監事に

ほり しゅんすけ  
堀 俊介 氏

堀 俊介監事は、平成28年4月1日から監事を務めています。

任期は、平成32年8月31日までです。

略歴

生年月日 昭和46年12月14日  
平成6年3月 北海道大学経済学部卒業  
平成7年10月 あずさ監査法人  
平成15年8月 公認会計士堀俊介事務所(現 堀俊介税務会計事務所)開設  
平成17年12月 監査法人ハイビスカス設立 代表社員就任  
平成28年4月 北海道大学監事

## ■全学ニュース

# 平成28年度学位記授与式の挙行

平成28年度学士学位記授与式



学位記を受ける総代

平成28年度学士学位記授与式を3月23日（木）に、本学第一体育館において行いました。

学位記授与式は、来賓、役員、学部長等の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部の卒業生2,278名を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。

また、平成25年度に創設された新渡戸カレッジの第1期修了者15名を代表し、総代へ山口佳三新渡戸カレッジ校長から修了証書が授与されました。

山口佳三総長は卒業生への告示の中で、「時代に流されないしっかりとした指針を持って人生を歩み、その際、2つのことを是非、心に留め置いてほしい」ことを述べました。1つ目は、「生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけること」であり、「自ら学ぶことの大切さを体得した人は、これからの未来を自力で切り拓いていける」こと、「学び続けることは、絶えざる自己革新を求めることでもあり、フロンティア精神をもってこれからの人生を切り拓いてほしい」ことを述べました。2

つ目は、「これからの人生を、常に社会と向き合って歩む」ことであり、「これからは、自分を育んでくれた社会にどう関わられるのか、どんな貢献ができるのかを問い続けてほしい」ことを述べました。

最後に、「夢と勇気と大志を持って、新しい船出をされることを祈念しております」とのはなむけの言葉が贈られました。

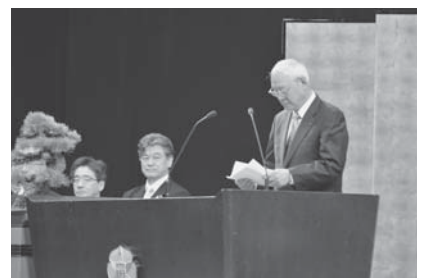
続いて、北海道大学校友会エルム会長の石山 喬氏は祝辞の中で、自身の事業経営において北大の4つの基本理念が大きな指針となったことなどを述べられ、卒業生へのはなむけの言葉として贈られました。

その後出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。

翌3月24日（金）には、フォーポイントバイシェラトン函館において水産学部卒業生190名を代表し、各学科の総代へ水産学部長から学士学位記が授与され、新渡戸カレッジの修了者には山口新渡戸カレッジ校長から修了証書が授与されました。



告辞を述べる山口総長



祝辞を述べられる石山会長



会場の様子

平成28年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

平成28年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式終了後に、第二体育館において執り行いました（水産科学院については翌日挙行）。

修士・専門職学位・博士学位記授与式では、役員、研究科等の長の列席の下、14研究科等の修士課程修了者1,422名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者45名、経済学研究科会計情報専攻修了者12名及び公共政策学教育部公共政策学専攻修了者42名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位学位記が、各研究科等の長から授与されました。

引き続き、17研究科等の博士課程修了者292名、論文博士18名を代表し、各研究科等の総代へ、山口佳三総長か

ら博士学位記が授与されました。

この後、総長告辞があり、最後に北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。

翌3月24日（金）には、フォーポイントバイシェラトン函館において、水産科学院の修士課程修了者84名を代表し、各専攻の総代へ水産科学院長から修士学位記が、また、博士課程修了者7名、論文博士1名に対し、山口総長から博士学位記が授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士授与者数は以下のとおりです。

博士学位記授与者については、本号55ページに掲載しています。

（学務部学務企画課）



学位記を受ける総代



水産学部応援団のエール

学部別卒業生数一覧

学部名	卒業生
文学部	184
教育学部	59
法学部	200
経済学部	192
理学部	287
医学部	289
歯学部	38
薬学部	80
工学部	687
農学部	223
獣医学部	39
水産学部	190
計	2,468

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
文学研究科	79	法科大学院（法学研究科法律実務専攻）	45
法学研究科	12	経済学研究科会計情報専攻	12
経済学研究科	32	公共政策学教育部公共政策学専攻	42
医学研究科	15		
情報科学研究科	171		
水産科学院	84		
環境科学院	138		
理学院	114		
農学院	139		
生命科学院	122		
教育学院	43		
国際広報メディア・観光学院	45		
保健科学院	57		
工学院	316		
総合化学院	139		
計	1,506	計	99

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
文学研究科	18	3
法学研究科	2	0
経済学研究科	5	1
医学研究科	59	2
歯学研究科	24	1
獣医学研究科	10	1
情報科学研究科	35	0
水産科学院	7	1
環境科学院	20	2
理学院	19	1

研究科等名	課程博士	論文博士
農学院	17	4
生命科学院	26	2
教育学院	3	1
国際広報メディア・観光学院	1	0
保健科学院	4	0
工学院	19	0
工学研究科	1	0
総合化学院	29	0
計	299	19

## 学士学位記授与式

北海道大学総長 山口 佳三

平成28年度学士学位記授与式を迎えられました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、これまで皆さんを物心両面から支え、励ましてこられたご家族や関係者の皆様に対しまして、北海道大学の教職員を代表して心よりお礼とお祝いを申し上げます。

本日、晴れて本学の学士学位記を授与され巣立っていかれる卒業生は、12学部合わせて2,468名で、このうち女性が735名、留学生が18名です。留学生の皆さんにとって、環境も習慣も異なる異国の地での生活は、大変であったろうと思います。本日、無事に卒業の日を迎えることができましたことを、心より嬉しく思います。

卒業生の皆さんが北海道大学で過ごされた4年ないし6年の生活は、いかがでしたでしょうか。皆さんの中の多くの人は、本学における総合入試による卒業生です。皆さんは、1年生では、総合教育部で学部を超えた仲間との学びを経験されました。そうした皆さんが、入学前に抱いていた夢や希望あるいは期待は、実現できたでしょうか。夢がかなったという人、多くの友人を得たという人、クラブやサークル活動で充実した日々を過ごしたという人もいるでしょう。一方で、辛い思いをし、悩み、挫折を味わったという人もいるかもしれません。今、学士の課程を終え、卒業という節目を迎え、これまで自分の歩んできた道を振り返る良い機会であろうと思います。

皆さんは、北海道大学の教育研究の基本理念が、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」そして「実学の重視」の4つであることをよくご存知だと思います。このような理念の下で学ばれた皆さんは、高邁な大志と国際的な視野を持ち幅広い教養を通して、自ら考え行動できる能力を養ってきたはずです。このエルムの学園での学びの時を振り返って、次のステップへの糧としてください。

さて、卒業後の皆さんは企業に就職する人、国や地方の公務員として働く人、専門的知識と技術を持って医療の世界へ進まれる人、あるいは大学院に進学される人など、それぞれの進まれる道での活躍が期待されています。また、皆さん一人ひとりが大きな期待と同時に、若干の不安を抱かれています。

ここで、皆さんが巣立っていかうとされております社会の、ここ何年かの状況を振り返りたいと思います。6年前の2011年には、東日本大震災が発生し、東日本の広範囲が未曾有の被害を受けました。皆さんの中にも、大変な時を経験された方もいらっしゃいました。それまで、リーマンショックによる世界的な経済の冷え込みのため、停滞を余儀なくされていた日本の社会は、さらなる困難の時を迎えました。その中で、被災者の振る舞い、阪神大震災の教訓をも生かした社会のいろいろな階層からの支援の取り組みは、日本の社会に前途への明るい光となりました。さらに、政権も変わり、2012年の末以来は、アベノミクスが登場し、経済的にも不況脱出の可能性が見えてきたとされておりましたが、昨年は、日本初となるマイナス金利の導入や消費税増税の見送りが決定されるなど、不安定な経済状況となっています。また、記憶に新しいところでは、昨年4月に熊本地震が発生し、8月には北海道にも3つの台風が上陸するなど、我が国は再び壊滅的な被害を受けました。一方、世界に目を向けますと、日中韓の政治的摩擦、移民問題を含めた中東情勢、さらにはイギリスのEU離脱やアメリカにおける政権交代といった世界の政治状況が、日本国内の将来の動向を左右しています。

こうした状況の中でも、私は、皆さんが時代に流されないしっかりと指針を持って、これから踏み出される人生を歩んでほしいと願っています。その意味で、今から述べる2つのことを是非、心に留め置いてほしいと思います。

その一つは、生涯にわたって学ぶ姿勢を身に付けることです。皆さんを取り巻く現代社会において、技術革新の流れは一段と速まり、ここ10年のITの発展は、通信手段、情報発信のありようを個人のレベルでも一新させましたし、近年のAIの著しい進歩により、その勢いはますます加速していくことでしょう。それによって、皆さんが身に付けるべき素養・知識も一変したといえます。大学で学んだことも、これから大学院に進んで修得する学問・技術も、日進月歩で進化し、10年後には、最早通用しない知識・技術となっているでしょう。ですから、皆さんは生涯学び続ける習慣を、必然的に身に付けなければなりません。そして、自ら学ぶことの大切さを体得した人は、これからの未来を自力で切り拓いていけるでしょう。また、学び続けることは、絶えざる自己革新を求めることでもあり

ます。フロンティア精神を持ってこれからの人生を切り拓いてください。

2つ目に、心に留めてほしいことは、これからの人生を、常に社会と向き合って歩むということです。皆さんはこれまで、それぞれの家庭、学校、学部という環境の中で、生まれ、自己研鑽を積まれてきました。その歩みは、しばしば受け身なもので、自己を見つめることに偏っていませんでしょうか。そして、大学の学びの中で、自己を点検し、社会の中での立ち位置をも探し求めてこられたことと思います。そうした皆さんが、社会に踏み出さんとするこの時、これからは、自分を育ててくれた社会にどう関わられるのか、どんな貢献ができるのかを常に問い続けてほしいと思います。時代と共に、社会の様相は絶え間なく変化します。その中であって、しっかりと自らの立ち位置を点検し、自らの進路を切り拓いて、社会との関わりを求めてください。そして、社会への貢献を常に意識してください。

本日、学位記授与式を迎えられた皆さんにとって、北海道大学での学びを通して得た知識や能力、課外活動等で得た経験、そして何よりも学生生活の中で得た生涯の友となる友人は、これからの皆さんの歩みの糧であります。こうした糧を胸に、巣立っていかれる皆さんには、行かれた先に、学部ごと、あるいは地域の北大同窓会もあります。こうした同窓生との交わりをも通して、母校である北海道大学のこと、皆さんの後輩のことも思い出してください。

最後になりますが、皆さんが、夢と勇気と大志を持って、新しい船出をされることを祈念しております。皆さんの母校である北海道大学もさらなる国際化と、「世界の課題解決に貢献する大学」たることを目指して挑戦することを約束して、告辞の結びとします。

## 学士学位記授与式

北海道大学校友会エルム会長 石山 喬

ただ今ご紹介いただきました北海道大学校友会エルム会長の石山です。

皆さんご卒業おめでとうございます。今年も男性の黒い服装の中に女性の色とりどりの綺麗な装いが、野山に桜が咲き誇っているような景色で、私も心が浮き立ち、皆さんと一緒に大きな声で「おめでとう」と叫びたいと思います。

今年には2,468名の同窓生を新しく迎えることができ大変嬉しく思いますし、また15名の新渡戸カレッジ修了者ができたことも嬉しく思います。本当によく頑張ってくれました。

このところ世界の情勢は、イギリスのEU離脱、アメリカのトランプ大統領の就任等騒がしい状況が続いておりますが、日本は安倍政権が非常に安定した体制を保ち、社会が平静を保ち、景気も緩やかに上昇を続けているように思います。今年の企業研究会にも昨年を越すような企業の参加をいただいておりますし、就職戦線は売り手市場が続いています。今年就職される方達はぜひいぶん楽に企業を選ぶことができたのではないかと思いますし、大学院に進まれる方達も大震災のようなことが起きない限り良い状況は続いていくと思います。

私はちょうど50年前に卒業し、日本軽金属株式会社というアルミ関連企業に入社し、現在も働いています。その頃はアルミの需要が大変伸びていて、各企業とも工場増設の真最中でした。当社でも苦小牧工場の建設が始まり、寒さは大丈夫だろうということで、その建設工事に配属されました。アルミ製錬の工場建屋は500mもあるような大きな工場です、お昼の食堂に行くのも工学部からクラーク会館の食堂まで食べに行くような工場です。このような社運を賭けた工場も数年後に起きたオイルショックであつという間に赤字に転落し、アルミ製錬は成り立たなくなってしまいました。そして日本からは全てのアルミ製錬は姿を消していきました。その後当社は海外からアルミ素材を輸入し、その加工製品に大転換してきました。日本の新幹線ボディーは殆どがアルミできていてその70%以上を当社が供給していますが、そのアルミ原料はドバイから輸入しています。そしてジャパンアズNO.1と言われたバブル景気で日本中が踊りまくった時代と、その後の長いデフレ時代が続き、そこから抜け出そうになってきた時にリーマンショックと大震災が発生し、また日本の経済は停滞してしまいました。このところ、第2次安倍政権のアベノミクス

により緩やかに良い状況へと上昇を続けています。このような経済環境の中で会社が潰れそうになった時代もありました。その都度、その時自分が率いているチームを何とか前向きな気持ちで引っ張っていかうと考えてやってきて、リーマンショックの時には会社全体が自分のチームになっていました。

今考えますと、この苦しい時を乗り越えてきた自分の行動理念は北大の4つの建学の理念そのものでした。この4つの理念を私はどのように考えて行動してきたかを皆さんにお話ししようと思います。

フロンティア精神について

現状を打破しようと考えたら、今まで経験のない世界、人のやったことのない世界へ挑戦する勇氣が必要です。人の性格を見ていると、攻めタイプと守りタイプがあり、圧倒的に守りタイプの人が多いと思います。しかし新しい世界を切り開くのは、リスクを背負いながら攻めていく人でなければできません。

また組織の中で今までと違うことを行おうとすると、抵抗勢力が沢山出てきます。これが守りタイプの人を多くする大きな原因ですが、これも乗り越え、勇氣と情熱と執念を持って新しい世界へチャレンジするのがフロンティア精神だと思います。

国際性の涵養について

短期留学の皆さんのレポートを読むと、最初はおっかなびっくりで入っていくが次第に慣れてくる様子がうかがえます。言語ができるに越したことはありませんが、何処に行ってもどんな色をしていても人間は人間だということにすぐ気づくと思います。そこにいる人や文化を大切にすることのできる人は必ず受け入れてもらえます。特に食べ物です。変な食べ物でも現地の人が好んで食べるものをおいしいと言って食べると、すぐに仲間に入れてくれます。胃袋の強さも強力な武器です。良い人間関係ができればいろいろなことがスムーズに進みます。この現地の人を大切に、現地の文化を大切にすることを基本として、私の会社は中国、東南アジア、フランス、アメリカ、メキシコへと展開しています。

全人教育について

国際性にも通じるとは思いますが、人を大切にできる心を養うことだと思います。すべての物事は一人ではでき上がる

ものはありません。全てチームででき上がっています。今までチームスポーツやサークル活動を行ってきた人はよくわかると思うのですが、どのチームにもエースやピースやシースがいます。しかしエースだけではゲームになりません。各自の持ち場もちばで、それぞれの機能を発揮していただき、チームとしてのパフォーマンスを最高のものにしていくことのできるリーダー、あるいは自分の立場を理解し、チームの要として行動できる人作りが目的だと思います。

#### 実学の重視について

私達の製造業では商品設計や製造設備の設計では学問として学んだことが沢山使えますが、実際に物を作っていく場合には、原材料の安定性や人の関与などが加わってきます。またロボットを使う場合でも環境条件の変化や劣化により精度がずれてくることがあります。高価な分析機器やセンサーを使ったり、ビデオカメラで撮影したりしても発見できない不具合もあり、設備の前に1週間くらい座り込んで五感を働かせて変化を感じ取ることもあります。このような場合には、豊富な現場経験から来る気づきが大切です。実際、新しい理論もミスをした実験や現場における不思議な現象から発展することがよくあると言われていています。観察力とその分析力のある人は製造現場の先生です。

これらの考え方が私の事業経営において大きな指針となっておりました。

あと一つこれから社会に出る皆さんへ心に止めておいていただきたいことがあります。

それはコンプライアンスと言われるものです。企業の社会的責任と訳せば良いと思います。最近色々な大企業の重大なコンプライアンス違反が報告されています。これらは殆どが性能とか業績を水増ししたことによって発生した不祥事です。そして組織を守るために行ったような言い訳が出てきますが、本当は自分の地位や体面を守りたいがためと思われる。

この不祥事にトップの指示が絡んでいると大変な状況になります。トップの指示に、社内ではこれはおかしいという声を上げるのは大変勇気が必要な上、声を上げてもつぶされてしまうことが往々にあるからです。現在ほとんどの企業でホットラインと称して外部の弁護士に直接セクハラ、パワハラ、コンプライアンス違反等を訴えられる制度を設けていますが、上層部が絡んだコンプライアンス違反は表に出てくるまでに時間がかかってしまいます。しかし早く正さないと企業は存続の危機に陥ってしまいます。皆さんも社会に出られたら偉そうに権威を振りかざす上司がいるかどうかよく観察してください。下っ端の管理職であればそれほど問題はありますが、このような人が上の方にい

ますと危ないです。

この中には将来社長になる人もたくさんいると思います。トランプさんそれは間違いですよと誰でも何時でも言える組織を作ることが大切です。そして不祥事への対応として、社長であれば私は知らなかったと言ってはいけないのです。トップはその組織の歴史を背負うものです。たとえ自分が知らなくても現在のトップがその責任を負わなければ、組織として責任を負う人はいなくなってしまう。またトップは人に仕事を任せるときは「この人が最適だと考えてこの仕事を任せ、その結果間違いが起こってもそれは全て自分の責任です」と答えるような覚悟を持っている上司に必ず人は着いてきます。

皆さんご存じのように、昨年6月に連合同窓会は校友会組織に改組し、現役学生、大学職員、父母を含む北大関係者全てが加入できるものとなりました。また、校友会メンバーは学部や地域同窓会に登録することにより、全国及び海外にある同窓会に参加していただけます。校友会では学生の就職支援及び先輩からのアドバイス、就職後の転職支援、寄附金集め、インターンシップ、海外インターンシップ、新渡戸カレッジフェローの推薦、ホームカミングデーへの協賛等多くの活動を行っていきます。地域同窓会では各種イベントが行われますが、若い人達に幹事を務めていただくようにしています。私達年寄りはその人たちの指示によって人集めや寄附金を出す役割です。校友会の活動は全てボランティア活動ですので、全ての活動が参加する皆さんの自由意思です。この人達を組織し活動を進めるのは幹事にとって大変な努力が必要です。これに比べれば会社の組織を動かすのは全く簡単なものです。社会のリーダーになる大変良い経験ができると思います、このような仕組みで活動をしていただいています。皆さんもぜひ校友会に参加して、色々な世界で活躍されている先輩達と交流を深めてください。会社の中では簡単に話ができないようなトップの方達ともここで会い、都ぞ弥生と一緒に歌えば、近所のおじさんのような付き合いができること請け合いです。

皆さんが大きな夢を抱き、日本、世界のために活躍していただくことを祈念して、私の挨拶を終わらせていただきます。



# 平成29年度入学式の挙行



総代による入学者宣誓

平成29年度の入学式を、4月7日（金）に札幌コンベンションセンターにおいて執り行いました。

式は、来賓の校友会エルム会長の石山 喬氏、大津市長の越 直美氏、中華人民共和国、ロシア連邦及びオーストラリア連邦領事館からの代表者、丹保憲仁元総長並びに理事、副学長、監事及び部局長の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏により開始され、名和豊春総長から新入生に対し告辞が述べられました。

はじめに、名和総長は告辞の中で、本学の概要について歴史的経緯を含めて紹介され、ぜひ本学のスケールの大きさを味わってほしいと述べました。

続いて、科学技術が急速に発展し、グローバル経済の中で急速に情報が世界中に拡散する状況においては、様々な新しい現象や変化が問題となり解決を求められるが、自ら考え、新しい状況を理解し、その理解に基づいて問題を解決する必要があることから、単なる知識の修得ではなく、ぜひ考え方や思考法を身に付けてほしいと述べま

した。

さらに、そのためには基礎となる幅広い知識を学び、自由自在に取り扱えるようになる必要があるが、これは、札幌農学校の「全人教育」の建学の精神に則ったものであること、本学がその「全人教育」の伝統を保ち続けてきたことを本学の一員として知っておいてほしいと述べました。

その後、新入生は、最初の1年間、総合教育部に籍を置き、様々な学問分野の問題や知見に触れながら教養を培うこととなるが、これにより2年次以降の専門課程における修学も実を深めることとなり、また、自ら考えることを可能とするものであることから、総合教育部での様々な講義を通じて教養教育を受けることにより、自ら学ぶという姿勢を会得してほしいと述べました。

そして最後に、現代は、グローバルなフィールドで主体的に構想し、問題解決や変革を主導できる人材が求められることから、「新渡戸カレッジ」への積極的な参加により、海外の異なっ

た考え方や価値観を理解することにより、グローバル人材として成長し、世界で活躍してほしいと激励の言葉を述べました。

続いて、留学生39名を含む2,602名の入学者を代表して、杉本紫織さんによる入学者宣誓が行われました。

その後、来賓、本学理事、副学長、監事及び部局長の紹介と続き、北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で式は終了しました。

入学式終了後には、名和総長から父母等に向けた挨拶が行われた後、本学卒業生である、大津市長の越氏から「本学卒業生からのメッセージ」としてご講演いただき、引き続き、長谷川晃理事・副学長から「北大生活を送るにあたっての心構え」についてのガイダンス、北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」及び「Ride the Chariot」の合唱が行われ、全ての行事が終了しました。

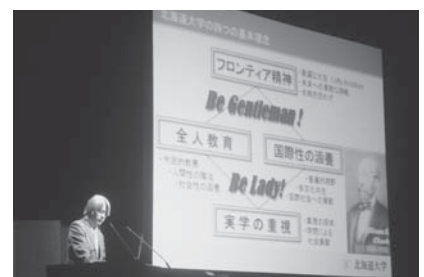
(学務部学務企画課)



告辞を述べる名和総長



越氏から後輩へのメッセージ



長谷川理事・副学長によるガイダンス

# 入 学 式

北海道大学総長 名和 豊春

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

この春、北海道大学は、2,700名を新入生として迎えました。

希望とエネルギーに満ち溢れた皆さんが北大に入学されたことを、北大を代表して、心から歓迎いたします。

皆さんが入学された北大は、今から141年前の1876年に、北海道の開拓の任に当たる人材を育成するため、明治政府が欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して設立した「札幌農学校」が、創設の起源です。

当時は、明治維新を経て、我が国が近代国家へ歩み始めた時期であり、東京大学をはじめ幾つもの大学が、同じ時期に実学を重視した、国家と産業の近代化を担う人材の育成を目指し、その礎を築きました。

しかし、札幌農学校では、実学の農学だけではなく、アメリカのリベラルアーツ教育が行われ、数学、化学、生物学から語学、歴史、経済学まで幅広い基礎教育が実施されていました。そこでは、人間形成の基となる幅広い教養を培う「全人教育」の実施のみならず、未踏の学問領域を積極的に探求する「フロンティア精神」を持つこと、国際性や多様性への柔軟な感受性を育成する「国際性の涵養」を行うこと、そして、物事の本質を見極め、それを社会に活かす実のある研究を進める「実学の重視」を念頭に置いた教育が実践されました。

皆さんは、今日、北海道大学の学生として、この建学の精神を引き継ぐアカデミック・コミュニティの一員となったのです。

北海道大学は、我が国の基幹総合大学の一つであり、12の学部、21の大学院、3つの専門職大学院を有し、日本全国はもちろん、80カ国を超える世界中から集った約1万8,000名の学生がキャンパスで学んでおり、文字通り、世界に開かれた大学です。

キャンパスは、札幌の中心部に位置し、日本でも有数の規模を誇る緑豊かな札幌キャンパスのほか、函館キャンパス、全国6カ所にある広大な研究林、臨海・臨湖実験所、果樹園、植物園、牧場など、実に660km<sup>2</sup>、札幌市の面積1,121km<sup>2</sup>と比較すると、札幌市の約60%にのぼる土地、そして練習船2隻をも有しており、自然に恵まれた環境の中で世界的なレベルの教育・研究が行われています。皆さんには、北大キャンパスを、できる限り歩き、改めて北海道大学のスケールの大きさを味わってもらいたいと思います。

大学生の時代は、人生の中でもっとも自由な時間を享受でき、自分の可能性を無限に試すことができるかけがえの

ない時期です。しかし、科学技術が急速に発展し、グローバル経済の中で世界中に拡散する状況の中では、様々な新しい現象や変化が問題となり、皆さんにはそれを解決することが求められています。このような状況では、過去の延長線上で物事を考え、問題を解決することは難しいと言えます。

すなわち、自らの頭で考え、新しい状況を自ら理解し、その理解に基づいて問題を解決しなければなりません。解決策を過去のデータから探すのではなく、自らが解決策を創ることが求められます。

既存の価値や思考方法自体を疑い、それを変え、時には壊していくことが「考える」ということです。「考える」ためには、既存の価値や思考方法に拘束されてはなりません。この「考える」という営みのためには、大学が自由でなければならないことを誰もが認めていたことに、大学が存在する特異性があります。

ぜひ、単なる知識の修得ではなく、考え方、思考法を身に付けてください。そのためには、問題となっている現象や変化がどのようなものであり、どこで生じているのか、皆さん自らが考えるべき問題を特定し、自ら問題を解決する論理を組み立て、次にその論理が正しいかを確認し、その解決策を実行していかなければなりません。これが大学で学ぶ学問の方法論そのものです。すなわち、自ら考えるべき問題を研究課題とし、問題を解析し、説明しうる仮説を作り、その仮説が正しいかを実験や統計さらには、過去の文献等を用いて検証し、正しい結論を導くわけです。

しかし、大学で研究を開始するまでには、その基礎となる幅広い知識を学び、自由自在に取り扱えるようになる必要があります。これは、札幌農学校の「全人教育」の建学の精神に則ったものであり、北大がその伝統を保ち続けてきたことを、北大の一員として知っておいてほしいと思います。

新入生の皆さんは、最初の1年間、高等教育推進機構に籍を置き、文系と理系に大きく分かれて、様々な学問分野の問題や知見に触れながら、自らの関心を広げ、個々に修学のスタイルを作っていくことになります。

このようにして教養を培うことを基礎としてこそ、各学部の専門課程における修学も、実を深めていくことができるのです。また、これは皆さんが自らの頭で考えることを可能とし、さらに各人の将来の人生設計へとつながっていくのです。様々な講義を通じた教養教育を受けながら、自らが学ぶという姿勢を会得してください。

札幌農学校では、先ほど述べた幅広い素養を身に付ける教育の実施だけではなく、「Be gentleman!」の一言を校則とし、学生の自律心、独立心を目覚めさせました。皆さんも「Gentleman」、現代版の「Ladies and Gentlemen」の意味を自ら追い求め、その答えを見いだしてください。北海道大学は、皆さんを一個の自律した人格として尊重し、敬意をもって接します。また、皆さんに対しても、そのような個人の自覚と責任を求めたいと思います。

これから、様々なバックグラウンドや希望をもった仲間たちと共に修学します。そして広大で美しいキャンパスでは、講義はもとより、様々な行事、あるいは部活、サークル活動などを通じ、交流を深め、互いに切磋琢磨しあい、友情を育むことができます。グローバル化が急速に進み、インターネットが世界の各地を一瞬で結び付ける現在にあっては、グローバルなフィールドで主体的に構想し、多様な人々の理解と共感を得ながら、問題解決や変革を主導できる人材が求められます。

そのためには、英語を中心とする外国語によるコミュニケーション能力と異文化理解が欠かせません。北海道大学では、平成25年度から英語で学び異文化を理解する能力を身に付けることができる「新渡戸カレッジ」を開校しました。そこでは、海外留学を経験させて、グローバル社会で活躍できる人材を養成しています。

皆さんには、この「新渡戸カレッジ」に積極的に参加し、海外の異なった考え方や価値観を理解し、グローバル人材として成長し、世界で活躍してほしいと願います。

未踏の地にその一步を踏み出すこととなった皆さんに、札幌農学校のクラーク先生が残された「Boys, be Ambitious」を現代版に改めた「Girls and Boys, be Ambitious (少年・少女よ大志を抱け)」の言葉をお贈りし、私の告辞といたします。

# 平成29年4月 教育研究組織の改革

総長直轄の教育研究組織である国際連携研究教育局（GI-CoRE）における国際連携研究・教育の成果を大学院教育へと発展させるべく、4月1日（土）、以下のとおり3学院が設置されました。

また、これに伴い、4研究科が学院・研究院化されました。今後も、世界の課題解決に貢献する人材を養成できるように、教育研究組織の整備を実施してまいります。

◆教育組織の改革

<http://www.hokudai.ac.jp/introduction/reform/>

（総務企画部企画課）

【新設】

- 医理工学院
- 国際感染症学院
- 国際食資源学院

【学院・研究院化】

- 経済学研究科 → 経済学院・経済学研究院
- 医学研究科 → 医学院・医学研究院
- 歯学研究科 → 歯学院・歯学研究院
- 獣医学研究科 → 獣医学院・獣医学研究院

## 教育関係共同利用拠点に再認定

4月1日（土）より、北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーションと水圏ステーション（厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所）が、教育関係共同利用拠点として文部科学大臣から再認定されました。

教育関係共同利用拠点とは、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくことを目的に、各大学が保有する施設を他大学も利用できる制度のことであり、本学は全国最多となる以下の5施設が拠点と

して認定されています。

同制度の活用により、今後も活発な学生交流が行われることが期待されています。

（総務企画部企画課）

認定年度	施設名	拠点名
平成27～31年度	北方生物圏フィールド科学センター 水圏ステーション（白尻水産実験所、七飯淡水実験所、忍路臨海実験所）	食糧基地、北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同利用拠点－多様な水産資源を育む環境でのフィールド教育－
平成27～31年度	高等教育推進機構（高等教育研修センター）	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
平成28～32年度	水産学部附属練習船 おしよろ丸	亜寒帯海域における洋上教育のための共同利用拠点（再認定）
平成29～33年度	北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション	フィールドを使った森林環境と生態系保全に関する実践的教育共同利用拠点（再認定）
平成29～33年度	北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション（厚岸臨海実験所、室蘭臨海実験所）	寒流域における海洋生物・生態系統合教育の国際的共同利用拠点（再認定）

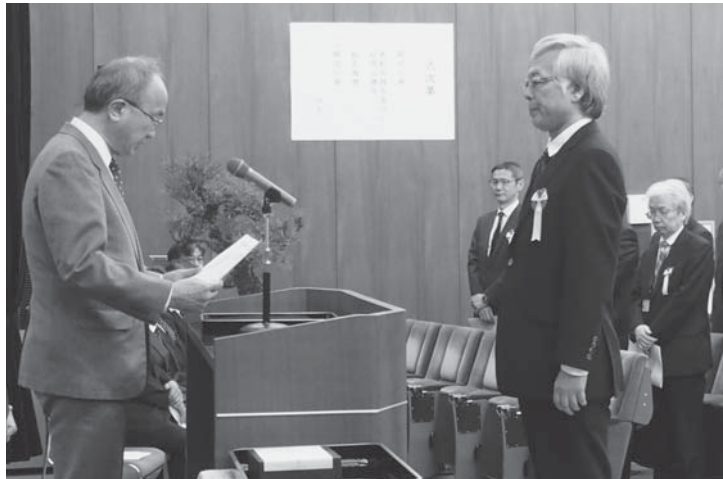


森林圏ステーション（雨龍研究林での実習）



水圏ステーション（厚岸湾での実習）

# 本学永年勤続者表彰に96氏



山口総長から表彰状の授与

平成29年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された方々に対する本学永年勤続者表彰式を、3月31日（金）に学术交流会館小講堂で行いました。

表彰式は各部局長等列席のもとに行われ、永年勤務し退職された方々96氏の代表として、工学研究院教授の岡田

成幸氏に、山口佳三総長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで、山口総長から、被表彰者の方々の本学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

引き続き、同会館第1会議室におい

て祝賀会が催され、被表彰者と関係部局長等が、思い出話に和やかなひとときを過ごしました。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

## 北海道大学永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所 属	氏 名	所 属	氏 名
総務企画部	平 林 晴 樹	医学研究科	佐々木 秀 直
〃	管 野 一 徳	〃	佐 藤 松 治
〃	池 田 光 雄	〃	石 川 季子夫
学務部	吉 原 春 之	歯学研究科	柴 田 健一郎
〃	今 野 康 二	〃	小 林 國 彦
施設部	長谷川 裕	獣医学研究科	片 倉 賢
〃	中 谷 康 範	〃	西 村 信 毅
附属図書館	富 田 健 市	情報科学研究科	原 口 誠
〃	菊 池 健 二	〃	山 本 強
〃	長 井 伸 一	水産科学研究院	荒 井 克 俊
文学研究科	望 月 恒 子	〃	山 下 成 治
〃	山 田 友 幸	函館キャンパス事務部	佐 藤 公美子
〃	佐 藤 淳 二	地球環境科学研究院	高 田 壯 則
〃	松 江 崇	〃	坂 入 信 夫
〃	渡 邊 正 明	理学研究院	新 井 朝 雄
経済学研究科	西 部 忠	〃	稲 辺 保
医学研究科	有 川 二 郎	〃	喜多村 昇
〃	岩 永 敏 彦	〃	小 笹 隆 司

所 属	氏 名
理学研究院	鈴木 徳 行
〃	津 田 一 郎
〃	日 夏 幸 雄
〃	今 川 敏 明
〃	大 島 弘 光
〃	橋 元 明 彦
理学・生命科学事務部	藤 井 幹 彦
〃	間 口 久美子
農学研究院	川 村 周 三
〃	小 池 孝 良
〃	原 博
メディア・コミュニケーション研究院	長 井 裕 子
メディア・観光学事務部	植 西 勇 夫
保健科学研究院	良 村 貞 子
〃	井 上 馨
〃	千 葉 仁 志
工学研究院	船 水 尚 行
〃	岡 田 成 幸
〃	越 崎 直 人
〃	高 橋 正 宏
〃	近 久 武 美
〃	松 浦 清 隆
〃	鶴 飼 重 治
〃	岡 和 彦
〃	小 野 修 司
〃	大 島 正 裕
〃	松 尾 孝 之
〃	太 田 政 市
工学系事務部	多 谷 司
〃	高 橋 克 郎

所 属	氏 名
工学系事務部	泉 澤 芳 史
〃	押 田 亜 希
公共政策学連携研究部	石 井 吉 春
北海道大学病院	深 井 敏 隆
〃	洪 谷 かをり
〃	高 岡 勇 子
〃	小野塚 美 香
〃	浅 野 恵 子
〃	成 田 月 子
〃	水 口 美紀子
〃	下 道 寿 恵
〃	坂 本 治 子
〃	村 上 愛 弓
〃	椎 谷 美 香
〃	小 林 小百合
〃	斉 藤 祥 子
〃	中 村 和 洋
北海道大学病院事務部	大 石 和 博
低温科学研究所	田 中 歩
〃	中 坪 俊 一
電子科学研究所	熊 野 英 和
遺伝子病制御研究所	山 口 桂
触媒科学研究所	叶 深
情報基盤センター	小 宮 由里子
北方生物圏フィールド科学センター	植 村 滋
〃	門 松 昌 彦
〃	市 川 秀 雄
〃	假 屋 洋 人
〃	山 本 正 幸
総合博物館	高 橋 英 樹

(敬称略)

## 名誉教授に43氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月13日（月）及び4月19日（水）開催の教育研究評議会において、次の43氏に対し名誉教授の称号を授与することを決定し、本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月7日（水）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

### 北海道大学名誉教授

山口 佳三	（元総長，元大学院理学研究院教授）	新井 朝雄	（元大学院理学研究院教授）
三上 隆	（元理事・副学長，元大学院工学研究院教授）	津田 一郎	（元大学院理学研究院教授）
上田 一郎	（元理事・副学長，元大学院農学研究院教授）	稲辺 保	（元大学院理学研究院教授）
新田 孝彦	（元理事・副学長，元大学院文学研究科教授）	喜多村 昇	（元大学院理学研究院教授）
安田 和則	（元理事・副学長，元大学院医学研究科教授）	日夏 幸雄	（元大学院理学研究院教授）
山田 友幸	（元大学院文学研究科教授）	小笹 隆司	（元大学院理学研究院教授）
望月 恒子	（元大学院文学研究科教授）	鈴木 德行	（元大学院理学研究院教授）
佐藤 淳二	（元大学院文学研究科教授）	渡部 重十	（元大学院理学研究院教授）
仲 真紀子	（元大学院文学研究科教授）	原 博	（元大学院農学研究院教授）
西部 忠	（元大学院経済学研究科教授）	小池 孝良	（元大学院農学研究院教授）
有川 二郎	（元大学院医学研究科教授）	長井 裕子	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
岩永 敏彦	（元大学院医学研究科教授）	三神 大世	（元大学院保健科学研究院教授）
佐々木 秀直	（元大学院医学研究科教授）	良村 貞子	（元大学院保健科学研究院教授）
柴田 健一郎	（元大学院歯学研究科教授）	松浦 清隆	（元大学院工学研究院教授）
片倉 賢	（元大学院獣医学研究科教授）	鵜飼 重治	（元大学院工学研究院教授）
原口 誠	（元大学院情報科学研究科教授）	近久 武美	（元大学院工学研究院教授）
山本 強	（元大学院情報科学研究科教授）	岡田 成幸	（元大学院工学研究院教授）
荒井 克俊	（元大学院水産科学研究科教授）	船水 尚行	（元大学院工学研究院教授）
坂入 信夫	（元大学院地球環境科学研究科教授）	高橋 正宏	（元大学院工学研究院教授）
高田 壯則	（元大学院地球環境科学研究科教授）	田口 精一	（元大学院工学研究院教授）
古月 文志	（元大学院地球環境科学研究科教授）	石井 吉春	（元大学院公共政策学連携研究部教授）
		高橋 英樹	（元総合博物館教授）

## 野町素己准教授が日本学術振興会賞と日本学士院学術奨励賞を受賞

スラブ・ユーラシア研究センターの野町素己准教授が、第13回（平成28年度）日本学術振興会賞と第13回（平成28年度）日本学士院学術奨励賞を、本学で初めて同時に受賞しました。

日本学術振興会賞は、創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者に授与されるもので、今回は全国で25名が選ばれました。野町准教授は「カシュブ語を中心とするスラヴ諸語の形態統語構造ならびにその通時的・地理的变化に関する類型論的研究」により受賞となりました。受賞理由は次のとおりです。「カシュブ語はユネスコが認める消滅危機言語の一つであるが、これまでその音声学・音韻論、形態論、語彙研究に比して、形態統語論研究は進んでいなかった。野町氏は、徹底したフィールドワークで収集した現代カシュブ語の資料や通時的資料を駆使し、カシュブ語の形態統語構造の解明を飛躍的に進展させた。また、カシュブ語研究の方法論をルーマニア

語、セルビア語、ハンガリー語との接触がみられるブルガリア語バナト方言の研究にも適用し、言語変化が生じる背景と変化の帰結を解明しつつあり、言語類型論、言語接触論、社会言語学などの諸側面において、スラヴ諸語研究の深化に大きく貢献した」。

日本学士院学術奨励賞は、優れた研究成果をあげ、今後の活躍が特に期待される若手研究者に対して授与されるもので、日本学術振興会賞受賞者のうち6名以内に併せて授与されます。今回は6名が選ばれました。受賞理由は次のとおりです。「野町氏はこれまで研究の乏しかった、西スラヴ語群に属するカシュブ語及び南スラヴ語群に属するバナト・ブルガリア語について、優れた語学力を駆使して、これらの地域で精力的なフィールドワークを行い、貴重な資料を収集し、特に、形態統語論、言語類型論、言語接触論や社会言語学などの側面から、共時的・通時的に、詳細かつ精密に検討した。こ

れらの研究調査の成果は、多くの論文、著書として英語、セルビア語、ロシア語やポーランド語などで公刊されている。野町氏の業績はスラヴ語学界において国際的に高い評価を得ているのみならず、広く言語学一般にも寄与するもので、今後の発展が期待される」。

スラブ・ユーラシア研究センターでは、5月28日（日）に、野町准教授の同時受賞を祝う会をホテルマイステイズ札幌アспенにて開催する予定です。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



野町准教授

## 北海道大学と北海道テレビ放送株式会社が連携プログラム実施協定を締結

3月29日（水）、本学と北海道テレビ放送株式会社（以下、HTB）は連携プログラム実施協定を結びました。当日は、創成科学研究棟で締結式が行われ、川端和重理事・副学長、樋泉実HTB代表取締役社長が出席されました。

本協定は、「北海道を応援する」をテーマに、本学の教育・研究・地域貢

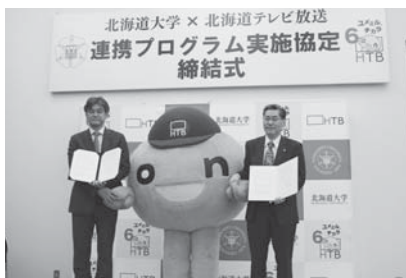
献という役割と、HTBの地域メディア活動という役割を、両者の密接な産学連携活動を通じて一体となって推進し、北海道の活性化に貢献することを目的としています。

協定は平成29年4月1日から開始され、コラボグッズの開発や、HTBのマスコットキャラクターである「onちゃん」が本学に特別学生として入学

し、様々な角度から北海道と本学を学び体験し、それぞれの魅力を道内外へ発信するなど、多様な取り組みを予定しています。

◆インスタグラム「onchan\_campuslife」  
[https://www.instagram.com/onchan\\_campuslife/](https://www.instagram.com/onchan_campuslife/)

（産学・地域協働推進機構）



締結の様子（左から川端理事・副学長、onちゃん、樋泉HTB代表取締役社長）



挨拶を行う川端理事・副学長



## 平成29年度北海道大学の予算

## 平成29年度北海道大学収入・支出予算書

(単位：百万円)

収 入				支 出			
事 項	前年度 予算額	29年度 予算額	増減額	事 項	前年度 予算額	29年度 予算額	増減額
[一般会計]	43,731	43,385	△346	[一般会計]	43,731	43,385	△346
運営費交付金収入	33,224	32,788	△436	財政課題対応経費（留保）	0	457	457
学生納付金	9,362	9,389	27	人件費	27,765	27,760	△5
雑収入	1,145	1,209	63	機能強化経費	629	687	58
				特殊要因経費	2,123	1,750	△373
				退職手当	1,976	1,467	△508
				建物新営に伴う設備費	10	55	45
				移転費	35	131	97
				PFI事業維持管理経費	101	93	△8
				土地建物借料	1	1	0
				災害支援関連経費	2	4	2
				調整費	200	200	0
				特定経費	3,176	2,804	△373
				電子計算機借料	280	252	△27
				電子ジャーナル経費	672	600	△72
				公租公課、保険料等	827	889	62
				燃料費	413	0	△413
				収入見合経費	985	1,062	77
				学長裁量経費	3,296	3,492	196
				学長裁量経費	2,240	2,240	0
				機能強化促進分	1,056	1,252	196
				基盤配分経費	6,541	6,236	△306
[病院会計]	30,883	31,363	480	[病院会計]	30,883	31,363	480
運営費交付金収入	3,003	2,670	△332	人件費	8,858	8,819	△39
附属病院収入	27,655	28,466	811	機能強化経費	931	649	△282
雑収入	225	227	1	病院診療経費	19,147	20,273	1,126
				債務償還経費	1,833	1,514	△319
				基盤配分経費	114	108	△6
[外部資金会計]	21,720	21,631	△89	[外部資金会計]	21,720	21,631	△89
施設費補助金等収入	1,602	1,402	△200	施設整備費	1,602	1,402	△200
保育園運営費補助金収入	95	93	△2	保育園運営費補助金事業費	95	93	△2
寄附金収入	2,306	2,513	207	直接事業費	17,495	17,409	△86
受託研究収入	6,035	6,231	196	寄附金事業費	2,258	2,460	202
共同研究収入	1,448	1,475	27	受託研究費	5,131	5,245	114
受託事業収入	838	1,000	162	共同研究費	1,330	1,356	25
大学改革補助金等収入	2,760	1,951	△809	受託事業費	826	984	158
文部科学省科学研究費補助金	6,355	6,723	368	大学改革補助金等事業費	2,759	1,945	△813
厚生労働省科学研究費補助金	222	177	△45	文部科学省科学研究費補助金	4,948	5,204	256
その他助成金等	60	66	6	厚生労働省科学研究費補助金	183	151	△32
				その他助成金等	60	63	3
				間接経費	2,528	2,727	199
				特定経費（電子計算機借料）	1,044	821	△223
				特定経費（燃料費）	232	554	322
				部局配分経費	1,253	1,353	101
合 計	96,335	96,379	0.0%増 45	合 計	96,335	96,379	0.0%増 45

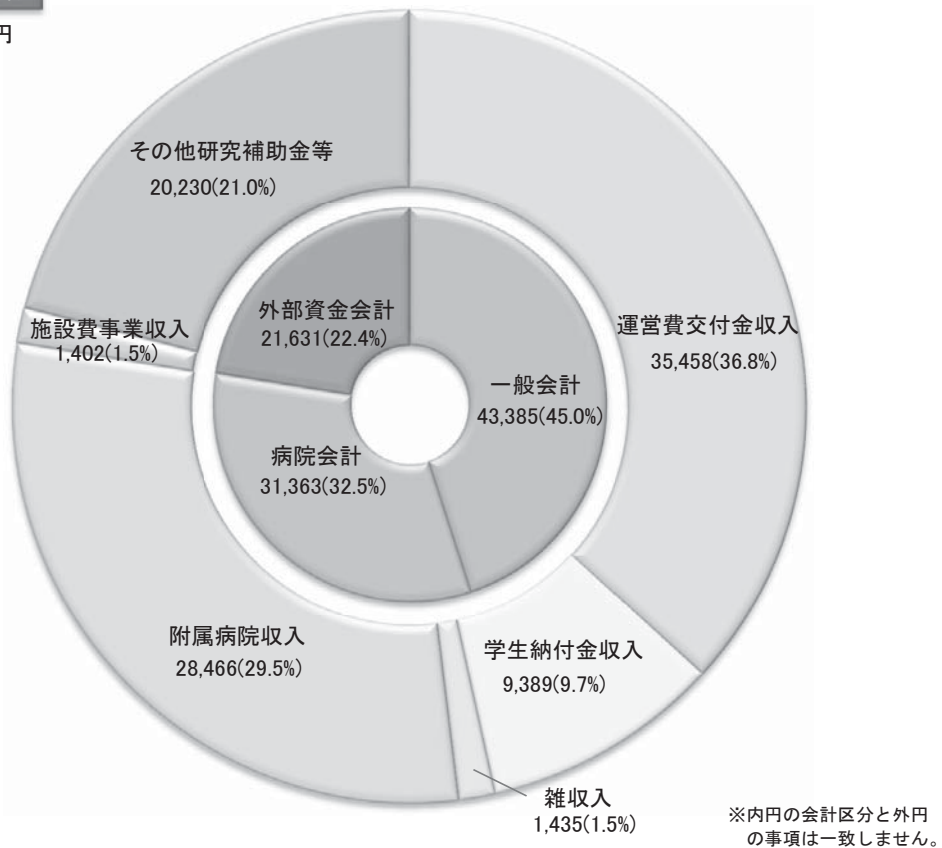
※項目ごとに四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

平成29年度北海道大学収入・支出予算（グラフ）

（単位：百万円）

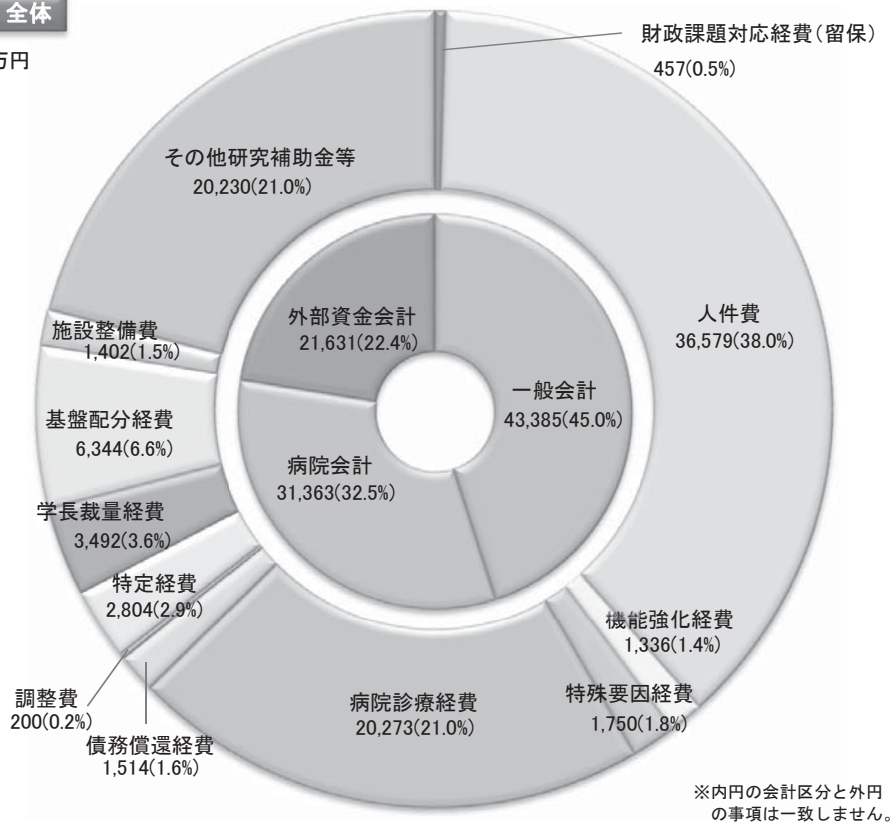
収入予算全体

96,379百万円



支出予算全体

96,379百万円



※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

**北大フロンティア基金情報**  
**基金累計額**（3月31日現在）

20,166件 4,135,350,564円

## 3月のご寄附状況

法人等11社、個人217名の方々から45,460,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

伊藤組土建株式会社、栄研化学株式会社、ANAホールディングス株式会社、寺田医院、北大医学部46期、北海道ガス株式会社、一般社団法人 北海道CGCみどりところの基金、北海道大学校友会エルム、株式会社三菱ケミカルホールディングス

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	石野 悟司	入澤 秀次	植松 史浩	梅本 幸男	江場 仁美	小倉 孝宏
小内 透	小原 大和	帰山 泰樹	帰山 雅秀	金川 眞行	河本 充司	日下 器	駒井 祥啓
斉藤 久	齋藤文志郎	佐々木一郎	三升畑元基	清水 智之	首藤 佳子	鈴木 章之	関 利盛
瀬名波栄潤	滝野沢清彦	武田 敏昭	土家 琢磨	寺澤 睦	豊田 威信	内藤 直樹	中川 翼
永田 泰浩	西河 琢	西山 雄一	野口 豪	八田 和夫	福島 菊郎	藤田 正文	堀 啓一
眞鍋 誠司	山内 隆嗣	吉田 広志	李 茵娜	和田 守史			

## 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

### （法人等）

ANAホールディングス株式会社、  
 一般社団法人 北海道CGCみどりところの基金、北海道大学校友会エルム、  
 株式会社三菱ケミカルホールディングス

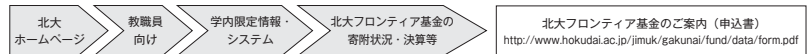
### （個人）

植松 史浩、梅本 幸男、帰山 泰樹、  
 福島 菊郎

### ご寄附のお申し込み方法

#### ①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



#### ②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

#### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部署事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

#### ④クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

## 新渡戸スクール修了式を挙行



修了生との記念写真

平成28年度新渡戸スクール修了式を3月21日（火）に、学術交流会館において執り行いました。

修了式は、新渡戸スクール1期生及び2期生の修了生46名のうち、17名が出席し、山口佳三校長から修了証書が授与されました。

山口校長は告辞の中で、「近年、グローバル化という言葉によって象徴される社会の急激な変化に対応するため、個々の専門性を超えてチームで問題に立ち向かい、新たな社会的価値を生み出すことができる人材の必要性が高まっている」ことに触れ、修了生に対し、「新渡戸スクールにおける学び

と経験をもとに、本学と世界をつなぐネットワークのハブとなり、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを願っております」との激励の言葉を贈りました。

最後に、修了生代表挨拶として、1期生代表の岩田渉廣さん、2期生代表の笹岡友季穂さんが、新渡戸スクールで学んだ経験や今後の抱負などについて英語で挨拶を行い、修了式を終えました。

修了式後には、スクール1期生、2期生の交流イベントとして、パネルディスカッション「新渡戸スクールの可能性～スクール生からの提言～」を



山口校長による告辞



修了生代表の挨拶

開催し、新渡戸スクールとスクール生の将来像について、意見交換及び交流の機会となりました。

（学務部学務企画課）

## 平成28年度新渡戸カレッジ修了祝賀会を挙行

学部横断型特別教育プログラムとして平成25年4月にスタートした新渡戸カレッジは、初めての修了生となる第1期生15名（男子8名、女子7名）に修了証書並びに称号を授与しました。

新渡戸カレッジの修了要件は、新渡戸カレッジカリキュラム15単位（留学を含む）を修得し、各学部等における通算GPAが上位50%以内、外国語能力TOEFL-iBT80点以上相当の全ての要件を満たすものであり、この度修了した新渡戸カレッジ生は学部での専門学修との両立が困難な中、各自ハードルを乗り越えました。

3月23日（木）の学位記授与式では、新渡戸カレッジ生総代として文学部の柴田翔平さんに15名を代表して修了証書が授与されました。同日、遠友学舎において新渡戸カレッジ修了祝賀会及びフェロー謝恩会を開催しました。石山 喬新渡戸カレッジ副校長を

はじめ、新渡戸カレッジ創設と同時に就任され、4年間カレッジ生を見守り続けて来られた本学同窓生フェロー6名が学位記授与式及び修了祝賀会に出席され、お祝いに駆けつけました。

修了祝賀会では、最初に山口佳三新渡戸カレッジ校長から祝辞があった後、新渡戸カレッジでの学びの労いが述べられ、「新渡戸カレッジ修了第1期生の皆さんが元気にご活躍されることが、新渡戸カレッジをはじめ北海道大学で学ぶ後輩に大きな勇気を与えることとなります」というメッセージが伝えられました。

次に、新渡戸カレッジ修了生の答辞として柴田さんから挨拶がありました。柴田さんは「ものごとを徹底的に考え抜く力が鍛えられ、これは大学での様々な経験で学んだことと組み合わせることで、現実の問題に対しても多様な観点から鍛えられたという意味に

おいて、社会に貢献するための礎になったと考えています」と語りました。

引き続き、フェロー謝恩会では修了生の謝辞として工学部の春日 遥さんから挨拶がありました。春日さんは「多様な分野で第一線として活躍されているフェローから沢山の助言をもらい、力になりました」とお礼を述べました。

最後は、石山新渡戸カレッジ副校長から激励のお言葉がありました。石山副校長は修了生に「4年間本当に辛抱強くよく頑張りました。カレッジで学んだことは必ず今後の糧になります」と語られました。

引き続き行われたフェロー謝恩会には新渡戸カレッジ在校生もお祝いに駆けつけ、修了を祝福するアットホームな雰囲気の中、閉会しました。

（学務部学務企画課）



修了証書を授与される柴田さん



山口校長による祝辞



修了生答辞



修了生謝辞



石山副校長による激励のお言葉



フェローと修了生

## 平成28年北大えるむ賞授与式を挙行



受賞者記念撮影

3月22日（水）、総長室において、平成28年北大えるむ賞の授与式を行い、山口佳三総長から賞状の授与と記念品が贈呈されました。

北大えるむ賞は、平成9年度に本学の伝統である全人教育の充実のため、学生の健全な課外活動及び社会活動等を積極的に支援し、その振興と活性化を図ることを目的として創設されたもの

のです。

本学の学生を対象として、国際的・全国的規模の競技会等に参加し優秀な成績をおさめ課外活動の振興に功績があったもの、社会活動において優れた評価を受けたもの、自己研鑽並びに他の学生の指導などに優れた評価を受けたものなどに対して表彰しているもので、今回は、応募のあった12件から4

件が決定されたものです。

引き続き懇談会が催され、山口総長と受賞者の和やかな歓談の後、山口総長から受賞者へ労いと激励の言葉があり、受賞者は今後の更なる活躍を誓いました。

(学務部学生支援課)

### 受賞団体・個人と受賞理由

#### ◆ 団体

○山岳部

カムチャツカ半島スレディニー山脈北部において、スキーでの縦走形式によって約300kmの登山遠征に成功。

○HALCC

津別町を舞台に観光、特産、教育の3分野について実地調査を行い、成果報告を発表し、自治体へ政策を提言。

活動の総括として札幌においてシンポジウムを開催し、調査結果を一般にフィードバックするとともに、若い世代に地方創生を考える機会を提供。

#### ◆ 個人

○長谷川 桃子

「第48回全日本歯科学学生総合体育大会陸上競技部門」に出場し、女子の部における砲丸投、円盤投、やり投の3競技で単独優勝し、大会の最優秀選手賞を受賞。

○増田 愛子

「第26代日本さくらの女王」に選出され、桜の愛護・育成・保全推進活動や国際親善に貢献。

## 平成28年度北海道大学大塚賞授与式を挙

3月22日（水）に総長室において、北海道大学大塚賞授与式を挙

行しました。大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度です。

今回は平成28年度内の博士課程修了予定者8名及び既修了者2名、計10名が受賞者として選ばれました。

授与式には山口佳三総長、大塚榮子名誉教授、新田孝彦理事・副学長、望月恒子副学長・女性研究者支援室長、出口寿久学務部長の列席の下、山口総長より賞状が授与され、お祝いの言葉

が述べられました。

式終了後には、大塚賞受賞者講演会が事務局大会議室にて開催され、今年度受賞者代表並びに平成20年度受賞者の研究紹介及び講演があり、最後に大塚名誉教授から講評と激励のお言葉をいただきました。

引き続き交流会が開催され、研究分野に関する情報交換や将来の活躍を誓い合う機会となりました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しています。

（学務部学生支援課）

### 受賞者

文学研究科	李	媛
理学院	富岡	森理
工学院	今	美沙紀
総合化学院	佐藤	加奈
農学院	前島	恵理子
獣医学研究科	麻田(古山)	若呼
医学研究科	湯澤	明夏
歯学研究科	土屋	恵李佳
生命科学院	太田	菜央
生命科学院	河村	恵理子



賞状の授与



お祝いのお言葉を述べる山口総長



受賞者記念撮影

## 平成28年度北海道大学クラーク賞授与式を挙

3月22日（水）に高等教育推進機構小会議室において、平成28年度北海道大学クラーク賞授与式を挙

行しました。北海道大学クラーク賞は、平成27年度末で解散した公益財団法人北海道大学クラーク記念財団が、特に優秀な学業成績を収め、かつ、人格に優れた本学学部卒業予定者を対象に実施していたクラーク賞を本学が継承して、本年度から北海道大学クラーク賞として制定した新しい賞です。

北海道大学クラーク賞は、本年、本学を卒業する学部生の中から、所属の学部において、最も優秀な学生であると推薦された1名を表彰するものです。

表彰式では、新田孝彦理事・副学長から13名の受賞者のうち1名の欠席者

及び所属学部において表彰式を行う5名を除く7名に賞状と記念品が授与され、続いてお祝いと期待の言葉が述べられました。

なお、所属学部において表彰式を挙行する学部においては、3月23日（木）に表彰式が挙行されました。

（学務部学生支援課）

### 受賞者

文学部	吉田	拓矢
教育学部	武田	麻依
法学部	塚本	紘生
経済学部	長谷川	想
理学部	三村	祥平
工学部	石川	竜介
農学部	横地	穰
獣医学部	谷田	孝志
水産学部	飯野	佑樹
医学部医学科	柏木	彩花
医学部保健学科	前田	祥子
歯学部	丸岡	春日
薬学部	豊田	めぐみ



賞状の授与

# 平成28年度北海道大学鈴木章科学奨励賞－自然科学実験－表彰式を挙

3月28日（火）に高等教育推進機構中会議室において、平成28年度北海道大学鈴木章科学奨励賞－自然科学実験－表彰式が挙

この賞は、全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を収め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するために設けられた制度です。

表彰式は、新田孝彦高等教育推進機構長、出口寿久学務部長の列席の下、新田機構長から7名の受賞者のうち3名の欠席者を除く4名に賞状が授与さ

れました。

続いて新田機構長から、鈴木 章名誉教授の経歴の紹介とともに、「学術と社会の発展に貢献できる人材へと育てていただきたい」との挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した賞を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしてい

(学務部学生支援課)

## 被表彰者

### 第1学期被表彰者

22組	那 須 海 渡
26組	赤 岩 愛 記
32組	九 鬼 静 香

### 第2学期受賞者

34組	江 指 万 里
35組	小 林 大 樹
39組	加 藤 大 賀
43組	塩 原 幸



賞状の授与



受賞者記念撮影



## 平成28年度北海道大学企業研究セミナーを開催

キャリアセンターでは、3月1日（水）から22日（水）までの期間中19日間にわたり、クラーク会館において、「平成28年度北海道大学企業研究セミナー」を北海道大学校友会エラムとの共催により開催しました。

本セミナーは、北大生の地理的ハンディキャップを解消し、学生が主体的に業界・企業研究を行うことで「就職活動へ向けての礎をつくる」ことを目的に平成16年度から開催しており、今では全国最大規模の就活支援イベントとなっています。

本年度は、国内の企業・団体から過去最多の743社（昨年度：718社）に参加いただき、延べ25,729名の学生が参加しました。

セミナーでは、各企業ブースでの説明のほか、午前の部と午後の部の間に外国人留学生支援企画「留学生相談コーナー」を設置し、118社に参加いただき、延べ256名の留学生が参加しました。

午後の部終了後は、「情報交換会」を毎日開催し、309社の採用担当者と延べ900名を超える学生が和やかな雰囲気の中で交流を深めるとともに、3月6日（月）には、山口佳三総長、新田孝彦理事・副学長が懇談の輪に加わりました。

また、期間中の特別企画として「公開模擬面接会」及び「外国人留学生就職セミナー」を開催しました。「公開模擬面接会」は、実践さながらの形式

で行われ、参加者・見学者ともに面接での留意点や課題を確認することができました。また、「外国人留学生就職セミナー」では、国内企業で活躍している外国人留学生のOBから、就活での苦労話や雇用慣行の違い、仕事内容など様々な経験談について講話がありました。

全体を通して、参加者は様々な場で企業等の説明に熱心に耳を傾け、積極的に質問していました。本セミナーにご参加いただいた各企業・団体の皆様及び本学関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

（キャリアセンター）



講堂での企業説明の様子



熱心に企業説明を聴く学生たち



留学生相談コーナーの様子



公開模擬面接会の様子



情報交換会の様子



学生と談笑する山口総長

## ガーナ大学で「日本留学フェア」を開催

本学ルサカオフィスでは、2月15日（水）にガーナ大学において「日本留学フェア」を開催しました。本フェアは、サハラ以南アフリカ地域の学生の日本留学を促進することを目的に、本学が受託している文部科学省「留学コーディネーター配置事業」の一環として実施されました。

日本とガーナの関係は、野口英世博士の黄熱病研究に端を発し、以後、両国は長年にわたり友好な関係を築いてきました。政治的安定を確立し経済成長を続けるガーナには昨今、外資が集積し、日系企業の進出によって学生が日本留学経験を活かせる場も増えていきます。昨年、ガーナ大学において、日本で学位を取得したエベネザ・オドゥロ・オウス教授が初めて副学長（実質的な学長）に就任し、そのマネジメントに日本の大学出身者が多く起用される現状は、ガーナにおける日本の大学のプレゼンスを高める好機として期待されます。

本フェアでは、日本とガーナの高等教育分野における今後の交流の可能性について、参加者が意見交換を行う学術交流ワークショップと、日本留学に関する情報提供と相談受付を行う留学説明会を開催しました。日本の参加機関は、本学のほか、日本学生支援機構（JASSO）、日本学術振興会（JSPS）、金沢大学、京都大学、国際大学、東京医科歯科大学、三重大学、筑波大学（テレビ会議参加）で、本学の上田一郎理事・副学長ほか6名の教職員を含め、計20名が参加しました。

学術交流ワークショップには、大学の教職員を中心に約70名が首都アクラ市内外から集いました。まず、日本とガーナの学術交流の現状と展望について、ガーナ大学国際プログラムオフィス、JSPSナイロビ研究連絡センター、ガーナ大学野口記念医学研究所の各代表者にご講演いただきました。その後、全参加者が各々の専門分野に従い、農学、医学、獣医学、理学、経済学・国際関係学、日本語教育、学生支援、研究支援の計8グループに分かれて、大学間交流に向けた話し合いを活発に行いました。

留学説明会では、オウス副学長と上田理事・副学長による開会挨拶の後、吉村 馨駐ガーナ日本国特命全権大使から祝辞をいただきました。次に、ガーナ大学より昨年新設されたアジア研究センターの概要、JASSOより日本留学の概要、駐ガーナ日本国大使館より国費外国人留学制度、国際協力機構（JICA）ガーナ事務所よりアフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ「修士課程およびインターシップ」プログラムについて、それぞれ説明がありました。続いて、ガーナ大学とガーナ中央銀行に勤める2名の日本留学経験者により、日本の学生生活に関する体験談が紹介されました。最後に、本学を含む日本の参加大学がそれぞれ、研究・教育の特色や留学制度を紹介し、留学を志す来場者の関心を惹きつけていました。

留学説明会ではまた、本学含む日本の参加大学、駐ガーナ日本国大使館、

JASSO、JICA、JSPSのブースによる個別相談会を実施したほか、計21大学\*の案内資料が配布されました。本説明会は、学生を中心に約450名が参加する盛会となり、日本留学への関心の高さがうかがえました。

本フェアの開催は、ガーナ大学の共催、駐ガーナ日本国大使館の後援のほか、駐日ガーナ共和国大使館、ガーナ教育省など、多くの関連機関のご協力のもとに実現されました。2月14日（火）には、本フェアのプレイベントとして、ガーナでトップレベルの成績を誇るプレスビテリアン男子高等学校の生徒約130名を対象に留学説明会を開催しました。

ルサカオフィスでは引き続き、教育機関、行政、援助機関や企業など多様なアクターと連携し、日本とアフリカ間の学術・学生交流を支援する活動を実施していきます。

◆<https://www.hokkaido-university-lusakaoffice-zm.com/news-and-events/>

（国際連携機構）

\*秋田大学、岡山大学、小樽商科大学、九州大学、九州工業大学、近畿大学、埼玉大学、上智大学、筑波大学、津田塾大学、東京大学、東京外国語大学、東京海洋大学、東京国際大学、同志社大学（ビジネス研究科グローバル経営研究専攻）、新潟医療福祉大学、弘前大学、山形大学、横浜国立大学、立命館大学、琉球大学（計21大学、50音順）



上田理事・副学長による開会挨拶



熱心に耳を傾ける来場者



本学の個別相談ブース

## 北海道大学アンバサダー・パートナー委嘱式を開催 (インドネシア, フィンランド, フィリピン)

2月28日(火)インドネシアにおいて、北海道大学アンバサダー1名(日揮インドネシア オペレーションマネージャー 新谷一郎氏)並びに北海道大学パートナー8名(タイ2名, インドネシア6名)を委嘱しました。ジャカルタ市内のホテルで行われた委嘱式には、来賓として3名のアンバサダー・パートナーにもご出席いただき、上田一郎理事・副学長より委嘱状が手渡されました。委嘱した9名は、主に「世界展開力強化事業・PAREプログラム」に関わる協定校の担当教員と、在ジャカルタ日本人同窓会(ジャカルタエルム会)のメンバーであり、これまでPAREプログラムの運営を通じて培われた本学との交流をより深めていただくとともに、ASEAN地域における北海道大学コミュニティの更なる活性化が期待されます。

3月3日(金)には、本学ヘルシンキオフィスにおいて委嘱式を行い、寺尾宏明副学長よりヘルシンキ大学のユハ・ヤンフネン教授及びリーッカ・ランシサルミ准教授に、パートナーを委

嘱しました。両氏には、これまでも本学の研究活動や新渡戸カレッジ生の留学等にご助力いただいております。今後もフィンランドにおける本学の教育・研究活動にご協力の申し出をいただいております。

また、3月15日(水)には、フィリピンにおいて、アンバサダー3名(アメリカ・ゲバラ フィリピン大学ディリマン校教授(前フィリピン科学技術省(DOST)副大臣), ジョエル・マルシアーノ フィリピン大学ディリマン校教授(フィリピン科学技術省先端科学技術研究所長), デリック・ユエ・ラ・サール大学教授(本学留学生フィリピン同窓会長))並びにパートナー1名(エヴァンジェリン・アモール フィリピン大学ディリマン校教授)の委嘱式を行いました。

フィリピン大学ディリマン校で開催された委嘱式には、DOSTよりフォルトゥナート・デラペーニャ大臣とロウエナ・ゲバラ副大臣が、また、フィリピン大学全8校統括本部よりダニエロ・コンセプション総長やテオドー

ロ・ヘボーサ上級副学長が来賓として臨席され、現地マニラの日本人向け報道機関の取材も入るなど、盛況のうちに開催されました。

本学宇宙ミッションセンターが携わったフィリピン初の衛星DIWATA-1プロジェクト並びにASEAN諸国の学術機関と構成するマイクロサテライト・コンソーシアムのフィリピン政府側担当者としてその推進に深く関わったゲバラ アンバサダーには、本学が計画しているフィリピンリエゾンオフィス設置に向けたカウンターパートとして、マルシアーノ アンバサダーには、新たなマイクロサテライト・プロジェクトをはじめとする本学との協働の推進において、その活躍に大きな期待が寄せられています。また、ユアンバサダーには、協定校であるデ・ラ・サール大学との学術交流の活性化のみならず、現地の同窓生コミュニティの拡大や発展への支援が期待されます。

(国際連携機構)



インドネシア及びタイのアンバサダーとパートナー



フィンランドでの委嘱式(右からヤンフネンパートナー, ランシサルミ パートナー)



フィリピンでの記念撮影

## 2017 ProSPER.Net Young Researchers' Schoolに参加

3月6日(月)～15日(水)に、ベトナム・ホーチミン市にあるベトナム国家大学ホーチミン市校にて、「2017 ProSPER.Net Young Researchers' School (YRS)」が開催されました。

ProSPER.Net (Promotion of Sustainability in Postgraduate Education and Research: アジア太平洋環境大学院ネットワーク)とは、国連大学が事務局を担う、アジア太平洋地域の主要な大学(加盟校36校)による、持続可能な開発のための大学院教育を推進する国際的の大学コンソーシアムです。2008年に発足式を本学で開催後、本学は幹事校の一つを務めています。YRSや大学院生を対象としたサマースクールの協働開催等、メンバー大学が協働して教育研究を行っており、これらに本学は毎年1～2名の学生を派遣しています。

Young Researchers' Schoolは、ProSPER.Netが博士課程学生や若手のポスドク研究者を対象に、講義、ワークショップ、フィールド・トリップなどを通して、持続可能な発展を支える挑戦について深く学ぶ機会を提供する

約10日間の短期プログラムです。2010年より毎年20名前後の博士課程学生が加盟大学より参加しており、第8回となる今回は、本学の学生1名を含む、世界9カ国11大学から集まった15名の学生が参加しました。

今年のテーマは、「Water Security For Sustainable Development In A Changing Climate (気候変動下における持続可能な発展のための水の安全保障)」でした。参加学生は現地の専門家や世界トップレベルの研究者のもと、気候変動の影響や、地域における水の違法利用など水の安全保障に関する

問題について学び、解決策について議論しました。

本学から参加したMd. Mostafizur Rahmanさん(環境科学院博士後期課程2年)は、プログラム最終日に行われた研究内容を非専門家である観客に向けて3分間で発表するイベント「3-Minutes Thesis Presentation (3分論文発表大会)」において、第2位という成績を収めて表彰されました。

◆ProSPER.Net

<http://prospernet.ias.unu.edu/>

(国際部国際企画課)



3-Minutes Thesis Presentation 第2位のRahmanさん(右)

## 第3回HUCIフォーラム「北海道大学の国際化を今後どのように進めるか～IAU-ISAS提言を受けて～」を開催

大学力強化推進本部の主催により、3月10日(金)に百年記念会館において、第3回HUCIフォーラム「北海道大学の国際化を今後どのように進めるか～IAU-ISAS提言を受けて～」を開催し、学内外から64名が参加しました。

HUCIフォーラムは、北海道大学コミュニティにおける対話を促すことにより、「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ(HUCI)」が目指す「10年後の姿」の達成をより確かなものにするを目的としたものです。10月、12月に引き続き3回目の開催となった今回は、本学が国際大学協

会(IAU)と協働で取り組んだ「国際戦略に対する助言サービス(ISAS2.0)」における「IAU-ISAS最終報告書」を主題とし、今後の本学の国際化のあり方について議論しました。

フォーラムは、川野辺創国際連携機構副機構長による開会挨拶で始まり、引き続き上田一郎理事・副学長による「国際化戦略HUCIの課題と将来への期待」と題した講演を行い、その後、長野克則総長補佐をモデレーターとして、6名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。各パネリストからは、それぞれの視点か

ら「IAU-ISAS最終報告書」や大学の国際化に関するコメントがあり、続けて行われた質疑応答では、参加者からの提案や質問等により活発な意見交換が行われました。本フォーラムによ



上田理事・副学長による講演

り、最終報告書の提言にもある学内コミュニケーションの重要性を改めて認識するとともに、多くの貴重な意見により、創基150周年に向けて推進する大学国際化のための様々な課題や改善策を得る有意義な機会となりました。

なお、本フォーラムの様子は動画にて公開予定です。当日参加できなかつ

た教職員の皆様方はぜひご覧ください。HUCIの紹介動画と過去のHUCIフォーラムの記録動画もホームページにて公開しています。

◆<http://www.hokudai.ac.jp/international3/internationalization/huci/programs/>

(国際部国際企画課)



フォーラムの様子

## 国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 量子医理工学グローバルステーションが第4回シンポジウムを開催



関係者集合写真

国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 量子医理工学グローバルステーションは、3月14日(火)・15日(水)にスタンフォード大学放射線腫瘍学科と共同で第4回GI-CoRE量子医理工学シンポジウムを医学部学友会館フラテ特別会議室にて開催しました。

平成26年4月にGI-CoREが設置されて以来、量子医理工学グローバルステーションでは、最先端の放射線医学、放射線生物学、医学物理分野の研究を進めてきましたが、第4回となる本シンポジウムでは、ジョンズ・ホプキンス大学、テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター、メイヨークリニック、フローニンゲン大学医療センター、大阪大学、神戸薬科大学、国立研究開発法人放射線医学総合研究所をはじめとする大学及び研究機関より

同分野の世界トップレベルの研究者を招へいし、放射線治療における国際標準案について白熱した議論が交わされました。

シンポジウムでは、光子線、陽子線、炭素線を使ったがん治療の正常組織障害確率 (NTCP) と腫瘍制御確率 (TCP) に関し、ビッグデータ解析、実験的/理論的放射線生物学、放射線治療計画システム、がん治療ケアコーディネーション、医療経済学といった多岐にわたる関連分野の専門家が様々な見地から講演を行い、参加者からは非常に学びの多いシンポジウムであったと大変な好評を博し、成功裡に幕を閉じました。

(国際連携研究教育局)



スタンフォード大学 アルバート・クーン教授



ジョンズ・ホプキンス大学 トッド・マクナット准教授



テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター スティーブン・リン准教授



会場風景

## 第2回北大URAシンポジウム「大学の『研究力』のモノサシとは？ —指標による可視化とその活用—」を開催

大学力強化推進本部URAステーションでは、理学研究院との共催で、3月10日（金）に第2回北大URAシンポジウム「大学の『研究力』のモノサシとは？—指標による可視化とその活用—」を理学部N308室にて開催しました。

近年、大学における研究力の強化が課題となる中、国や機関の活動状況を定量的に把握することが重要視されています。このような背景から、本シンポジウムでは、研究機関の研究力・活動状況を測る指標はどうあるべきか、またそのような指標を大学でどう活用していくべきかを考える機会として、学外の有識者の方をお招きし、話題提供とディスカッションを行いました。

山崎淳一郎URAステーション長による本シンポジウムの主旨説明の後、

自然科学研究機構研究力強化推進本部特任教授の小泉 周氏より「大学の特徴や分野別にみた研究力の可視化」についてご講演いただきました。続いて、本学URAステーションの岡田直資主任URAより「指標で見る北海道大学の研究力」について紹介があった後、シンポジウムの総括として石森浩一郎理学研究院長の進行のもとディスカッションが行われ、指標の妥当性や製作における位置づけ等について会場の参加者を交えた活発な議論が展開されました。

シンポジウムは様々な部局の教職員その他、自治体や省庁の関係者を含む約40名にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。アンケートでは「最近の解析トレンドがわかり大変勉強になった」「大変わかりやすい講演で理

解が進んだ」「先生方やURAの方の意見等、一方的な観点からではなく色々な意見があったため非常に参考になった」等、好評なご意見が多数寄せられました。URAステーションでは、いただいた意見をもとに、今後も本シンポジウムをURAの活動の発信や研究推進に係るディスカッションの場として継続して実施していきたいと考えています。

なお、シンポジウムの講演資料は本学URAステーションのホームページで公開しています。ご興味・ご関心のある方はぜひご覧ください。

◆[http://www.cris.hokudai.ac.jp/cris/ura/seminar/detail\\_event.html?id=247](http://www.cris.hokudai.ac.jp/cris/ura/seminar/detail_event.html?id=247)  
E-mail : [ura-seminar@cris.hokudai.ac.jp](mailto:ura-seminar@cris.hokudai.ac.jp)

(大学力強化推進本部)



自然科学研究機構 小泉特任教授



岡田主任URA



ディスカッションの様子  
(右から石森理学研究院長、小泉氏、岡田主任URA)



会場風景

## 学位取得を計画的に進めるためのプロジェクトマネジメント研修を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、2月27日（月）に高等教育推進機構S講義棟において「学位取得を計画的に進めるためのプロジェクトマネジメント研修」を実施しました。

本研修は、自身の博士論文もプロジェクトマネジメントを活用して執筆された愛媛大学教育・学生支援機構の丸山智子特任助教を講師にお招きし、修士・博士課程の大学院生及び平成29年4月から大学院進学予定者を対象に、プロジェクトマネジメントの知識

を習得し、学位取得に向けたタスクの洗い出し、計画表（Work Breakdown Structure）の作成や進捗管理を行い、計画的な学位取得を目的として実施したもので、25名が参加しました。

研修では講師の話聞くだけでなく、参加者が学位取得に向けた計画を作成し、互いに見せ合いながら自身の計画をブラッシュアップすることで、学位取得に向けリスク管理も含めたしっかりとした計画を立てられたものと思われま

事後アンケートでは、「ただ事例を見るだけでなく、実際に自身のケースについて計画を立てることが出来て、今後の大学院生活に役立つことが出来ると思いました」「修士論文を書き上げる上で、仕上げなければならない事柄を多く見つけられて非常に良かったです」等の意見が見られ、多くの参加者に好評でした。

（高等教育推進機構）



講師の愛媛大学 丸山特任助教



研修の様子

## TF振り返り研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、3月1日（水）に高等教育推進機構S講義棟において、TF（ティーチング・フェロー）振り返り研修会を開催しました。

本学では、平成27年度から大学院教育の一環として、TF制度を導入しました。TFは授業の分担、授業設計・教材開発の補佐、そしてレポート指導や補習等の授業補完業務を担当することができるため、TAでは難しい

ティーチングに関する経験を積むことができます。

本研修会は、今年度TFとして業務を担当した大学院生及びTFの活用を検討している教員を対象として実施しました。

本研修は、「TF業務の振り返り」と題したワークセッションと「TF制度を有効活用するために」と題したディスカッションが行われ、本センター教員と参加者による積極的な意見

交換が行われました。

まだ開始して2年目の制度ということもあり、教員や大学院生から様々な課題が挙げられましたが、高等教育推進機構では、教員と大学院生、そして授業を受ける学部生にとってより良い制度になるよう、本研修会で得られた課題などについて検討を続けて参ります。

（高等教育推進機構）



研修会の様子



# 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで 第31回「赤い糸会&緑の会」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、2月15日（水）に学術交流会館で、第31回「赤い糸会&緑の会」を開催しました。

本会は、企業と若手研究者（DC、PD）との直接情報交換会であり、企業には若手研究者の高い専門性や総合力を理解いただき、若手研究者には企業の研究開発活動や企業における博士の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化、活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

若手研究者の参加も回を重ねるにつれ増加し、9部局から39名（DC：36名、PD：3名）、また、平成26年度末より採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業で、東北大学から3名、名古屋大学から3名の若手研究者が参加し、さらに本学と個別連携しているお茶の水女子大学から3名、横浜国立大学から1名、兵庫県立大学から1名の計50名が参加しました。企業からは、各種業界から16社

（42名）、オブザーバ企業5社の計51名に参加いただきました。

本会では、冒頭の人材育成本部長の望月恒子教授による開会挨拶、赤い糸会担当の樋口直樹特任教授による趣旨説明の後、参加企業の皆様から業界動向や博士の活躍状況等の紹介が行われ、その後、若手研究者の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。

さらにはこの「赤い糸会&緑の会」を通じて企業に就職した若手研究者の先輩方が、今回は2名企業側として説明会に参加し、後輩達に対して熱い思いを語ってくれました。

開催後の企業側のコメントからは「学生側と企業がきちんとコミュニケーションが取れることが出来るため非常にありがたい」「非常に有意義なので、今後も続けていただきたい」との声をいただきました。参加した若手研究者からは、「様々な企業と話せて自分の研究観や仕事への意識がプラス

になりました」「普段会えない方々と会い、有益な情報を教えていただけたのでよかった」といった嬉しい声も聞かれました。

終わりに、人材育成本部では以上の活動に加えて、企業事業所視察、Advanced COSA、J-window、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、また企業での長期インターンシップ等を通して、これまで以上に若手研究者の実践力を高めることへ注力していくとともに、コンソーシアム結成により、東北大学や名古屋大学が運営しているより多くの洗練されたプログラムを博士に提供できるようになりましたので、今後ともご理解とご協力をよろしく願いいたします。

なお、興味のある方は人材育成本部のホームページをぜひご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



望月人材育成本部長の開会挨拶



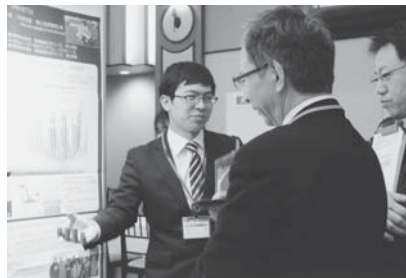
樋口人材育成本部特任教授の趣旨説明



企業からの業界動向説明



説明に聞き入る若手研究者



若手研究者のポスター発表



企業との個別情報交換



## ■ 部局ニュース

# 国際広報メディア・観光学院が株式会社JTB北海道と連携協定を締結



(左から) 毛利勇二JTB北海道営業部長, 笹本潤一JTB北海道社長, 山田義裕学院長, 西川克之教授

国際広報メディア・観光学院は、交流文化事業の一環として地域活性化事業を展開している株式会社JTB北海道と、教育・研究の支援、また、学術及び観光関連諸分野の発展に寄与することを目的として、2月1日(水)に連携協定を締結しました。

今回の協定締結により、本学院観光創造専攻観光文化論講座に連携分野「観光マーケティング戦略論分野」を設置します。JTBグループから観光分

野の専門家を招へいし、当該分野の連携分野教員として、「観光地域活性化戦略論演習」を開講し、座学のみならず、道内各地におけるフィールド実習を含む実践的な演習授業などを行う予定です。

本連携により、「観光産業の実務経験に即した実践的な観光マーケティング戦略論」の分野に興味を持つ学生の教育・研究指導を連携分野が担うことで、教育・研究領域の拡大と推進が可

能となります。また、観光マーケティング並びに観光地域活性化の現場で先端的に活躍している実務家との連携を図ることで、新たな教育・研究成果が見込まれ、道内をはじめ国内各地の観光を通じた、地域活性化等の社会貢献活動の新たな展開が得られるものと期待されます。

(国際広報メディア・観光学院、  
メディア・コミュニケーション研究院)

## 総合化学院と南京大学化学化工学院がダブル・ディグリー・プログラムの覚書を締結

2月27日（月）、総合化学院と南京大学化学化工学院（中国）との間で、ダブル・ディグリー・プログラム（DDP）覚書調印式が、大熊毅総合化学院長とShuhua Li南京大学化学化工学院長ほか両校の関係者13名列席のもと、南京大学で行われました。総合化学院では、平成28年10月の国立台湾大学工学院に続く2件目のDDP締結となります。

南京大学は中国を代表する大学の一つで、国際交流にも積極的な大学であり、今までに世界70以上の国や地域から留学生を受け入れています。韓国やドイツからの留学生が多く在籍し、日本からの留学生も増えています。

本学と南京大学との交流は、理学研究科（当時）が平成17年3月に部局間交流協定を締結することで研究者及び学生交流を深め、特に、先端化学に関する交流シンポジウムを毎年交互に開

催することで、連携を強化してきました。平成18年5月に締結された大学間交流協定によって、理学だけでなく、他の分野でも研究者や学生の派遣・受入れが行われ、全学的な広がりを持った交流に発展してきました。以来、毎年相互訪問によって開催するシンポジウムを中心に招待講演や学生による発表を行っており、その交流を通じた共同研究の成果も上がってきています。平成22年からは総合化学院を中心に本学のみならず物質・材料研究機構をはじめ外部組織とも連携し、その交流をさらに拡大しました。

最近では、それまでの短期の学生派遣・受入れによる交流に加えて、リーディングプログラム、ラーニング・サテライト（LS）、サマー・インスティテュート等のプログラムを通じて、教育研究における連携を深めてきまし

た。連携開始10周年を記念して開催した平成26年のシンポジウムからは、講演会終了後においても学生が相互に滞在し、本学と南京大学の教員から相手側大学院生とともに集中講義を受講し、参加学生に単位認定を行っています。平成27年9月には南京大学で本学の授業を行うLSを実施し、双方の大学の受講学生あわせて27名がそれぞれの大学で単位を取得しました。これらの交流実績の下に、今回のプログラムが実現しました。

本締結により、分子化学、物質化学、生物化学などの総合化学分野に拡大する両大学の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

（総合化学院）



大熊学院長（左）とLi学院長によるDDP調印記念品の交換



調印式の様子

# 「総合化学院ラーニング・サテライト」を国立台湾大学、 南京大学で実施

平成27年度に海外ラーニング・サテライト事業に採択された「総合化学院ラーニング・サテライト」（共同教育プログラム）を、昨年度に引き続き、2月18日（土）から2月27日（月）まで国立台湾大学、2月26日（日）から3月2日（木）まで南京大学において実施しました。

国立台湾大学では、総合化学院担当の田口精一教授、佐藤敏文副院長及び国立台湾大学のW.C.Chen教授によって授業を行い、田口教授は「生物系高分子の調製について」、佐藤副院長は「有機分子触媒を用いた特殊構造高分子の精密合成について」、Chen教授は「ガイダンスと電子デバイスについて」の講義を実施しました。

本学からは8名の総合化学院の学生が国立台湾大学の特別聴講生として参加し、授業の他、両大学の学生を中心とした研究討論等を行いました。また、国立台北科技大学、国立中央大

学、元智大学においても、各研究室の見学をはじめ、学生による研究ディスカッション（ジョイントシンポジウム）を行い、多に交流を深めました。

南京大学では、Dongshan Zhou教授協力のもと、総合化学院担当の坂口和靖教授、村越 敬副院長による授業を行い、坂口教授は「生物タンパク質をユニットとした新奇ナノ材料の調製について」、村越副院長は「無機・有機複合ナノ物質の設計構築について」の講義を実施しました。

本学からは6名の総合化学院の学生が南京大学の特別聴講生として参加し、授業の他、先端研究と関連して、今後のキャリアパスに関する意見交換やアジア地域の発展を共に考える等、交流の促進を図りました。授業では、両校の学生あわせて5名程度からなる混成グループを構成して課題解決型のアクティブラーニングを実施しましたが、学生達が積極的に議論を深めてい

く姿が印象的でした。

本事業実施により、本学における先端化学の研究状況及び教育状況を国立台湾大学及び南京大学の教員や研究者に広く知ってもらう機会となり、また、共同研究や留学生の受入れ等に関し、多面的な情報交換を行うことができました。さらに、両大学の学生を中心とした研究討論の場を広げる国際交流を行うことができ、大変に有意義な事業となりました。

総合化学院では、平成29年度海外ラーニング・サテライト事業にも引き続き採択され、国立台湾大学、南京大学に加え、新たに、チュラロンコン大学、ストラスブル大学においても実施を予定しており、更なる交流の促進を図っていきたく考えています。

（総合化学院）



Chen教授によるラーニング・サテライト授業風景



台湾における総合化学院ジョイントシンポジウム参加者



総合化学院と南京大学の学生が協力してグループ討論を先導



総合化学院—南京大学ラーニング・サテライト参加者

## 水産科学院各種表彰授賞式を挙行

3月24日（金）、フォーポイントバイシェラトン函館において、水産科学院各種表彰の授賞式を学位記授与式に引き続き、執り行いました。

本表彰は、学術上優れた研究成果を

挙げた大学院生に授与される水産科学院独自の表彰制度で、平成28年度は伊藤一隆賞1名、佐々茂雄賞2名、計3名の修了者が受賞しました。

授賞式では安井 肇研究院長から賞

状が贈られ、お祝いの言葉が述べられました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



「伊藤一隆賞」受賞者



祝辞を述べる安井研究院長

名 称	学 年	受 賞 者
伊藤一隆賞	博士後期課程3年	山木 将悟
佐々茂雄賞	修士課程2年	横井 直弥
	修士課程2年	山崎 耀平

## 水産学部キャンパス移行式及びくろしお賞授賞式を挙行

水産学部3年次の函館キャンパスへの移行に伴い、4月3日（月）に講義棟大講義室において、キャンパス移行式を行いました。

移行式には、安井 肇研究院長のほか、宮下和夫副研究院長、木村暢夫副研究院長、評議員、学科長、教務委員長、学生委員長、練習船船長及び学科

担任が出席し、安井研究院長から209名の移行者へ函館キャンパスで新たに始まる学生生活に向けて激励がありました。

移行式終了後には、引き続き、水産学部くろしお賞の授賞式を行いました。

本表彰は、優れた学業成績により水産学部第3年次に進級し、函館キャン

パスに移行した学生を表彰する水産学部独自の表彰制度です。

受賞者である資源機能化学科3年の邊見龍樹さんには、安井研究院長から賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



移行生を激励する安井研究院長



「くろしお賞」授賞式の様子

## 会計専門職大学院でメルコ学術振興財団と共催セミナーを開催

会計専門職大学院（経済学研究科会計情報専攻）では、3月4日（土）に人文・社会科学総合教育研究棟W409会議室において、「実務家向け特別経営セミナー『管理会計による経営改革の知見と実例』」を、公益財団法人メルコ学術振興財団との共催で開催しました。メルコ学術振興財団は、企業経営を支援する会計情報に関わる学問分野である管理会計学に対する研究助成等を行うことを主たる事業としています。本セミナーは、同財団からご支援をいただき開催しました。

本セミナーでは、管理会計の中でも、日本独自の管理会計実務として注目を集めている「アメーバ経営」に焦点を当て、その考え方や実践知識を学ぶ機会を、本学学生のみならず、特に実務家の方々に対して提供することを狙いとして、3つの講演が開催されました。

第1講演は、京都大学名誉教授の上總康行氏が「アメーバ経営の導入と効果」と題して、学術研究の視点から、アメーバ経営の概要とその合理性について説明されました。アメーバ経営とは、経営理念の従業員への教育を土台としたうえで、小集団による時間当たり採算等の会計情報を活用することに

より、経営者意識を持つ従業員を育成するとともに、全社利益の最大化を実現していく仕組みであると概説されました。また、アメーバ経営導入による作業改善等の経営効率化が現場に余剰生産能力を生み出し、その生産能力をフル活用できるように人的資源等を活用することによって全社の利益が増加していくという好循環サイクル（利益連鎖管理プロセス）について、事例等を交えながら説明されました。

第2講演は、日本航空株式会社執行役員路線統括本部国際路線事業本部長の米澤 章氏が「JAL（日本航空）におけるアメーバ経営による変革について」と題して、破たん後のJALにアメーバ経営が導入されたことによって、同社の業績が著しく回復していった経緯を、具体的な事例を豊富に交えながら説明されました。アメーバ経営が同社にもたらした特に重要な効果として、各部門が収益・費用・利益への責任意識を強く持つようになった点、及び各部門が共通の「ものさし」を持つようになり部門間のコミュニケーションが活性化した点などを強調されました。

第3講演は、医療法人社団鈴木内科医院理事長兼院長の鈴木 岳氏が「利

用者の幸せ、職員の幸せ、地域の幸せづくりを目指して」と題して、ご自身が経営されている病院にアメーバ経営を導入した経験をもとに、アメーバ経営の意義について話されました。鈴木氏は、アメーバ経営における理念（フィロソフィー）教育の重要性と財務をガラス張りにする効果について、特に強調されました。結果として、従業員が仕事にやりがいや誇りを持つようになり、経営への参加意識も高まり、財務面でも経費の削減等に大きく成功したという具体的な成果について紹介されました。

今回のセミナーには、道内の中小企業の経営者、コンサルタント、公認会計士、税理士等の実務家の皆様、道外からの研究者、本学の学生と教員など、40名を超える参加者があり、アメーバ経営の基本的な考え方について理解を深める大変良い機会となりました。

会計専門職大学院では、今後もこうした催しを通じて、地域社会における会計・監査実務の発展に貢献していきたいと考えています。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演する米澤氏

## 北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催

北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション・白尻水産実験所、七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所は、文部科学省教育関係共同利用拠点（「食糧基地、北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同利用拠点－多様な水産資源を育む環境でのフィールド教育－」）に認定されています。その取り組みの一環として、他大学の学生が参加できる公開水産科学実習「応用発生工学実習」「海棲哺乳類実習」「北海道の沿岸生物の増養殖実習」を、それぞれ2月27日（月）～3月3日（金）、3月6日（月）～9日（木）、3月13日（月）～16日（木）に開催しました。

以下に今回実施された3件の実習を紹介します。これらの実習は来年も開催を予定していますので、興味がある方は当事業のホームページをご覧ください。

◆<http://www.fsc.hokudai.ac.jp/suisan-kyoten/index.html>

（北方生物圏フィールド科学センター）

### 応用発生工学実習—亜寒帯魚類を対象とした増養殖実習—

北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所で開催し、全国から12名の学生が参加しました。実習では、サケマス類からの採卵などの従来の実習に加えて、顕微注入を含む発生工学などの先端的手法も体験し、水産生物の育種技術の未来への方向性への視座を与えることを目的としました。魚類の胚を操作するために使う操作器具などを、実際に実習生が作成することから始まり、魚類の正常発生の観察、染色体の操作、遺伝子資源の保存、また、魚類の発生に関する講義な

どが行われました。加えて、本学と水産海洋実践教育ネットワーク連携プログラムを提携している長崎大学の教員も本実習に参加し、北海道と異なる海域の増養殖技術の現状や取り組みなどについても講義・実習を行いました。

実習生のアンケートには、「発生工学の基礎的な知識と実習を一度に行える素晴らしい実習だった」「北海道ならではの実習内容で良かった」「所属大学では行わない講義や実習内容だったので、本当に貴重な体験となった」「他大学の方との交流により、自分の

大学との違いや良いところなどを知ることができた」「実習生とも仲良くなり、本当に毎日が充実していた」など、好意的な回答が数多く寄せられました。

なお、本実習は長崎大学の「水産海洋環境学実習Ⅰ（B）：産卵親魚を用いて、卵子や精子形成を理解するための実習」をあわせて受講することで、より高い学習効果をあげられるような連携プログラムを構築しています。



飼育施設の見学



ガラス器具作成の様子



育種技術の説明



胚操作の様子



胚発生の観察



集合写真

## 海棲哺乳類実習

北方生物圏フィールド科学センター 忍路臨海実験所で開催し、全国から10名の学生が参加しました。実習では、近年、北海道沿岸で課題になっている漁業と海棲哺乳類の共存について学ぶことを目的としました。内容は講義、

おたる水族館での行動観察と鳴音記録、デイベート、データ解析（バイオリギング、鳴音、胃内容物、個体識別）、そして、水族館で取ったデータについてのグループ発表を行いました。

参加学生のアンケートには、「所属

大学には海棲哺乳類に関する講義がなく、良い経験ができた」「デイベートやプレゼンの仕方も学べて、とても充実していた」など好意的な回答が数多く寄せられ、実習は盛況のうちに終了しました。



アザラシの行動観察



シャチの個体識別

## 北海道の沿岸生物の増養殖実習

北方生物圏フィールド科学センター 忍路臨海実験所・洞爺臨湖実験所・白尻水産実験所の道央から道南にかけて3ヶ所にまたがる実験所で開催し、全国から2名の学生が参加しました。実習の前半では、北海道の沿岸域で行われているコンブの種苗生産を体験し、北海道の海浜域を移動しながらコンブを形態学的・遺伝学的に比較すること

で、その多様性の実態とコンブ藻場が抱える現状について理解を深めました。その後、実習の後半では、回遊する亜寒帯性の魚類であるホテイウオ（地方名：ゴッコ）の人工授精の実験を行いました。また、潜水によりホテイウオを直接観察するとともに、ホテイウオが生息する冬の北海道の海を実習生自身が体験し、その生態の理解を

深めました。

実習生のアンケートには、「他大学との交流がこんなにも刺激的だとは思っていなかった。とても楽しかった」「興味や知識の幅が広がり、大変良い経験になった」など好意的な回答が寄せられ、実習は盛況のうちに終了しました。



忍路湾でのコンブ採集



コンブ種苗生産実習



コンブ種苗生産施設の視察



ホテイウオ（地方名：ゴッコ）



北海道の海に入る実習生



潜水観察

## 第1回保健科学研究院市民公開シンポジウム 「高齢者を取りまく社会と健康」を開催

3月10日（金）に、超高齢社会における高齢者を取りまく社会について、市民を対象とした高齢者の健康に関する講演を、学術交流会館にて開催しました。

日本人口学会前会長の原 俊彦教授（札幌市立大学）の基調講演の後、結城美智子教授（保健科学研究院基盤看護学分野）が「災害と高齢者の健康」、寒川美奈准教授（保健科学研究院機能回復学分野）が「高齢者の運動」、山崎 裕教授（歯学研究科口腔健康科学講座）が「高齢者の口腔保健」についてそれぞれ講演しました。さらに、結城教授と小笠原克彦教授（保健科学研究院健康科学分野）の進行のもと、「高齢者を取りまく社会と健康を考える」というテーマでパネルディスカッションが行われ、各専門分

野からみた高齢社会の問題点、研究者として取り組むべき課題、保健医療分野の横断的な研究活動や地域での実践の必要性について議論が行われました。

今回のシンポジウムは道民カレッジ連携講座ということもあり、多くの道民カレッジ受講生が参加しました。シンポジウム参加者のアンケートでは、「口腔ケアや歯について考えたことが

なかった。良い機会になった」「色々な地域で実施してほしい」という回答をいただきました。

今後、健康と社会を中心とする高齢者の研究拠点を目指して、広報活動を積極的に行っていくとともに、より多くの市民・研究者が議論できるような企画を検討していく予定です。

（保健科学研究院）



寒川准教授による講演



パネルディスカッションの様子

## 薬学研究院が第9回薬学研究院研究発表会（FD研修会）を開催

3月10日（金）に、薬学研究院臨床薬学講義室において、「第9回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は教員のプレゼンテーション能力の向上及び他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化等を目的として平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねて年2回実施しているものです。

発表会は、南 雅文薬学研究院長による開会挨拶の後、薬物動態解析学研究室の佐藤夕紀助教による「機能性食品成分の消化管吸収機構の解明と製剤開発」と、RNA生物学研究室の米田宏講師による「イントロン認識機構に曖昧さを誘起する化合物の発見と解析」と題する2件の研究発表が行われ

ました。

本発表会には教員54名が参加し、様々な分野の教員から発表者への質問があり、活発な討論が交わされました。本発表会では、参加者へのアンケートを実施し、発表に関する感想や改善点等のアドバイスを発表者へフィードバックすることでプレゼン

テーション能力の向上に役立てています。教員の異分野への知見の拡大など、共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であり、大変有意義な会となりました。次回は8月に開催予定です。

（薬学研究院・薬学部）



発表する佐藤助教



発表する米田講師



## 工学系部局で平成28年度工学系産業技術フォーラムを開催

工学系部局では例年、工学系の学生向けの就職支援策の一環として、工学院教育・キャリア企画室が主催して工学系産業技術フォーラムを開催しています。

本フォーラムは、様々な産業分野における業務内容やそこで求められる技術や専門性、具体的な仕事の内容について、産業界で活躍する方々のお話を聞き、業界やそこで働く技術者・研究者に対する学生の理解を深めることで、進路を見据えた勉学意識の向上や、主体的な企業・業界研究の促進を図ることを目的として開催しています。主に工学部3年次、工学院・情報科学研究科・総合化学院の修士課程1年次及び博士後期課程2年次の学生を

対象としており、平成28年度は3月1日（水）から3日（金）までの3日間、工学部B棟アカデミックラウンジ1・2において開催しました。

期間中、卒業した先輩方の就職先を含む152社の企業、延べ912名の学生が参加し、立ち見が出るほど大盛況でした。



フォーラム会場内の様子

また、本フォーラムと並行して外国人留学生対象のフォーラムも開催しており、工学系部局では外国人留学生を含めた総合的な就職支援策を進めています。

(工学院・工学研究院・工学部、  
情報科学研究科、総合化学院)



外国人留学生対象のフォーラム会場の様子

## 工学研究院で寄附分野「原子力支援社会基盤技術分野」の開設式を挙行政

工学研究院では、3月1日（水）、工学研究院B11教室において、寄附分野「原子力支援社会基盤技術分野」の開設式を執り行いました。この寄附分野は、我が国及び世界各国において今後の電源構成に必須と考えられる原子力エネルギーの活用と安全性向上を支援するため、日本を代表する複数の企業（北海道電力株式会社、東北電力株式会社、電源開発株式会社、日本原燃株式会社、三菱重工業株式会社、株式会社東芝、日立GEニュークリア・エナジー株式会社、株式会社シー・エス・エー・ジャパン）からのご寄附により、工学研究院エネルギー環境システム部門内に設立されたものです。これにより、本学における防災避難計画立案や廃炉加速、燃料サイクル負荷軽減、安全性の極めて高い新型将来炉やその立地計画支援などに関する研究開発及び人材育成がさらに加速されるものと期待されます。

開設式では、名和豊春工学研究院長の挨拶（代読）の後、大内 全氏（北海道経済連合会名誉会長、前北海道電力株式会社副社長）より祝辞を賜りました。続いて、同分野を担当するエネルギー環境システム部門の森 治嗣特任教授より、同分野の概要説明とともに支援企業の紹介が行われました。さらに、ナント大学（フランス）Bernd Grambow教授による基調講演が行われ、国際的な視点から見た原子力技術の研究開発及び人材育成の重要性のほか、新たに設置された寄附分野への期

待が述べられました。最後に、エネルギー環境システム部門長の小崎 完教授より挨拶がありました。

開設式後には、工学研究院A4-63室にて祝賀交流会が行われ、支援企業の方々や、本学関係者及び学生も参加し、活発な意見交換が行われました。開設式及び祝賀交流会には総勢60名以上の参加があり、盛会のうちに終了しました。

(工学院・工学研究院・工学部)



森特任教授による寄附分野の概要説明



ナント大学 Grambow教授による基調講演

# 観光学高等研究センター「観光地域マネジメント寄附講座研究部門」開設10周年記念シンポジウムを開催

観光学高等研究センター寄附講座「観光地域マネジメント寄附講座研究部門」が設置最終年度を迎え、10年に及ぶ研究活動を終えるにあたり、国際広報メディア・観光学院並びに観光学高等研究センターが、3月7日（火）に学術交流会館で「観光地域マネジメント寄附講座研究部門」開設10周年記念シンポジウムを開催しました。

シンポジウムに先立ち、寄附者である東日本旅客鉄道株式会社並びに北海道旅客鉄道株式会社の両社に対し、多大なるご尽力に関する感謝の意を込め、山口佳三総長より東日本旅客鉄道株式会社鉄道事業本部営業部担当部長の高橋教司氏、北海道旅客鉄道株式会社鉄道事業本部営業部長の萩原国彦氏に対し、感謝状の贈呈が行われました。

引き続きシンポジウムが開催され、10年間にわたる研究・教育成果のプレゼンテーションを行いました。山田義裕教授は「観光創造専攻立ち上げから

現在まで、そして学院教育の新たな展開に向けて」、西川克之教授は「訪う者の迎え方ーニセコ地区における外国人旅行者への地域の対応二種」、山村高淑教授は「コラボレーション型観光地域マネジメントの可能性」、西山徳明教授は「地域における観光創造とステイネーション・マネージャーの育成」とそれぞれのテーマで発表し、引き続き観光創造専攻修了生の大岩直美氏と富岡耕太氏2名による活動報告がありました。結びに、清水賢一郎教授がモデレーター、上田裕文准教授、田代亜紀子准教授、奈良雅史准教授がパネラーとなり「北大観光学の未来」をテーマにしたディスカッションが行われました。

シンポジウムでは、寄附講座の開設により、観光学の基礎研究と観光創造学への応用に関わる新しい研究展開が可能になり、数多くの優れた論文や著書を発表することができたこと、さら

に各種学会活動、公開シンポジウム、関係官庁・自治体、国際機関との協力を通じて社会に貢献できたことなど、それぞれの立場から発表、議論がなされました。

会場には、JR関係者、学院・研究センター所属の教職員はもとより、退職教員、修了生、在学生、一般市民と90名を超える参加があり、シンポジウムは盛況裏に終了しました。

また、シンポジウムを記念して『観光創造学へのチャレンジ』と題した叢書（CATS叢書第11号）が発行されました。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院、観光学高等研究センター）



感謝状贈呈式の様子



シンポジウム会場の様子



観光地域マネジメント寄附講座10周年記念叢書「観光創造学へのチャレンジ」

## 医学部寄附講座「探索病理学講座」が終了



感謝状贈呈の様子（左から西原広史特任教授，笠原正典医学研究科長，山口総長，鎌田理事長，田中仲裁教授）

平成20年10月に開講した探索病理学講座は、2期8年を経て、3月末にて無事任務を完了しました。本講座が開講した平成20年当時は、我が国の純粋な基礎医学研究のレベルは世界屈指でしたが、臨床研究の世界ランキングが低いと、臨床研究の発展が我が国には重要であるという風潮がある時期でした。探索病理学講座は「基礎研究の成果をいち早く臨床にフィードバックすること、すなわちそれが「トランスレーショナル・パソロジー」であ

り、この目的を実現する講座として誕生しました。

本講座を核として、毎年、北海道探索病理シンポジウムを開催し、国内外の第一線の研究者を交えて、活発な議論が行われ、30名以上の大学院生を含む100名以上が参加する会として、若手医師・研究者教育にも大きな成果をあげることができました。また、本講座から数多くの学術論文が出版され、学会発表が行われました。さらには多くの若者が門を叩き、現在国内外で活

躍しています。特許申請は2件で、診療面ではがんの個別化医療が実現でき、国民に対して重要な成果があげられました。本講座から生まれた多くの成果はますます活用され、人材もますます活躍することと思います。

今回、主たる寄附者である社会医療法人 北斗 理事長の鎌田 一氏に、山口佳三総長から感謝状が手渡されました。

（医学院・医学研究院・医学部）

## 社会科学実験研究センターで 2016年度SAGE-北大社会科学国際優秀論文賞授与式を挙

3月16日（木）、文学研究科小会議室において「2016 SAGE-Hokkaido Award for Best Journal Article in Social Sciences（2016年度SAGE-北大社会科学国際優秀論文賞）」授与式を執り行い、関係者列席のもと、結城雅樹社会科学実験研究センター長から稲葉美里氏（文学研究科専門研究員／博士後期課程人間システム科学専攻修了）に、賞状及び副賞（目録）が授与

されました。

本賞は、SAGE Publications Asia-Pacific Pte Ltdと本学社会科学実験研究センターの共催により、本学大学院生の英文学術誌への掲載論文を表彰することで、本学が掲げる基本理念のうち、特に「フロンティア精神」「国際性の涵養」のもとに、人間と社会の関係をめぐる社会科学研究諸領域において将来国際的に活躍できる人材育成に

寄与することを目的として2015年度に設立されたものです。

受賞者は、2017年度中に本学キャンパスで開催されるSAGE Publications Asia-Pacific Pte Ltdの担当者との茶話会に出席します。

（社会科学実験研究センター）

受賞者：稲葉美里氏（文学研究科専門研究員／博士後期課程人間システム科学専攻修了）

標 題：Robustness of linkage strategy that leads to large-scale cooperation.  
（大規模協力の達成を可能にする連結戦略の頑健性）

著 者：稲葉美里，高橋伸幸，大槻 久

掲 載 誌：Journal of Theoretical Biology, 409, 97-107

受賞理由：協力の進化は、社会科学・自然科学における過去数十年にわたる最重要課題の一つである。本論文は、人間社会（特に近代以前の共同体型社会）における協力の存在を説明しうるメカニズムとして近年特に注目を集めている「連結（linkage）」に着目し、その成立要件を探ったものである。人間の認知能力の限界がもたらすノイズを考慮に入れた上で、数理解析とコンピュータシミュレーションを用いて、連結が協力の進化的基盤となりうるための境界条件を理論的に明らかにし、理論生物学のトップジャーナルの一つに掲載された本論文は、文理にまたがる人間科学諸領域に対して強いインパクトを持つものであると評価した。



受賞者の稲葉氏（左から3人目）と結城センター長ほか列席者

## 環境健康科学研究教育センターが平成28年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催

3月7日（火）に環境健康科学研究教育センターにおいて、平成28年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催しました。今回はプログラム修了生2名（工学院：Amarasiri Kalaha Panditha Koralage Mohan, 農学院：Lucy Lahrita）に対して、小笠原克彦環境健康科学研究教育センター長からディプロマが授与されました。「社会と健康」ディプロマプログラムは、平成26年後期からスタートしましたが、開設以降初めて留学生にディプロマが授与されました。

本プログラムは、本学大学院のすべての専攻・学院・研究科に在籍する大学院生に開かれたプログラムです。本プログラムでは、大学院共通授業「社会と健康」から5領域20単位以上（うち、必修科目11単位以上）を体系的に学ぶカリキュラムを編成しています。

また、「社会と健康」に加えて、これまでに各学院・研究科が提供する科目、あるいは大学院共通授業として提供されている57科目が、ディプロマプログラムへの振替科目として認められています。「社会と健康」領域において、環境要因と健康・予防に関する知識、研究技法を学ぶ意欲がある大学院生に対して、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、研究課題に必要なPublic Healthに関わる知識を得るため科目選択の指針を与えています。本プログラムの指針に沿って科目選択し、単位が認められた学生に対して、「社会と健康」に関する知識と実践教育を受けたことを証明するディプロマを授与します。

「社会と健康」ディプロマは、平成27年3月に第1回目の授与を行い、今回は第4回目の授与式となり、累計10

名がプログラムを修了しました。医学研究科、教育学院、保健科学院、文学研究科からのプログラム参加者に続き、今年度は新たに農学院、獣医学院、工学院所属の学生が参加しており、研究分野の垣根を越えた文理融合型の人材育成となっています。留学生の参加も増え、今後ますます多様な人材の輩出が期待されます。

（環境健康科学研究教育センター）



授与式後の記念撮影

## 脳科学研究教育センター一発達脳科学専攻第13期修了生に修了証書授与

3月23日（木）の修士・専門職学位・博士学位授与式後に、エンレイソウ第1会議室において、脳科学研究教育センターが設置する発達脳科学専攻教育プログラム修了生に対し、渡邊雅彦センター長から修了証書が授与されました。

今年度の修了生は第13期生として、修士課程5名（徳田真佑、中村有佑：文学研究科、森さくら：生命科学院、漆原彩花：教育学院、亀田将史：医学研究科）、博士課程1名（宮崎 茜：医学研究科）の所属学院・研究科の学位取得に加えて発達脳科学専攻所定の修了要件を充足し、修了が認定されたものです。

センターでは、脳科学に関する大学院共通授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、北広島クラッセホテルでの

合宿研修、脳科学シンポジウムの開催、複数の研究科等に所属する基幹教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、修了論文の公開発表会や合宿研修では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の大学院生・教員に自分の研究を理解してもらうことを特に重視しています。

発達脳科学専攻は、文理医系融合型の脳科学研究のバーチャル専攻とし

て、平成15年度に発足し、現在は学内10研究科（学院）にわたる大学院生を対象として複雑な機能をもつ脳について融合した教育プログラムを編成し、研究科枠を超えた人材育成を図っています。これまでに修士課程81名及び博士（後期）課程23名、計104名の修了生を送り出しています。

（脳科学研究教育センター）



渡邊センター長から修了証書の授与



今年度の修了生と基幹教員など

## 総合博物館「知の交差点」で卒論ポスター発表会を開催

総合博物館では独自の教育プログラム「ミュージアムマイスター認定コース」の一環として、平成20年度より「卒論ポスター発表会」を開催しています。学部4年生が卒業研究をA0サイズ1枚のポスターにまとめて、市民や観光客の方々、他分野の学生や教職員にわかりやすく発表し、質問に受け答えします。北大生の研究を広く社会に伝えるだけでなく、学生のコミュニケーション能力の向上を図ることを目的としています。

9回目を迎えた今年度は、総合博物館に新設された「知の交差点」エリアで3月4日（土）・5日（日）に開催しました。

ポスターとホームページで発表者を募集した結果、農学部から6名、工学部から3名、理学部から3名、文学部から1名、水産学部から1名の計14名が参加しました。専門分野外の方々に

向けたポスターを完成させるまでに、当館の担当教職員の指導や他の発表者とのディスカッションを行う中間発表会に参加し、そこで得た意見を取り入れつつ、改訂を繰り返しました。さらに様々な来場者を想定し、それぞれに応じた説明のリハーサルを重ねて準備しました。発表会当日は、緊張しながらも来場者とのコミュニケーションを楽しみながら説明していました。

発表会の運営も例年どおり学生が担い、今年度は文学部から1名が参加しました。プログラムの制作ではコンセプトやデザインを一から考え、表紙のデザインには会場である「知の交差点」と12学部のイメージを取り入れました。また、発表会当日には司会や受付を担当し、スムーズに進行するよう発表者をサポートしました。

発表会の最後には、2日間の来場者の投票による「来館者賞」、市民5名

と本学教職員5名から成る審査員の評価による「最優秀賞」「優秀コミュニケーション賞」「優秀デザイン賞」が決定しました。「最優秀賞」は水産学部の江口 剛さんが、「来館者賞」は農学部の熊野舞香さんと菅野厚志さんが、「優秀コミュニケーション賞」は農学部の山内洋輔さんが、「優秀デザイン賞」は理学部の久保孝太さんと文学部の佐々木蓉子さんがそれぞれ受賞し、中川光弘館長から賞状と記念品が授与されました。

発表会当日の様子や参加した学生の事後考察レポートは当館ホームページで公開しています。

◆<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/list/12261/>

(総合博物館)



市民の方に説明する江口さん



来場者でにぎわう「知の交差点」

## ■お知らせ

# 大学文書館公文書室が「国立公文書館等」の指定を受ける

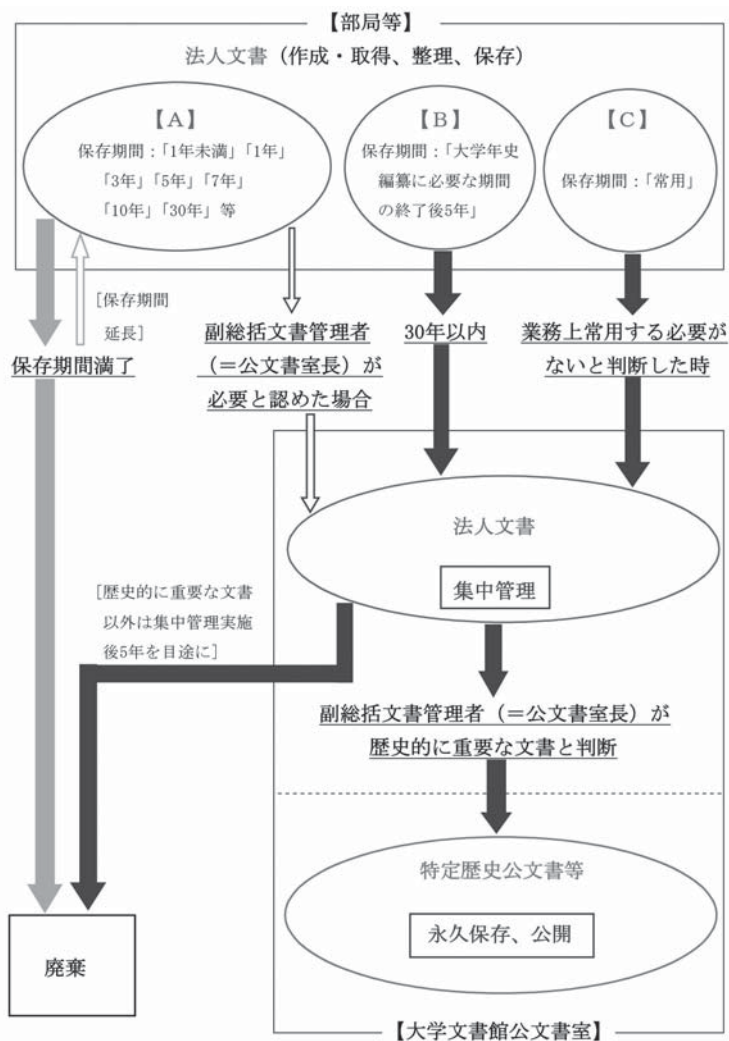
4月に、大学文書館に公文書室と沿革資料室を設置しました。同時に、公文書室は、内閣総理大臣から「国立公文書館等」の施設指定を受けました。

公文書室は、国立公文書館と同様の機能を持つ施設として、歴史的に重要な大学公文書を「特定歴史公文書等」として保存し、公開する役割を担うこととなります。あわせて、公文書室では、「法人文書管理規程」の改正に伴い、今年度から法人文書の集中管理を実施することとなります。集中管理の対象となる法人文書の公文書室への管理換え、その他、歴史的に重要な文書の移管にご協力をお願いします。

また、公文書室と共に設置した沿革資料室では、従来通り、本学に関する公文書以外の歴史的な資料を収集・整理・保存し、広く利用に供していきます。大学関係者（卒業生、教職員など）や、研究室、事務室、同窓会、学生寮、部・サークルなどの大学関係組織の資料、その他、大学に関する写真・刊行物などの情報がありましたら、ご一報をお願いします。

本学は2026年に創基150周年を迎えます。大学文書館では150周年に向けて、大学の歴史を新しい世代に伝えていく歴史的な文書・資料の収集・保存に努めて参ります。

(大学文書館)



北海道大学における公文書管理の流れ



大学文書館外観

### 【大学文書館】

住所：〒060-0808 札幌市北区北8条西8丁目（クラーク会館の西隣）

電話/FAX：011-706-2395 E-mail：archives@general.hokudai.ac.jp

## 平成29年度 人間ドックの実施について

文部科学省共済組合北海道大学支部では、文部科学省共済組合本部の指導の下、保健事業の一環として健康管理の推進を目的に人間ドックを次のとおり実施しています（任意継続組合員を含む）。

なお、平成19年度より、受付等については専門業者へ外部委託となり、組合員が直接ホームページ等から申込みしていただくこととなりますので、よろしくご協力願います。

1. 申込期間

平成29年4月1日（土）～12月20日（水）

2. 対象者

満年齢35歳以上（平成29年4月1日現在）の組合員（任意継続組合員を含む）及び組合員の被扶養者である配偶者

3. 補助額

組合員 30,000円（上限。前年度25,000円）

被扶養配偶者 25,000円（上限。前年度15,000円）

（利用料金が共済組合助成額を下回る場合は、利用料金）

共済組合が指定する健診機関での受診に限ります。

受診料の個人負担額は、医療機関に支払います。

4. 健診機関

文部科学省共済組合ホームページ掲載の「健診機関リスト」から各自選択します。

5. 申込方法

申込方法につきましては、昨年度と同様の取扱いとなりますので、詳細については文部科学省共済組合ホームページでご確認願います。

なお、ホームページを閲覧できない方は、郵送での申込となりますので、所属部局等の担当者へお尋ねください。

文部科学省共済組合ホームページアドレス

<http://www.monkakyosai.or.jp/>

お問い合わせ先

株式会社イーウェル 健康サポートセンター

TEL 0570-057120

受付時間 （平日）10時～20時 （土・日・祝）10時～17時

6. その他

平成20年度から健康保険組合に「特定健康診査」が義務づけられたことに伴い、今回実施する健康診断結果のうち、法定健診項目及び特定健診項目に関する診断内容及び問診結果等の個人情報については保有・利用させていただきます（目的外利用はいたしません）。

（文部科学省共済組合北海道大学支部）



## 博士学位記授与

3月23日（木）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は299人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は19人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

（学務部学務企画課）

### 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（文学）	あきもと ゆう すけ 秋元 由 裕		初期ルカーチにおける内在と超越の問題－ハイデルベルク美学論稿研究序説－ 主査：教授 藏田 伸雄
	おおくま とも ゆき 大熊 智 之		近代日本における拓殖教育の展開と「植民者」像 主査：教授 権 錫永
	かめおか あつ こ 亀岡 敦 子		近世福建漳州地域の陳元光信仰と宗族の形成 主査：特任教授 三木 聰
博士（学術）	ながとも けん じ 長友 謙 治		ロシアの穀物輸出国としての発展可能性と制約要因 主査：教授 山村 理人
博士（文学）	ながの まさ ひろ 永野 正 宏		一九世紀の蝦夷地・北海道における痘瘡流行対策とアイヌ社会 主査：准教授 谷本 晃久
	むとう みよへい 武藤 三代平		明治期における榎本武揚の権力構造 主査：教授 白木沢 旭児
	ゴ 琳 呉 琳		コーパスに基づく日本語慣用句の研究 主査：教授 池田 証壽
	チュウ ヒョン ジン 崔 鉉 鎮		韓国語一型アクセントの研究 主査：准教授 李 連珠
	マ イン ルイ 馬 穎 瑞		日本語疑問文の統語語用論的研究 主査：教授 加藤 重広
	やすだ たか ひろ 安田 崇 裕		ノダの本質的機能に基づく諸形式の統一的分析 主査：特任教授 小野 芳彦
	やまだ だい すけ 山田 大 輔		上古・中古漢語における完了・パーフェクト相の表現形式の変遷 主査：准教授 松江 崇
	ヨウ アン ナ 楊 安 娜		中国語の結果補語構造における下位カテゴリーの研究－＜限界性＞の観点から－ 主査：准教授 松江 崇
	よこた はじめ 肇 横田 肇		国木田独歩の創作態度と方法－基点としての「小民」－ 主査：教授 中村 三春
	リ エン 媛 李 媛		篆隸万象名義の研究 主査：教授 池田 証壽
	クチャーレンバイブーン KUCHAROENPHAIBUL シリヌット SIRINUD		社会運動論の観点から見るタイ－日における学生運動及び学生政治意識 主査：教授 櫻井 義秀
	なかわけ よう 遼 中 分 遼		多数決と集合知：認識論的民主主義に対する行動科学のアプローチ 主査：准教授 竹澤 正哲
	まつだ く み美 松田 久 美		母親による乳幼児の顔表情からの感情読み取りメカニズムの解明 主査：教授 安達 真由美
	やまもと しょう た 山本 渉 太		捜査面接における面接者のラポール構築方略と発問タイプが被面接者から得られる情報に与える効果 主査：教授 仲 真紀子
	博士（法学）	きと あかね 茜 木戸 茜	
にしむら よう 子 西村 曜 子			保証契約締結プロセスの規律－イングランドにおける信頼の濫用法理の考察を中心に－ 主査：教授 曾野 裕夫

博士（経営学）	おか の たい き 岡 野 泰 樹	非財務情報の保証－会計士による保証業務の展開－ 主査：教授 吉見 宏
博士（経済学）	コウ ホク カン 黄 霖 寒	Essays on Determinants and Measurements of Productivity (生産性の決定要因と計測方法に関する研究) 主査：教授 町野 和夫
	しら きざわ りょう こ 白木澤 涼 子	明治地方自治体制と町内会 主査：准教授 満菌 勇
	ソム サイ SOMSAY オウ アン ビラ ライ OUANPHILALAY	Empirical Analyses on Consumption, Health, and Education in Laos (ラオスにおける消費, 健康, 教育に関する実証分析) 主査：准教授 樋渡 雅人
	やま ぎき しん こ 山 崎 慎 吾	Essays on Rent Seeking, Tax Competition, and Private Provision of Public Goods (レントシーキング, 租税競争, そして公共財の自発的供給についての研究) 主査：教授 板谷 淳一
博士（医学）	いちの かわ かず おみ 市之川 一 臣	Down-regulated expression of human leukocyte antigen class I heavy chains is linked to poor prognosis in non-small cell lung cancer. (非小細胞肺癌においてHLA class IH鎖の発現低下は予後不良と相関している) 主査：教授 松野 吉宏
	い ばた まこと 井 端 淳	A leukemogenic kinase, FIP1L1-PDGFRα, and a SUMO E3 ligase, PIAS1, form a positive crosstalk via their enzymatic activities. (白血病原因キナーゼであるFIP1L1-PDGFRαとSUMO化E3リガーゼであるPIAS1は, その酵素活性により正の相互作用を形成する.) 主査：教授 橋野 聡
	まつ むら よし ゆき 松 村 祥 幸	CD40 Expression in Human Esophageal Squamous Cell Carcinoma Is Associated with Tumor Progression and Lymph Node Metastasis (食道扁平上皮癌におけるCD40の発現は腫瘍の進行とリンパ節転移に関係する) 主査：教授 秋田 弘俊
	あさ い ひで つぐ 浅 井 英 嗣	虚血性心筋症ラットモデルにおける左室形成術の左室壁応力および心筋リモデリングに対する効果に関する研究 主査：教授 森本 裕二
	あ べ じ ろう 阿 部 二 郎	ドキソルピシン心筋症に対するミトコンドリアドラッグデリバリーシステムを用いた心筋前駆細胞移植の有効性検証 主査：教授 畠山 鎮次
	アリジャン カ デル 艾力江 卡德尔	Plectin is a novel regulator for apical extrusion of RasV12-transformed cells (プレクチンはRas変異細胞の頂端側への逸脱に関わる新規制御因子である) 主査：教授 野口 昌幸
	い とう じゅん 伊 藤 淳	慢性C型肝炎患者におけるソフォスブビル関連薬剤耐性変異に関する研究 主査：准教授 本間 明宏
	い ひら けい 圭 井 平 圭	子宮体癌の上皮間葉転換に関わるmiR-124/IQGAP1シグナル経路に関する研究 主査：教授 佐邊 壽孝
	いわ さき だい すけ 岩 崎 大 輔	マウス後肢リンパ浮腫モデルを用いたリンパ管新生因子の発現と悪性黒色腫の転移機構に関する検討 主査：教授 久下 裕司
	うえ き まさ ひろ 植 木 将 弘	STAT1 coiled-coil domain新奇優性阻害型変異によるMendelian susceptibility to mycobacterial diseasesの病態解析 主査：教授 村上 正晃
	うま つめ たけし 武 馬 詰 武	妊娠中の血小板機能の変化と母体循環の変化についての病態生理学的研究 主査：教授 豊嶋 崇徳
	えん どう か おり 遠 藤 香 織	海綿骨の骨質と力学的特性に関する研究 主査：教授 生駒 一憲
	えん どう だい すけ 遠 藤 大 介	化学療法耐性卵巣癌に対するEZH2阻害剤の相乗効果に関する検討 主査：教授 近藤 亨
	おおく ぼ りょう 亮 大久保 亮	統合失調症における幼少期ストレス, 人格傾向が抑うつ症状と自殺念慮・自殺企図に与える影響 主査：教授 橋野 聡

博士（医学）	おおにし 大西貴士	遺伝子改変マウスを用いた椎間板変性におけるcaspase 3遺伝子の果たす機能解析 主査：教授 山本 有平
	おおの 大野健太郎	顔面神経再建における神経縫合法の違いによる軸索再生効果についての基礎的研究 主査：教授 神谷 温之
	おおの 大野高司	もやもや病におけるCTおよびMRIに関する放射線診断学的研究 主査：教授 寶金 清博
	おがわら 小川原りょう亮	新しいパルス波形解析を利用した多層シンチレータ弁別による高分解能PET装置の検討 主査：教授 清水 伸一
	おぼら 小原まさひこ 雅彦	320列Multi-detector CT連続心筋撮像を用いて測定した定量的心筋血流量による冠動脈疾患の診断能について 主査：教授 玉木 長良
	かが 加賀さなほ 早苗	心エコー法による肺動脈弁逆流速度波形分析の心不全診断における意義 主査：教授 丸藤 哲
	かく 郭カサシ 志	日本人女性におけるエストロゲン受容体陽性乳癌の罹患リスク予測モデルの構築 主査：教授 櫻木 範明
	かとう 加藤まりん 麻倫	低分化胃癌の個別化病理診断のための遺伝子プロファイリング 主査：准教授 本間 明宏
	かね 金平たかひろ 孝博	肺がんスポットスキヤニング陽子線治療における動体追跡照射の研究 主査：教授 松野 吉宏
	きうち 木内たかゆき 隆之	非小細胞肺癌における免疫プロテアソームサブユニットβ5iの発現 主査：教授 秋田 弘俊
	きた 北おきょうこ 尾恭子	遺伝子解析をしたAuditory Neuropathy症例の歪成分耳音響放射（DPOAE）の経過 主査：教授 久住 一郎
	こわ 黄うてい 于庭	Effectiveness of the video-based home exercise on clinical and radiographic outcomes for subjects with osteoarthritis of the knee. (変形性膝関節症症例に対するビデオプログラムを用いたホームエクササイズの臨床的およびX線学的効果の検討) 主査：教授 大滝 純司
	パウデル Poudel Saseem	Development of safe and efficient training system for laparoscopic inguinal hernia repair surgery (安全かつ効率的な腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術のトレーニングシステムの構築) 主査：教授 佐藤 典宏
	さの 佐野いつき 逸紀	胆管空腸吻合部狭窄および膀胱空腸吻合部狭窄に対するバルーン内視鏡治療後の長期臨床成績を検討する多施設共同後方視研究 主査：准教授 神山 俊哉
	しみず 清水ゆか 水裕香	全身性エリテマトーデスにおける臓器病変の病態解明の研究 主査：教授 有賀 正
	すず 鈴木しょうたろう 木翔多朗	ケラチン1タンパク質C末端ドメインにおける変異とその病原性に関する研究 主査：教授 石田 晋
	たか 高しまけん 島謙	ウイルス感染・腫瘍に対する自然免疫応答の制御機構 主査：教授 村上 正晃
	たけ 武だゆうへい 田洋平	TLR3アジュバントによるCTL依存性抗腫瘍免疫応答の解析 主査：准教授 北村 秀光
タン 譚ナリヒロ 成博	Studies on regeneration therapy for central nervous system using bone marrow stromal cells (骨髄間質細胞移植による中枢神経再生医療の研究) 主査：教授 佐々木 秀直	
てん 天ま太郎 満太郎	肥大心の心筋虚血における不整脈機序の解明カルシウムカルモジュリン依存性タンパク質キナーゼIIを介したスモールコンダクタンスカルシウム感受性カリウムチャネル活性化の役割 主査：教授 大場 雄介	
とよ 豊しまくに 島邦よし義	COBRAを用いた双極性障害の認知機能障害に関する検討 主査：教授 吉岡 充弘	

博士 (医学)	とよ なが たく や 豊 永 拓 哉	In vivo hypoxia imaging of brain tumors can visualize microscopic necrosis and anaerobic glycolysis. (脳腫瘍に対するインビボ低酸素イメージングによって腫瘍内の顕微鏡的壊死や嫌気性糖代謝を可視化する) 主査:教授 福田 諭
	なか い ゆき えい 中 井 幸 衛	一般成人における抑うつに対する幼少期ストレス, 気質, ライフイベントの影響: 階層的重回帰分析による検討 主査:教授 西浦 博
	の ぐち けい じ 野 口 圭 士	急性冠症候群患者における長期のアテローム血栓性イベント発症の危険因子に関する研究 主査:教授 松居 喜郎
	はま の ひろ き 濱 野 博 基	びまん性特発性骨増殖症における応力遮断性骨粗鬆症に対する骨粗鬆症治療薬の効果に関する研究 主査:教授 荒戸 照世
	はや さか いたる 早 坂 格	小児の遺伝性間質性肺疾患の診断に関する研究 主査:教授 西村 正治
	はやし あさ こ 林 麻 子	カルシニューリン阻害薬による腎毒性を呈するマウスモデルにおけるCD44陽性糸球体壁側上皮細胞の役割 主査:教授 岩永 敏彦
	はや せ えい こ 早 瀬 英 子	パネト細胞増殖因子としてのR-Spondin1と抗菌ペプチドを用いた腸内エコロジシステムの制御法 主査:教授 大場 雄介
	はら だ かず あき 原 田 一 顕	大腸癌の原発巣, 転移巣及びFOLFOX療法後の再発巣における体細胞遺伝子変異の比較検討 主査:教授 山下 啓子
	ハルタル Khaltar アマルトツプシン Amartuvshin	Instrumental Activities of Daily Livings (IADL) and Depression in Community-Dwelling People Aged 60 Years or Older in Kandy District, Sri Lanka - With Special Reference to Ethnicity - (スリランカ・キャンディ地区の地域高齢者における手段的日常生活動作とうつ-民族性の視点から-) 主査:教授 西浦 博
	ば ば りき や 馬 場 力 哉	高純度アルギン酸ゲルを使用した軟骨修復治療法の開発 主査:教授 清水 宏
	ひろ せ たか ゆき 広 瀬 貴 行	PD-L1/PD-L2を共発現したマウスB-1細胞によるT細胞のアロ応答抑制に関する研究 主査:教授 清野 研一郎
	ほし の こう じ 干 野 晃 嗣	マウス海馬スライスにおける神経炎症とシナプス可塑性に関する研究 主査:教授 渡邊 雅彦
	ほん たに かず とし 本 谷 和 俊	人工多能性幹細胞 (iPS細胞) からの軟骨細胞分化誘導と糖鎖解析を用いた新規バイオマーカーの探索 主査:教授 清野 研一郎
	まえ だ ゆう すけ 前 田 佑 介	負荷心筋血流SPECTにおける腹臥位撮像時に, 負荷方法の違いが及ぼす影響に関する研究 主査:教授 森本 裕二
	ま ぎ たけ ひろ 真 木 健 裕	食道癌, 胆管癌, 膵癌, 肺癌におけるWilms tumor 1の発現解析 主査:教授 野口 昌幸
	まき た みのる 牧 田 実	V-ATPase阻害薬が常染色体優性多発性嚢胞腎の嚢胞形成に与える影響の解析 主査:教授 水上 尚典
	みづ しま たけし 水 島 健	ブタ食道内視鏡的粘膜下層剥離術後の狭窄モデルに対するヒト羊膜由来間葉系幹細胞の培養上清投与による狭窄予防効果 主査:教授 岩永 敏彦
	みや ぎき あかね 宮 崎 茜	食習慣・肥満の心理学的・神経生理学的影響に関する研究 主査:教授 田中 真樹
	みや もと しゅう いち 宮 本 秀 一	Trinitrobenzene sulfonic acid誘発腸炎モデルラットに対するヒト羊膜間葉系幹細胞投与とヒト羊膜間葉系幹細胞由来培養上清の注腸投与の効果 主査:教授 武富 紹信
	もり かわ しゅんたろう 森 川 俊太郎	乳児糖尿病をきたす重症Wolfram症候群の発症機序に関する研究 主査:教授 渥美 達也

博士 (医学)	よし 吉 むら 村 たか 高 あき 明	婦人科腫瘍におけるスポットスキヤニング陽子線術後全骨盤照射に関する研究 主査：教授 篠原 信雄
	わか 若 つき 槻 ゆ 百 み 美	月経前不快気分障害症状に対する心理社会的因子の影響 主査：教授 福田 諭
	わた 渡 なべ 邊 し 史 ろう 郎	Methotrexate関連リンパ増殖性疾患における <sup>18</sup> F-FDG PET/CTの有用性についての研究 主査：教授 佐藤 典宏
	わ 和 だ 田 すすむ 進	骨との固着能を有する高強度ハイドロゲルの開発およびその生物学的固着機序の解明に関する生体材料学的研究 主査：教授 岩崎 倫政
博士 (歯学)	いし 石 だ 田 けい 桂 た 大	Relationship between neuroticism and oral health-related quality of life in patients with removable partial dentures (可撤性部分床義歯装着患者における神経症傾向と口腔関連QOLの関連) 主査：教授 横山 敦郎
	うえ 上 むら 村 こう 光 たろう 太郎	持続的な機械的刺激はRAW264.7細胞における破骨細胞分化を抑制する 主査：特任教授 飯田 順一郎
	うち 内 やま 山 せい 聖 や 也	Mechanical effects of the shape of alveolar ridges and occlusal contacts on supporting tissue of implant overdentures (顎堤形態と咬合接触がインプラントオーバーデンチャーの支持組織に与える力学的影響) 主査：教授 横山 敦郎
	か 加 が 我 なほ 公 ゆき 行	Cell adhesion behavior on micro/nano patterned structures (マイクロ・ナノパターン構造に対する細胞付着挙動) 主査：教授 横山 敦郎
	きた 北 むら 村 かおる かおる	小児歯科患者に内在する情動変化に関する研究－皮膚電気活動と短時間心拍変動解析を用いた検討－ 主査：教授 八若 保孝
	つち 土 や 屋 さとし 聡	金属イオン溶出抑制を目的とした矯正用ステンレスワイヤーへの化学修飾について 主査：特任教授 飯田 順一郎
	まへ 前 だ 田 わ 輪 かとし 嘉幹	ハイドロキシアパタイトブロックによる圧縮力がMC3T3-E1細胞に与える影響 主査：教授 横山 敦郎
	よし 吉 ざわ 沢 さ 早 おり 織	Effectiveness of hypoxic lip training for improving lip incompetence (口唇閉鎖不全者に対するHypoxic lip trainingの有効性) 主査：特任教授 飯田 順一郎
	よし 吉 たに 谷 まさ 正 ずみ 純	Significance on replacement of a mandibular second molar with a dental implant A non-linear finite element analysis (インプラント補綴における下顎第二大臼歯の意義) 主査：教授 横山 敦郎
	おお 大 しま 島 り 理 さ 紗	試作リン酸化プルラン含有MTA根管充填用シーラーのCa <sup>2+</sup> 溶出量、pHおよび封鎖性 主査：教授 吉田 靖弘
	かわ 川 もと 本 こう 康 へい 平	Characterization and evaluation of graphene oxide scaffold for periodontal wound healing of dog class II furcation (イヌ根分岐部Ⅱ級欠損の歯周組織治癒のための酸化グラフェンスキャフォールドの特性評価) 主査：教授 網塚 憲生
	さくら 櫻 い 井 あつ 敦 なか 中	Chronological immunolocalization of sclerostin and FGF23 in the mouse metaphyseal trabecular and cortical bone (マウス骨幹端骨梁および皮質骨におけるスクレロスチンとFGF23の経時的局在変化) 主査：教授 佐野 英彦
しま 島 だ 田 ひで 英 とも 知	エチドロネートによるヒト骨型アルカリ性ホスファターゼ活性阻害に対する2価金属と基質の影響 主査：教授 山崎 裕	
たか 高 はし 橋 むつ 睦 み 美	札幌市における中高生の口腔乾燥感に関する調査 主査：教授 北川 善政	
なか 中 たに 谷 みつ 充 のり 宣	裂開状骨欠損が垂直歯根破折抵抗性に及ぼす影響 主査：教授 土門 卓文	

博士（歯学）	みや た さほり 宮 田 さほり	Assessment of antimicrobial and biocompatible effects of Au <sub>5</sub> (Capt) <sub>18</sub> clusters photoexcited by blue LED (カプトプリル保護金クラスターの青色LED光照射による抗菌効果と生体親和性の評価) 主査：教授 柴田 健一郎
	かしま ひろき 加 島 裕 基	フォークヘッド転写因子FOXO3aによるインターフェロン-β遺伝子の発現制御機構の検討 主査：教授 北川 善政
	かめ ぎき りょう すけ 亀 崎 良 助	<i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans</i> のゲノムDNAはマクロファージに対してnucleotide-binding domain-like receptor containing protein 3インフラマソームを活性化してIL-1βを誘導する 主査：教授 北川 善政
	すず き しゅん いち 鈴 木 峻 一	Blood oxygenation of masseter muscle during sustained elevated muscle activity in healthy participants (持続的なヒト閉口筋随意収縮時の筋内血液酸素動態) 主査：教授 北川 善政
	つち や えり か 土 屋 恵 李 佳	Histochemical assessment of the interplay between vascular endothelial cells and septoclasts during endochondral ossification in mice (軟骨内骨化における血管内皮細胞とseptoclastの細胞間連携に関する組織化学的検索) 主査：教授 北川 善政
	やなぎ や み さ 柳 谷 美 沙	口腔扁平上皮癌における腫瘍血管マーカーCXCR7の発現と臨床病理学的因子との比較解析 主査：教授 北川 善政
	や はら もと き 箭 原 元 基	Inhibition of neuropeptide Y Y1 receptor induces osteoblastic differentiation in MC3T3-E1 cells (Neuropeptide Y Y1 受容体の阻害によるMC3T3-E1細胞における骨芽細胞分化の誘導) 主査：教授 鄭 漢忠
	やま ぐち きょう こ 山 口 響 子	血漿エクソソーム由来microRNAを用いたグリオプラストーム診断バイオマーカーの探索 主査：教授 鄭 漢忠
よし たつ り え こ 義 達 理 恵 子	口腔がん細胞のシスプラチン耐性化に伴う白金系抗がん剤及び強心配糖体に対する感受性の変化 主査：教授 鄭 漢忠	
博士（獣医学）	ふる やま わか こ 古 山 若 呼	Studies on the function of ebolavirus glycoprotein-specific antibodies (エボラウイルス表面糖蛋白質に対する抗体の機能に関する研究) 主査：教授 高田 礼人
	イナス ハメド Enas Hamed マハメド Mahmoud エルハテブ Elkhateeb	The role of mouse 2', 5'-oligoadenylate synthetase 1 paralogs (マウス2',5'-オリゴアデニル酸合成酵素1パラログの役割) 主査：教授 安居院 高志
	うじ け あや こ 氏 家 絢 子	RIN14B細胞の細胞内Ca <sup>2+</sup> 動態に対する硫化水素の作用に関する研究 主査：准教授 乙黒 兼一
	ニバウィット NIPAWIT カーンバンチョブ KARNBUNCHOB	A study on the avian-to-swine transmission of influenza A viruses (A型インフルエンザウイルスの鳥豚間伝播に関する研究) 主査：教授 伊藤 公人
	こ ばやし たけ し 小 林 武 志	アドレナリン α <sub>2A</sub> 受容体サブタイプに対する α <sub>2</sub> 作動薬の作用に関する研究 主査：准教授 乙黒 兼一
	ジャン ジ フ 単 智 夫	Studies on therapeutics of prion diseases – Establishment of novel screening method for anti-prion compounds and cell therapy model – (プリオン病の治療法に関する研究 – 抗プリオン薬新規スクリーニング法と細胞治療モデルの確立 –) 主査：教授 堀内 基広
	すず き もと ふみ 鈴 木 基 史	細胞周期チェックポイントの阻害が制がん剤および放射線の殺細胞効果に与える影響の解析 主査：教授 稲波 修
	ズックファイチュ Duc-Huy Chu	Studies on the control of avian influenza virus infections in poultry and humans (家禽とヒトにおける鳥インフルエンザウイルス感染の制御に関する研究) 主査：教授 迫田 義博
ふか の けい こ 深 野 圭 伍	褐色脂肪細胞の新規増殖機構とその組織形成における役割 主査：教授 木村 和弘	

博士 (獣医学)	やまぐちともゆき 山口智之	Studies on DNA gyrase of quinolone-resistant <i>Mycobacterium leprae</i> (キノロン耐性らい菌のDNAジャイレースに関する研究) 主査:教授 鈴木 定彦
博士 (情報科学)	いのうえゆうま 井上祐馬	Studies on Permutation Set Manipulation Based on Decision Diagrams (決定グラフに基づく順列集合処理に関する研究) 主査:教授 湊 真一
	きむらけいご 木村圭吾	A Study on Efficient Algorithms for Nonnegative Matrix/Tensor Factorization (非負値行列/テンソル分解の効率のよいアルゴリズムに関する研究) 主査:教授 工藤 峰一
	ヤナカトリン Jana Cathrin バックフース Backhus	A Robust Self-Constructing Normalized Gaussian Network for Online Machine Learning (オンライン機械学習のための頑健な自己構築正規化ガウスネットワーク) 主査:教授 杉本 雅則
博士 (工学)	いしごかあみや 石坂文哉	Growth and Characterization of Phosphide-based III-V Semiconductor Nanowires (リン系III-V族化合物半導体ナノワイヤの成長と評価に関する研究) 主査:教授 本久 順一
	うちだたかみみ 内田貴史	パターン依存酸化法と再酸化で作製したシリコンマルチ結合量子ドットに関する研究 主査:教授 葛西 誠也
	うちだだいすけ 内田大輔	時間分解能型アナログ-デジタル変換器およびCMOSイメージセンサ応用に関する研究 主査:教授 本村 真人
	くまごきゆうすけ 熊崎祐介	Formation and Device Application of III-V Semiconductor-based Functional Microstructures Achieved by Electrochemical Process (電気化学的制御に基づくIII-V族化合物半導体の微細加工と機能素子応用に関する研究) 主査:教授 葛西 誠也
	くろだりょうた 黒田亮太	Study on Threshold Logic Circuit Implementation Using GaAs-based Nanowire Network and High Precision GaAs Digital Wet Chemical Etching for Nanowire Network Formation (GaAsナノ細線網を利用したしきい論理回路実装と細線網形成のための高精度GaAsデジタル 湿式化学エッチングに関する研究) 主査:教授 橋詰 保
	さとうまさき 佐藤将基	Study on Characterization of GaAs-based Electron Nanodevices Using Local Conductance and Surface Potential Modulation Techniques (局所コンダクタンス変調および表面電位変調を用いたGaAs系電子ナノデバイス評価に関する 研究) 主査:教授 本久 順一
	にゆきりょう 煮雪亮	ランダムレーザーの発振モード制御に関する研究 主査:教授 富田 章久
博士 (情報科学)	のぎわじん 野澤仁	高精度な光複素振幅計測に向けた位相シフトデジタルホログラフィの計算アルゴリズムに関 する研究 主査:教授 富田 章久
	いっほんじま 一本嶋 佐理	新規2光子励起顕微鏡法を用いた表皮の恒常性維持に関する研究 主査:教授 根本 知己
	カクレル Khakurel クリシュナ プラサド Krishna Prasad	Apodized illumination coherent diffraction microscopy for imaging non-isolated objects (非孤立物体のイメージングのためのアポダイズ照明コヒーレント回折顕微鏡) 主査:教授 西野 吉則
	アハメド イスマイル Ahmed Esmail カマル シャラン Kamal Shalan	Optimization of nanoarchitectures for high-performance planar perovskite solar cells (高性能ペロブスカイト太陽電池に向けたナノ構造の最適化) 主査:教授 三澤 弘明
博士 (工学)	たなべあやの 田辺綾乃	透過型液晶デバイスを用いたレーザー走査型蛍光顕微鏡における波面収差補正に関する研究 主査:教授 根本 知己
博士 (情報科学)	あしはらふみとし 葦原史敏	地方議会会議録を対象とした意見抽出に関する研究 主査:教授 荒木 健治
	おおむらこうとく 大村光徳	インバーティブル符号を用いた3D DWTに基づく動画像伝送の誤り耐性強化に関する研究 主査:教授 長谷山 美紀
	くにもととしふみ 国本利文	楽器・音響機器向けのARMAデジタルフィルタ設計法 主査:教授 山本 強

博士 (情報科学)	クラフチック KRAWCZYK マレック Marek	Expanding Common Sense Knowledge Database using Data Mining on Reference Corpus (参照コーパスに対するデータマイニングを用いたコモンセンス知識データベースの拡張) 主査:教授 荒木 健治
	ささき かず と 佐々木 一人	テレビ会議における発話区間検出と音声雑音除去への応用に関する研究 主査:教授 長谷山 美紀
	しらふね まさ み 白船 雅巳	多数人体を考慮した多重反射環境における伝搬特性評価に関する研究 主査:准教授 山本 学
博士 (工学)	せのお ゆみ こ 妹尾 由美子	フォトニックアグリゲーションによる高速光アクセスネットワークの省電力化・高機能化の研究 主査:客員教授 可見 淳一
博士 (情報科学)	アラミーン ナッジャル Al-ameen Najjar	A Study on Public Safety Prediction using Satellite Imagery and Open Data (衛星画像およびオープンデータを利用する公共安全予測に関する研究) 主査:教授 宮永 喜一
	や づ もと き 谷津 元樹	統合型対話システムにおける話題適応及び駄洒落ユーモア処理に関する研究 主査:教授 荒木 健治
博士 (工学)	わたなべ ひろし 渡邊 ひろし	光ファイバネットワークにおける屋外設置パッシブコンポーネントの信頼性に関する研究 主査:客員教授 真鍋 哲也
	さ せ かず や 佐瀬 一弥	Development of a Real-time Brain Retraction Simulator Using Patient-specific Model (患者固有モデルを用いた実時間脳組織圧排シミュレータの開発) 主査:教授 近野 敦
	さ とう ゆう き 佐藤 佑樹	モデル縮約法の電磁界解析への応用に関する研究 主査:教授 五十嵐 一
	シエ 強 強 謝 強 強	Voltage Control via Residential Load Scheduling in Next Generation Power Distribution System (次世代配電システムにおける住宅負荷スケジューリングによる電圧制御に関する研究) 主査:准教授 原 亮一
	チン ギョウ スイ 陳 暁 帥	Numerical Models of Blunt Dissection and Brain Retraction for Neurosurgery Simulations (脳神経外科手術シミュレーションのための鈍的剥離と脳圧排数値モデル) 主査:教授 近野 敦
博士 (情報科学)	なが や ひろ こ 永谷 裕子	サービスサイエンスのアプローチでのアジャイル・チーム・ビルディング 主査:教授 小野里 雅彦
	ひ だか ゆう き 日高 勇気	回転機のトポロジー最適化および3次元形状最適化に関する研究 主査:教授 五十嵐 一
博士 (工学)	ファン ジェン 黄 鎔	Study of modern reconfiguration on distribution system based on flow algorithms (フローアルゴリズムに基づいた配電システムの新しい構成変更決定手法に関する研究) 主査:准教授 原 亮一
博士 (情報科学)	まえ はま ひろ き 前 濱 宏樹	Dimension-Driven Deformation and Adaptation of Finite Element Meshes for Efficient Computer Aided Engineering (効率的CAEのための有限要素解析用メッシュの寸法駆動変形とメッシュ適合) 主査:准教授 伊達 宏昭
	まる やま つばさ 丸山 翼	Development of virtual accessibility evaluation system by combining digital human models with 3-dimensional as-is environment models (デジタルヒューマンモデルと3次元as-is環境モデルを組み合わせた仮想アクセシビリティ評価システムの開発) 主査:教授 金井 理
博士 (工学)	レスナント ムルタ Lesnanto Multa プトラント Putranto	Design of Wide Area Monitoring Systems for Securing Voltage Stability (電圧安定性確保のための広域監視システムの設計) 主査:教授 北 裕幸
博士 (水産科学)	チョウ アン 张 勋	Predicting potential fishing zones of Japanese flying squid ( <i>Todarodes pacificus</i> ) using data from 4D-VAR assimilation system (4D-VARデータ同化システムを用いたスルメイカの潜在的漁場予測) 主査:教授 綿貫 豊



博士（水産科学）	パンデプニータ Pandey Puneeta	Spawning behavior, egg masses and paralarval development of the Japanese flying squid, <i>Todarodes pacificus</i> (スルメイカの産卵行動および卵塊とふ化幼生の発育に関する研究) 主査：教授 高津 哲也
	まつい はじめ 松井 萌	漁灯に対するイカ類の行動応答に関する研究 主査：教授 藤森 康澄
	エーケーエム ルフル A.K.M Rohu アミン Amin	Diversity of Vibrios in the Coral Reef Ecosystem of Ishigaki Island, Japan (石垣島周辺海域のサンゴ生態系におけるビブリオの多様性) 主査：教授 尾島 孝男
	たか はし えい すけ 高橋 英 佑	キュウリウオ科魚類の胚発生と生殖細胞に関する研究 主査：教授 水田 浩之
	やま き しょう ご 山木 将 悟	バクテリオファージを利用したヒスタミン生成菌の発育抑制とヒスタミン蓄積の制御 主査：教授 佐伯 宏樹
	ヨウ 楊	ギョク コウ 玉 紅
博士（環境科学）	アディヤ ADIYA サルウルザヤ SARUULZAYA	Thermokarst lake dynamics in the continuous and isolated permafrost zones, Mongolia (モンゴル連続永久凍土帯と点的永久凍土帯におけるサーモカルスト湖の変動) 主査：准教授 石川 守
	いとう まさ と 伊藤 優 人	Underwater frazil ice formation associated with supercooling in coastal polynyas – The role in high ice production and material cycle – (沿岸ポリニヤにおける過冷却に伴う海中でのフラジルアイス生成 – 高氷生産と物質循環への役割 –) 主査：教授 大島 慶一郎
	おお はた ゆう 大畑 有	Studies on lake ice thickness evolution with emphasis on roles of snow at Lake Abashiri, Hokkaido, Japan (北海道網走湖における湖水の氷厚発達過程および雪の役割に関する研究) 主査：教授 江淵 直人
	ささき ひろ たか 佐々木 央 岳	アラスカ・ランゲル山アイスコアから復元した北部北太平洋域への陸域起源物質沈着に関する研究 主査：教授 三寺 史夫
	みの わ まさ ひろ 箕輪 昌 紘	Frontal ablation of Glacier Perito Moreno, a lake-terminating glacier in Patagonia (パタゴニア氷原ペリート・モレノ氷河における末端消耗) 主査：准教授 杉山 慎
	すぎ め やす ひろ 杉目 康 広	Molecular developmental mechanisms of soldier-specific morphogenesis in a termite (シロアリにおける兵隊特異的な形態形成の分子発生機構) 主査：准教授 三浦 徹
	ティワリ ラビ Tiwari Ravi モハン Mohan	Dynamic properties of subalpine coniferous forests in Nepal Himalaya and Hokkaido (ネパール・ヒマラヤと北海道の亜高山帯針葉樹林の動態特性) 主査：教授 甲山 隆司
	のう み だい すけ 乃美 大 佑	Paternal roles on the facultative multiple breeding of Japanese tit (日和見的な複数回繁殖における雄の役割：シジュウカラ野外個体群の長期研究を通して) 主査：准教授 小泉 逸郎
	つじ やす よ 辻 泰 世	亜寒帯汽水湖（風蓮湖）における微細藻類バイオマスの空間変動：植物プランクトン、底生微細藻類、付着藻類の同時定量に基づいた多面的評価 主査：特任教授 門谷 茂
	いわ はら ゆ か 岩原 由 佳	北海道東部沿岸海域を中心としたカマイルカの分布と生息環境に関する研究 主査：教授 宮下 和士
てら うち な な 寺内 菜 々	Chemotaxis and phototaxis of gametes in brown algae having two heterogeneous flagella (2本の異質鞭毛を有する褐藻配偶子の走化性と走光性) 主査：教授 本村 泰三	

博士 (環境科学)	ジン イ Jin Lee	The effects of large-scale N fertilization on the interaction between plants and herbivorous insects in a deciduous broad-leaved forest (落葉広葉樹林における大規模窒素施肥が植物と植食性昆虫の相互作用に与える効果) 主査:教授 日浦 勉
	いの うえ たか ひろ 井 上 貴 央	Studies on the influences of trees and understory vegetation on the soil nitrogen dynamics in a cool-temperate mixed forest (冷温帯混交林における土壌窒素動態に対する樹木と下層植生の影響に関する研究) 主査:教授 柴田 英昭
	たか つ くに お 高 津 邦 夫	Ecological impacts of predator gigantism: experimental studies using cannibalistic salamanders (捕食者の巨大化の生態学的影響: 共食いするサンショウウオを用いた実験研究) 主査:准教授 岸田 治
	わか ばやし ひろ こ 若 林 紘 子	Theoretical and empirical examinations of multiple paternity as an index of multiple male mating (複数オス交尾の指標としてのマルチプルパタニティに関する理論的, 実証的研究) 主査:教授 齊藤 隆
	あさ くら いっ せい 朝 倉 一 星	Evaluation of wild genetic resources and development of tissue culture system in <i>Actinidia</i> species ( <i>Actinidia</i> 属植物における野生遺伝資源の評価と組織培養系の開発に関する研究) 主査:准教授 星野 洋一郎
	くま の たか ひろ 熊 野 貴 宏	The potential of witloof chicory ( <i>Cichorium intybus</i> L.) for stimulating the utilization of biomass resources derived from livestock wastes (畜産廃棄物系バイオマス資源活用に適したチコリの特性) 主査:教授 荒木 肇
	や ぐち もも 矢 口 桃	Mechanistic study of formic acid oxidation reaction on noble metal electrodes (貴金属電極におけるギ酸酸化反応機構に関する研究) 主査:教授 八木 一三
	おお しま ゆう 大 島 雄	動的構造を有する超分子結晶のデザインと物性 主査:教授 中村 貴義
ホウ 奇 レイ 彭 奇 齡	Study of molecular structure on carbon surface in nonaqueous electrolyte solution by sum frequency generation vibrational spectroscopy (非水電解質溶液中におけるカーボン表面の分子構造に関する和周波発生振動分光研究) 主査:准教授 叶 深	
博士 (理学)	おお さわ すすむ 大 澤 進	Mass Renormalization in the Nelson Model (ネルソンモデルにおける質量のくりこみ) 主査:教授 新井 朝雄
	か ぼ た ゆう たろう 加葉田 雄太郎	Recognition of plane-to-plane map-germs and its application to projective differential geometry (平面から平面への写像芽の認識問題とその射影微分幾何学への応用) 主査:教授 大本 亨
	みなみ だて たか あき 南 館 孝 亮	Electronic Properties of Organic Conductors $\lambda$ - (BEDT-STF) <sub>2</sub> MCl <sub>4</sub> (M=Ga, Fe) (有機伝導体 $\lambda$ - (BEDT-STF) <sub>2</sub> MCl <sub>4</sub> (M=Ga, Fe) の電子物性) 主査:准教授 松永 悟明
	いし づか しんのすけ 石 塚 紳之介	準安定相を経る酸化物ダストの均質核生成実験 主査:准教授 木村 勇気
	ち ぼ やう へい 千 葉 陽 平	Probing cluster structure of <i>sd</i> -shell nuclei using isoscalar monopole and dipole transitions (アイソスカラー型単極・双極遷移でプローブする <i>sd</i> 殻核のクラスター構造) 主査:准教授 木村 真明
やま ぐち ゆう や 山 口 雄 也	Phenomenological study on classically scale invariant models towards natural realization of the Higgs mass (ヒッグス質量の自然な理解に向けた古典的スケール不変性を持つ模型の現象論的研究) 主査:教授 鈴木 久男	

博士（理学）	あべ けんいち 阿部 憲一	Systematic characterization of cosmic symplectites in the Acfer 094 carbonaceous chondrite (炭素質コンドライトAcfer 094隕石における宇宙シンプレクタイトの系統的な特徴付け) 主査：教授 塚本 尚義
	あべ たかひろ 阿部 隆博	Dynamics of surge-type glaciers in Yukon, Canada, revealed by multi-satellite images (人工衛星画像で捉えたカナダ・ユーコン地域におけるサージ型氷河の動態) 主査：教授 古屋 正人
	あま いけ ようすけ 天池 庸介	Morphological and population genetical studies on the red fox ( <i>Vulpes vulpes</i> ) of Hokkaido Island (キタキツネ集団の形態学および集団遺伝学的研究) 主査：教授 増田 隆一
	くぼ たやすち 窪田 安打	Kinematic analyses and radiometric dating of the Paleogene two-phase and large-scale faulting along the Median Tectonic Line, south-west Japan (西南日本中央構造線に沿う古第三紀の2回の大規模断層活動の運動像と放射年代の解析) 主査：教授 竹下 徹
	たなか ゆうさく 田中 優作	Geophysical modelings of co- and postseismic gravity changes from satellite gravimetry (衛星重力観測に基づいた地震時及び地震後重力変化の地球物理学的なモデル構築) 主査：教授 日置 幸介
	たなか りょう良	Temporal development of volcanic shallow hydrothermal system during inter-eruptive stages – Quantitative investigation by using numerical simulations – (非噴火時における火山浅部熱水系の時間発展 – 熱水流動数値計算による定量的検討 –) 主査：教授 橋本 武志
	との たに あずさ 殿谷 梓	Development of depth profiling for solar wind noble gases implanted in Genesis diamond-like-carbon on silicon substrate targets by using isotope nanoscope (Genesis DOS試料中に打ち込まれた太陽風希ガス同位体の同位体ナノスコープによる深さ方向分析法の開発) 主査：教授 塚本 尚義
	とみ おか しんり 富岡 森理	Taxonomy and phylogeny of the family Capitellidae (Annelida) from Japan (日本産イトゴカイ科(環形動物)の系統分類学的研究) 主査：准教授 柁原 宏
	はま だ こうた 浜田 広太	High Resolution Mapping of the Upper Mantle Using Interstation Phase and Amplitude Data of Surface Waves (二観測点間の表面波位相及び振幅データを用いた上部マントルの高分解能マッピング) 主査：准教授 吉澤 和範
	ハリヨ エディ Wibowo ウィボウォ	Petrological and Geochemical Study of Sundoro Volcano, Central Java, Indonesia: Temporal Variation in Differentiation and Source Processes in the Growth of an Individual Volcano (インドネシア中部ジャワ、スンドロ火山の岩石学および地球化学的研究：単一火山の成長におけるマグマ発生源プロセスおよび分化作用の時間変遷) 主査：教授 中川 光弘
	ひら た だいすけ 平田 大祐	Molecular phylogeography of the brown bear ( <i>Ursus arctos</i> ) in eastern Eurasia (ユーラシア東部におけるヒグマの分子系統地理学的研究) 主査：教授 増田 隆一
	ふろ た さとし 風呂田 郷史	Organic sedimentological studies on the Neogene deep sea sediments from the Iberian Margin and Ishikari Basin (イベリアマージンおよび石狩堆積盆の新第三紀深海堆積物における有機堆積学研究) 主査：准教授 沢田 健
	やま だ たいし 山田 大志	A seismo-acoustic study of Vulcanian eruptions (ブルカノ式噴火に伴う爆発地震と空気振動の研究) 主査：准教授 大島 弘光
博士（農学）	ジュ 朱 在 昌	韓国外食企業による青果物調達構造の再編とその論理 主査：教授 坂爪 浩史
	キョ 許 ヨウケン ヨウ 揚 研	Analyses of anthocyanin modification pathway and glycosyltransferase genes involved in flower coloration in <i>Lobelia erinus</i> (ロベリアの花色に関わるアントシアニン修飾経路および配糖化酵素の解析) 主査：准教授 鈴木 卓

博士（農学）	しろ 白	うず 水	たか 貴	ひろ 大	妊娠認識および胎盤形成時のウシ子宮におけるI型IFNシグナル調節機構に関する研究 主査：教授 高橋 昌志
	ソウ 周		ファ 華		Study on epigenetic-independent control of Tam3 transposition in <i>Antirrhinum</i> (キンギョソウのトランスポゾンTam3における非エピジェネティックな転移制御機構に関する研究) 主査：教授 貴島 祐治
	たけ 竹	しま 島	りょう 亮	ま 馬	Gene network and molecular diversity of a <i>FLOWERING LOCUS T</i> orthologue, <i>FT5a</i> , in the control of flowering and stem termination in soybean (ダイズの開花および伸育性の制御における <i>FLOWERING LOCUS T</i> オルソログ <i>FT5a</i> の遺伝子ネットワークと分子的多様性) 主査：教授 阿部 純
	たけ 武	だ 田		ひとみ	バキュロウイルスの遺伝子間相互作用に関する研究 主査：教授 伴戸 久徳
	た 田	なか 中	かず 一	お 生	北海道で育成した酒造好適米品種における農業特性と酒造適性に関する研究 主査：教授 近藤 則夫
	やま 山	ぎき 崎		わたる 渉	マウスゲノム多倍体化が個体発生およびエピジェネティック修飾に及ぼす影響 主査：准教授 川原 学
	おお 大	ばやし 林		つばさ 翼	Histological and molecular bases underpinning host – symbiont specificity in the bean bug – <i>Burkholderia</i> gut symbiosis (ホソヘリカメムシと <i>Burkholderia</i> の腸内共生系における宿主 – 共生者間特異性の組織学的基盤および分子基盤) 主査：客員准教授 菊池 義智
	イ 李		ア 娥	ヨン 英	Human impacts on flora, vegetation, and hydrological environment of lowland mires (人間攪乱が低地湿原の植物相、植生及び水文環境に及ぼす影響) 主査：教授 富士田 裕子
	いし 石	くら 倉		きわむ 究	熱帯泥炭地のさまざまな土地利用における正味炭素損失と沈下 主査：教授 波多野 隆介
	エフゲニオス Evgenios	アガトクレウス Agathokleous			Influence of elevated CO <sub>2</sub> and ground-level O <sub>3</sub> on native deciduous trees in Japan (北東アジアの落葉樹に対する地表付近のCO <sub>2</sub> とオゾンの影響力) 主査：教授 小池 孝良
	せん 先	ぎき 崎	まさ 理	ゆき 之	The usefulness of the umbrella species concept to conserve biodiversity: tests using environmental-valuation and reproductive output of wetland raptors and songbirds (アンブレラ種を用いた生物多様性保全の有効性：湿地性鳥類と猛禽類の繁殖成功度および環境経済学的視点からの検証) 主査：教授 中村 太士
	ソン 孫		リ 力	フィ 飛	Fine-root dynamics and soil respiration in forest ecosystems (森林生態系における細根動態と土壌呼吸に関する研究) 主査：教授 平野 高司
	チョウ 張			シ 弛	Development of a Multi-robot Tractor System for Farm Work (マルチロボットトラクタによる協調作業システムの開発) 主査：教授 野口 伸
ニン 宁		ズ 茲	ゴン 功	Strontium adsorption and penetration in clays (ストロンチウムの粘土中における吸着と浸透) 主査：教授 石黒 宗秀	
リュウ 劉		ウ 羽	ヒ 飛	Autonomous Navigation for an Agricultural Unmanned Airboat in Paddy Field (水田用無人ボートの自律航法に関する研究) 主査：教授 野口 伸	
博士（生命科学）	あき 秋	た 田		だい 大	Study on biological transport network utilizing plasmodium of <i>Physarum polycephalum</i> (モジホコリ変形体を用いた生物学的輸送ネットワークの研究) 主査：教授 中垣 俊之
	さい 齊	とう 藤	しょう 翔	た 太	Design, synthesis and their application of effective probes for dynamic analysis of sphingolipids and their related biomolecules (スフィンゴ脂質及びその関連生体分子の動態解析用プローブの設計・合成及びその応用) 主査：教授 門出 健次

博士 (生命科学)	シェイク SK. マハタウツディン MAHATABUDDIN	Functional Analysis of a Supersoluble Fish Antifreeze Protein (高溶解性魚類不凍タンパク質の機能解析) 主査: 客員教授 津田 栄
	セイ 成	シヨウ 晶 Structural basis for the binding of antifreeze proteins from a snow mold fungus to ice (担子菌由来不凍タンパク質の構造と機能に関する研究) 主査: 客員准教授 近藤 英昌
	なか 中	しんたろう 積太郎 Study on the photochemical reaction of actinorhodopsin and its mediated phototrophy in the natural host (アクチノロドプシンの光化学反応と宿主細胞における機能的発現に関する研究) 主査: 教授 出村 誠
	はせ 長谷見	なか 崇 とし 俊 Functional analysis of a novel cyanobacterial rhodopsin (シアノバクテリアに由来する新規ロドプシンの機能解析) 主査: 教授 出村 誠
	ファン 黄	イ 以 ワン 万 Developing Extremely Tough Fiber Reinforced Soft Composites (超強靱な繊維強化ソフト複合材料の開発) 主査: 教授 龔 劍萍
	よし 吉	だ 田 やす 康 のぶ 伸 Exploratory research leading to the elucidation of glycome alternations in nonalcoholic steatohepatitis. (非アルコール性脂肪性肝炎におけるグライコム変動の解明に向けた探索的研究) 主査: 教授 門出 健次
	おお 太	た 田 な 菜 お 央 Complex sexual signals in the mutual courtship display of blue waxbills (セイキチヨウの双方向的求愛ディスプレイにおける複雑な性的信号) 主査: 准教授 相馬 雅代
	オン 温	チン 琛 トウ 涛 Studies of the neural substrates of temporal-difference error in domestic chicks (ニワトリ雛におけるTD誤差の神経基盤に関する研究) 主査: 教授 松島 俊也
	シン 辛	シュウ 秋 ヨウ 紅 Neuroethological studies of the patch use behavior in socially foraging chicks (社会採餌するニワトリ雛のパッチ利用行動に関する神経行動学研究) 主査: 教授 松島 俊也
	たか 高	はし 橋 かず 一 き 樹 Mechanisms regulating the translation and localization of cyclin <i>B1</i> mRNA in zebrafish oocytes (ゼブラフィッシュ卵母細胞におけるサイクリンB1 mRNAの翻訳と局在を制御する機構) 主査: 教授 山下 正兼
やす 安	だ 田 たつき 樹 Studies on impairment of DJ-1, the product of a causative gene of Parkinson's disease (パーキンソン病原因遺伝子産物DJ-1の機能破綻に関する研究) 主査: 教授 有賀 早苗	
リック 陸	ウ 宇 Identification of ABI1, new carbon/nitrogen regulator regulates plant C/N response via new pathways in <i>Arabidopsis</i> , and functional characterization of conventional C/N regulators, ATL31 and 14-3-3 in tomato ( <i>Solanum lycopersicum</i> L.) (シロイヌナズナにおける新規炭素/窒素栄養バランス制御因子 ABI1 の単離と既知の炭素/窒素制御因子 ATL31 と 14-3-3 のトマト果実形成における機能解析) 主査: 教授 山口 淳二	
博士 (薬科学)	いま 今	い 井 あつ 徳 とし 俊 カイコバキュロウイルスを用いた遺伝子導入技術の開発と創薬基盤研究 主査: 教授 前仲 勝実
	きた 北	むら 村 たく 拓 や 也 長鎖塩基の代謝に関わるアルデヒド脱水素酵素と新規 $\alpha$ 酸化経路の解明 主査: 教授 木原 章雄
	た 田	たに 谷 かず 和 や 也 高尿酸血症治療薬を志向した濃縮型ヌクレオシドトランスポーター2 阻害薬の創製 主査: 教授 周東 智
	た 田	なか 中 ひろ 浩 き 揮 ナノ粒子の物性解析に基づいた環境感受性脂質様物質の分子設計と高次集合体化 主査: 教授 原島 秀吉
	たに 谷	ぐち 口 なか 敬 ひき 寿 硫黄修飾金担持パラジウム触媒SAPdを用いたダブルカルボニル化反応の開発および新規ニッケル担持触媒SANiの創製とカルボキシル化反応への利用 主査: 教授 佐藤 美洋

博士 (薬科学)	樋口裕紀	二酸化炭素を利用した $\alpha$ -アミノ酸、 $\alpha$ -ヒドロキシ酸、および $\beta$ 、 $\gamma$ -不飽和カルボン酸誘導体の新規合成法の開発 主査：教授 佐藤 美洋
	水之上雄貴	Transformation of Organic Molecules Featuring “Cleavage of Strong Chemical Bonds” : Development and Mechanistic Studies (「安定な結合の切断」を伴う分子変換法の開発とその機構解明) 主査：教授 高橋 保
	道之上健一	二酸化炭素を用いたC (sp <sup>3</sup> ) -H結合活性化を伴う触媒的カルボキシル化反応の開発 主査：教授 佐藤 美洋
	よし吉永知世	尿細管上皮細胞の上皮間葉転換を抑制する化合物AM251の同定と作用機構の解明 主査：教授 木原 章雄
博士 (臨床薬学)	かわ河村恵理子	変異ミトコンドリアを標的とした核酸送達システムの開発 主査：准教授 山田 勇磨
	さい齋藤よし佳	マグネシウム投与によるシスプラチン起因性腎障害の予防効果およびその機序の解明 主査：教授 井関 健
	やま山ぐちまゆみ	リボスクレオシド系抗生物質を基盤とした新規抗菌剤リードの開発研究 主査：教授 菅原 満
博士 (教育学)	いし石原とある暢	テニスレッスンが子どもの高次認知機能に与える効果 主査：教授 水野 眞佐夫
	き木や谷みちこ	体験としての自閉症スペクトラム障害 - 成人期を生きる当事者の「パーソナリティ (personnalité)」の発展に着目して - 主査：特任教授 間宮 正幸
	たか高しな品	生徒の衝動性発現の予測と学校資源を用いた支援 主査：特任教授 間宮 正幸
博士 (学術)	の野ぐちまさてる	地方自治体の行政広報評価に関する研究 - 自治体協働意識醸成の観点からの行政広報評価モデルの提起 - 主査：教授 伊藤 直哉
博士 (保健科学)	く工どう藤ゆうすけ	超音波パルスドブラ法を用いた腎循環動態の分析 主査：教授 石津 明洋
	すず鈴きゆみ	レビー小体型認知症者のパレイドリア出現時の瞳孔変動の特徴 主査：教授 前島 洋
	ち千ば葉たけし健	歩行中の膝関節負荷と片脚立位移行動作における生体力学的指標との関連性 - 変形性膝関節症患者の評価・治療への応用の観点から - 主査：教授 浅賀 忠義
	にし西おかゆうすけ	自己血管内皮細胞反応性type II NKT細胞が認識する分子の同定および同細胞の血管炎病態への関与 主査：教授 山口 博之
博士 (工学)	すず鈴きしゅう修	Paramagnetic Meissner effect of small topological superconductors (微小なトポジカル超伝導体における常磁性マイスナー効果) 主査：准教授 浅野 泰寛
	ハン韓チェンゴン	Development of High Performance Manganese-based Cathode Materials for Li-ion Batteries (Liイオン電池のための高性能Mn系カソード用材料の開発) 主査：教授 秋山 友宏
	まる丸やまあすか	交流電磁場を利用した溶鋼中介在物除去 主査：教授 岩井 一彦
	みね峯たかひろ	種々の塑性変形機構の臨界分解せん断応力に基づくMg合金の塑性変形挙動の研究 主査：教授 三浦 誠司
	やまのうち山野内たくや也	Nb基多元系合金における優れた高温特性を有する化合物相と延性相bccの相平衡 主査：教授 三浦 誠司
	よ余コウ浩	Development of Innovative Co-based Oxide Dispersion Strengthened (ODS) Superalloys (革新的Co基酸化物分散強化 (ODS) 超合金の開発) 主査：教授 鶴飼 重治

博士（工学）	イェン 晏	ファイ 慧	Study on End Face Combustion Behavior of Highly Densified Biomass Briquette (高密度バイオマスブリケットの端面燃焼に関する研究) 主査：教授 藤田 修		
	こん 今	みさき 美沙紀	Mean-Field Kinetic Theory Based Study of Boundary Condition at Vapor-Liquid Interface (気液界面における境界条件の平均場分子運動論に基づく研究) 主査：教授 渡部 正夫		
	ラ ワ カ ル RAVANKAR ア ビ ジ エ ト ABHIJEET		Novel Algorithms for Multi-Robot Path Planning, Task Coordination, Mapping and Localization in Indoor Environment (室内環境におけるマルチロボット経路計画, タスク協調, 環境地図構築及び自己位置同定のアルゴリズム開発) 主査：教授 小林 幸徳		
	うえ 上	の 野	ゆういちろう 雄一郎	医療及び産業応用半導体放射線検出器の研究 主査：教授 梅垣 菊男	
	きた 北	の 野	よし 慈	かず 和	開水路流れに見立てたジェット気流の蛇行に基づく大気ブロッキングと大規模自然災害に関する研究 主査：准教授 山田 朋人
	ひら 平	かわ 川	ひで 秀	き 樹	札幌市内の分譲マンションストックにおける暖房用エネルギー消費量削減に関する研究 主査：教授 羽山 広文
	やま 山	ぎき 崎	たか 嵩	ひろ 拓	広域景観の形成に資する公共政策に関する研究：北海道の札幌圏と帯広圏を事例に 主査：教授 千歩 修
	よし 吉	だ 田	やす 康	たか 孝	パッケージエアコンの年間効率向上に関する研究 主査：教授 長野 克則
	いし 石	ぎき 崎	そう 創		Impact of Anodic Respiration on Membrane Fouling in Electrode-assisted Membrane Bioreactor (電極支援型MBRにおける膜ファウリング抑制効果の解明) 主査：教授 岡部 聡
	い 伊	とう 藤	とし 寿	ひろ 宏	下水再生システムにおけるウイルス除去効率の定量評価および除去目標値算出に関する研究 主査：准教授 佐野 大輔
	たか 高	はし 橋	しげ 滋	とし 敏	ごみ焼却施設におけるリン酸化合物噴霧によるバグフィルター差圧低減の現象解明に関する研究 主査：教授 松藤 敏彦
	パン 潘		ロン 瓏		Characteristics of adsorptive removal of 2-methylisoborneol by micro-milled activated carbon (超微粉碎活性炭による2-メチルイソボルネオールの吸着除去特性) 主査：教授 松井 佳彦
	あん 安	らく 楽	そう 総	たろう 太郎	オマーンに湧出する高アルカリ泉周辺に産する沈殿物のナチュラルアナログ研究 主査：教授 佐藤 努
	ピート Peet Homchuen	ホーム ホーム	チューン チューン		Hydrometallurgical recovery of precious metals using magnetic adsorbents (貴金属湿式製錬のための磁性吸着剤の開発) 主査：教授 廣吉 直樹
博士（理学）	タン Tanjina Afrin	ジナ ジナ	アフリ アフリ	In Vitro Study on Mechanical Stress Induced Microtubule Deformation and its Effect on Motor Protein-based Cargo Transportation (力学刺激が誘起する微小管変形現象とモータータンパク質による積荷輸送への影響に関する研究) 主査：教授 坂口 和靖	
	いし 石	と 戸	の 信	ひろ 広	Studies on Catalysis of Metal Complexes and Nanoparticle on Inorganic Supports (無機担体に担持した金属錯体および金属ナノ粒子の触媒作用に関する研究) 主査：教授 加藤 昌子
	い 伊	とう 藤	まさ 正	き 樹	Mechanical Oscillation and MOF Transportation via Kinesin Powered Microtubules. (キネシンにより駆動される微小管を利用した機械的振動系およびMOF輸送系の構築) 主査：教授 石森 浩一郎
	きよ 清	た 田	ゆう 雄	へい 平	Study on Function of Specific region in p53-inducible Phosphatase PPM1D for Nucleolar Formation (核小体形成におけるp53誘導性ホスファターゼPPM1D特異的領域の機能に関する研究) 主査：教授 村上 洋太

博士（理学）	さい とう へい かい 齋 藤 英里佳	Studies on Construction and Crystal Size Control of Porous Coordination Polymers Composed of a Luminescent Ruthenium (II) Metalloligand (Ru (II) 錯体を用いた多孔性配位高分子の構築と結晶サイズ制御に関する研究) 主査：教授 佐田 和己
	さか の ゆう と 坂 野 優 斗	Construction of Multifunctional Molecular Switches Based on Electrochromic Materials (エレクトロクロミック物質を利用した多機能型分子スイッチの構築) 主査：教授 澤村 正也
	さ とう か な 佐 藤 加 奈	Studies on Photocatalytic Hydrogen Evolution Reaction System Focused on Surface Passivating Ligands for the CdSe Quantum Dot (CdSe量子ドットの表面保護配位子に着目した水素発生反応系の研究) 主査：教授 喜多村 昇
	さ とう たくと 佐 藤 たくと	Synthesis of the ABCDEF-Ring of Ciguatoxin 3C (シガトキシン3CのABCDEF環の合成) 主査：教授 谷野 圭持
	す とう しん や 須 藤 慎 也	Direct Synthesis of Nanosized Liquid Metal Particles and Their Conversion into Noble Metal and Semiconductor Nanoparticles (液体金属ナノ粒子の直接合成と貴金属及び半導体ナノ粒子への変換) 主査：教授 村越 敬
	なん ぼら かつ ゆき 南 原 克 行	Studies of Cellular Uptake of Surface-engineered Triangular-shaped Gold Nanoparticles (表面修飾三角形金ナノプレートの細胞取り込みに関する研究) 主査：教授 佐田 和己
	み かわ たか ひろ 三 澤 貴 浩	Studies on Electrical Conduction Characteristics of Metal/Molecule/Metal Nanoscale Junction Device (金属/分子/金属ナノスケール接合素子の電気伝導特性に関する研究) 主査：教授 日夏 幸雄
	むら かみ りょう 村 上 遼	Development of Transition Metal Catalyzed Alkyl C-H Functionalization Reactions (遷移金属触媒によるアルキルC-H官能基化反応の開発) 主査：教授 谷野 圭持
	や こ ゆう た 八 子 優 太	Study on Epithelial Defense against Cancer (EDAC) for Elimination of RasV12-transformed Cells from Epithelia (Ras変異細胞排除におけるEDACメカニズムに関する研究) 主査：教授 村上 洋太
	や ない かつ ま 屋 内 一 馬	Theoretical Study on Excited-State Molecular Interactions (励起状態における分子間相互作用に関する理論的研究) 主査：教授 武次 徹也
	やま だ たい へい 山 田 泰 平	Molecular Design for Functional Materials Derived from Lipophilic Electrolyte (親油性電解質から誘導される機能性材料の分子設計) 主査：教授 居城 邦治
	わた なべ ゆう た 渡 部 祐 太	Mechanism of Heme-Dependent Protein Regulation for Intracellular Heme Metabolism (細胞内ヘム代謝におけるヘム依存的な蛋白質の機能制御機構) 主査：教授 坂口 和靖
博士（工学）	かた おか ひさ たか 片 岡 央 尚	希土類錯体を用いた高耐久型波長変換フィルムに関する研究 主査：教授 安住 和久
	きく ち せい や 菊 地 誠 也	Controlled/living Group Transfer Polymerization of Acrylamide using Organic Acid Leading to Linear, Cyclic, and Star-shaped Macromolecular Architectures (有機酸触媒を用いたグループトランスファー重合による特殊構造ポリアクリルアミドの精密合成に関する研究) 主査：教授 佐藤 敏文
	こ とう よし のり 後 藤 文 倫	Selective Oxidation of Aromatic Compounds Catalyzed by Hydrothermally Synthesized Layered Tungsten-vanadium Complex Metal Oxides (水熱合成法により調製した層状W-V-O複合酸化触媒による芳香族化合物の選択酸化) 主査：教授 増田 隆夫
	こん とう ひさ き 近 藤 永 樹	金属酸化触媒を用いた水蒸気雰囲気下における未利用重質炭素資源の軽質燃料化 主査：教授 向井 紳



博士 (工学)	佐藤 悠介	Synthesis of Well-Defined Star-Shaped and Multicyclic Block Copolyethers via t-Bu-P <sub>4</sub> -Catalyzed Ring-Opening Polymerization of Glycidyl Ethers (t-Bu-P <sub>4</sub> 触媒を用いたグリシジルエーテルの開環重合による星型および多環状ブロックコポリエーテルの合成) 主査:教授 渡慶次 学
	高 岳 勇	Study on Heterogeneity of Oxide Films Formed on Polycrystalline Iron (多結晶鉄上に形成する酸化物皮膜の不均一性に関する研究) 主査:教授 長谷川 靖哉
	竹ノ内 雄太	Development of Copper (I) -Catalyzed Synthesis of $\gamma$ -Functionalized Allylboronates (銅 (I) 触媒による $\gamma$ 位が官能基化されたアリルホウ素化合物の合成法の開発) 主査:教授 大熊 毅
	田谷野 孝夫	粘土鉱物担持メタロセン触媒の活性点解析およびポリプロピレン重合への応用 主査:教授 大熊 毅
	平井 悠一	Study on Assembled Structures and Physical Properties of Luminescent Lanthanide (III) Complexes (発光性希土類錯体の集積形態と物理特性に関する研究) 主査:教授 幅崎 浩樹
	森 武 士	精密制御可能なマイクロ-メソ-マクロ孔の階層構造を有する炭素材料の開発 主査:教授 増田 隆夫
	養王田 昌昭	Ruthenium/Me-BIPAM Catalyzed Asymmetric Addition of Arylboronic Acids to Carbonyl Compounds (ルテニウム/Me-BIPAM触媒を用いるアリールボロン酸のカルボニル化合物への不斉付加反応) 主査:教授 伊藤 肇
	吉田 誠一郎	Effective Separation of Diluted Pollutants Using Monolithic Microhoneycombs (マイクロハニカム構造体を用いた希薄有害物質の高効率分離) 主査:教授 増田 隆夫
わた 渡 部 岳	結晶サイズと酸特性を制御したゼオライト触媒による形状選択的反応の反応工学解析 主査:教授 向井 紳	

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (文学)	滝浦 真人	日本語敬語および関連現象の社会語用論的研究 主査:教授 加藤 重広	
	内田 昭利	中学生期における「暗示」の教育的効果 主査:教授 仲 真紀子	
	かわ 川 田 すすむ 進	東チベットの宗教空間 - 中国共産党の宗教政策と社会変容 主査:教授 櫻井 義秀	
博士 (経済学)	おか 岡 部 純 一	インドの統計制度と行政記録・行政統計の理論 主査:教授 園 信太郎	
博士 (医学)	くり 栗 田 つぎ 子	海馬硬化を伴う側頭葉てんかんにおける非手術症例の長期予後についての研究 主査:教授 久住 一郎	
	もり 森 田 しん や 也	外耳道癌における聴覚機能温存治療と臨床病理学的解析に基づく予後規定因子の探求 主査:教授 白土 博樹	
博士 (歯学)	うえ 上 田 みち ひろ 弘	オステオポンチンの発現は口腔癌患者のシスプラチンに対する抵抗性の予測因子となりうる 主査:特任教授 進藤 正信	
博士 (獣医学)	せ 瀬 山 とも ひろ 博	Development of rumen escapable capsules for cattle (ウシ用ルーメンバイパスカプセルの開発) 主査:教授 鈴木 定彦	
博士 (水産科学)	お 尾 田 まさ のり 紀	琵琶湖固有種ビワマスの自然再生産に関する生態学的研究 主査:教授 都木 靖彰	

	ま とう ゆう すけ 佐 藤 祐 輔	グラフェンシートの機能化に資する分子修飾法の最適化とその機構 主査：教授 神谷 裕一
博士（環境科学）	ア ナン ANANG セ チ ア ワン SETIAWAN ア チ マ デ イ ACHMADI	Morphological and molecular systematics of Southeast Asian spiny rats (genus <i>Maxomys</i> ) with descriptions of two new species from Indonesia (未記載種2種を含む東南アジア産トゲネズミ類 ( <i>Maxomys</i> 属) の形態学的並びに分子系統学的研究) 主査：教授 鈴木 仁
博士（理学）	つる まき りょう いち 鶴 巻 亮 一	Experimental Studies on Evaporation and Condensation Kinetics in the System, H-C-O-Mg-Si (H-C-O系ガス中におけるケイ酸塩の蒸発と凝縮に関する実験的研究) 主査：准教授 橋元 明彦
	ふく だ ま ち こ 福 田 真知子	レタスの抽苔と花成に関する生理学的研究 主査：特任教授 増田 清
	ま え かわ とし ひろ 前 川 敏 宏	発酵食品由来乳酸菌による感染予防効果 主査：教授 原 博
博士（農学）	わ だ やす あき 和 田 泰 明	乳たんぱく質の消化性とその消化によって生成される生理活性ペプチドに関する研究 主査：教授 原 博
	ノ ホ ル アルラット Noppol Arunrat	Management practices and climate change influencing on rice yield and soil organic carbon in Northeast Thailand (東北タイにおける管理作業と気候変動のイネ収量と土壌有機炭素への影響) 主査：教授 波多野 隆介
	ま だ ひで かつ 坂 田 秀 勝	ヒトパルボウイルスB19およびE型肝炎ウイルスによる輸血感染のリスク低減化および献血者における感染実態の解明に関する研究 主査：教授 松田 正
博士（薬科学）	たか だ あき つぐ 高 田 祥 世	Innovative modeling and simulation approach considering the time-dependent pharmacologic activity in translational research among non-clinical and clinical studies. (非臨床試験と臨床試験の橋渡し研究における時間依存的な薬効を考慮した革新的な modeling & simulationアプローチ) 主査：教授 原島 秀吉
博士（教育学）	むら さわ わ たり 村 澤 和多里	「ひきこもり」についての理解と支援の新たな枠組みをめぐって－心理－社会的な視点からの探求－ 主査：特任教授 間宮 正幸

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成29年3月6日）

- 議案・発明補償金の取扱いの変更について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
  - ・ASEANにおける海外オフィスの設置について
  - ・国立大学法人北海道大学職員給与規程等の一部改正について
  - ・平成29年度国立大学法人機能強化促進費（補助金）の申請について
- 協議事項・国際協力機構（JICA）研修員受入れに係る覚書締結について
- ・数理・データサイエンス教育研究センターの設置について
  - ・平成29年度年度計画について
  - ・情報セキュリティ対策基本計画の策定について
  - ・平成29年度予算について
  - ・諸規則の制定及び一部改正について
- 報告事項・役員の退職手当の支給について
- ・大学文書館の「国立公文書館等」指定について
  - ・会計検査院会計実地検査の実施について
- 

### 教育研究評議会（平成29年3月13日）

- 議題・名誉教授の選考について
- ・国際協力機構（JICA）研修員受入れに係る覚書締結について
  - ・数理・データサイエンス教育研究センターの設置について
  - ・平成29年度年度計画について
  - ・情報セキュリティ対策基本計画の策定について
  - ・平成29年度予算について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・全学運用教員の措置について
- ・ASEANにおける海外オフィスの設置について
  - ・大学文書館の「国立公文書館等」指定について
  - ・産業創出講座等の設置について
  - ・寄附分野の設置・更新について
- 

### 経営協議会（平成29年3月17日）

- 議題・役員の退職手当の支給について
- ・平成29年度年度計画について
  - ・平成29年度予算について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・理事の交代等について
- ・平成29年度運営費交付金等（予定額）について
  - ・構内における撮影について
- その他・財務レポート2016について
- 

### 役員会（平成29年3月21日）

- 議案・国際協力機構（JICA）研修員受入れに係る覚書締結について
- ・数理・データサイエンス教育研究センターの設置について
  - ・平成29年度年度計画について
  - ・情報セキュリティ対策基本計画の策定について
  - ・平成29年度予算について
  - ・教職員休暇制度の見直しについて
  - ・就業規則関連規程の一部改正について
  - ・諸規則の制定及び一部改正について
  - ・北海道大学インフラ長寿命化計画（行動計画）について
- 報告事項・理事及び副学長の職務分担について
- ・総長補佐の任命について
  - ・平成28年度施設整備事業（追加・補正予算分）について
  - ・ASEANにおけるリエゾンオフィスの設置について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

## ■ 学内規程

---

### 国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(平成29年3月7日海大達第16号)

国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法第50条の10第3項の規定を踏まえ、職員の給与について、国家公務員の給与等、民間企業の従業員の給与等、本学の業務の実績並びに職員の職務の特性及び雇用形態その他の事情を考慮し、国民の理解が得られる適正なものとするため、基本給月額、初任給調整手当及び扶養手当の月額並びに勤勉手当の支給割合の見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程

(平成29年3月7日海大達第17号)

国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法第50条の2第3項の規定を踏まえ、役員の給与について、社会一般の情勢に適合したものとし、かつ、国家公務員の給与水準を十分考慮して国民の理解が得られる適正なものとするため、本給月額及び勤勉手当の支給割合の見直しを行うことに伴い、本給月額及び職員給与における勤勉手当相当分が含まれている役員給与の期末手当について、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程

(平成29年3月7日海大達第18号)

札幌市から認可保育園に対して交付される補助金における人件費の算定については、国家公務員の給与を参考として算定されていることから、当該補助金の額を考慮しつつ、職員の給与について社会一般の情勢に適合したものとし、かつ、国家公務員の給与等、民間企業の従業員の給与等、本学の業務の実績並びに職員の職務の特性及び雇用形態その他の事情を考慮し、国民の理解が得られる適正な給与水準とするため、職員が受ける基本給月額を引き上げること及び勤勉手当の支給割合を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学契約職員就業規則等の一部を改正する規則

(平成29年3月7日海大達第19号)

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部改正に伴い、当該規程の適用を受ける職員との均衡等を考慮し、勤勉手当の支給月数の見直しを行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則

(平成29年3月7日海大達第20号)

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部改正に伴い、当該規程の適用を受ける職員との均衡等を考慮し、勤勉手当の支給月数を引き上げることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則

(平成29年3月7日海大達第21号)

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部改正に伴い、当該規程の適用を受ける職員との均衡等を考慮し、基本給月額を引き上げることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程

(平成29年3月7日海大達第22号)

年俸制教員に係る退職手当の取扱いについて規定の整備を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学職務発明規程の一部を改正する規程

(平成29年3月7日海大達第23号)

### 国立大学法人北海道大学発明補償金支払規程の一部を改正する規程

(平成29年3月7日海大達第24号)

発明者に対する補償金について、知的財産権の実施又は処分により収益を得たときのみ支払うことにするとともに、その金額を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

---

**国立大学法人北海道大学成果有体物取扱規程の一部を改正する規程**

(平成29年3月7日海大達第25号)

国立大学法人北海道大学発明補償金支払規程の改正により、同規程を準用する規定を整備することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程**

(平成29年3月30日海大達第26号)

教育研究組織の海外の教育研究拠点等に海外オフィスを置くことができるようにすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則**

(平成29年4月1日海大達第27号)

本年4月1日付けで、本学大学院の経済学研究科を廃止し経済学院及び経済学研究院を設置すること、医学研究科を廃止し医学院及び医学研究院を設置すること、歯学研究科を廃止し歯学院及び歯学研究院を設置すること、獣医学研究科を廃止し獣医学院及び獣医学研究院を設置すること、医理工学院を設置すること、国際感染症学院を設置すること並びに国際食資源学院を設置すること並びに本学に政策調整室を設置すること等に伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学経営協議会規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第29号)

**国立大学法人北海道大学人事委員会規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第30号)

**国立大学法人北海道大学評価規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第31号)

**国立大学法人北海道大学技術支援本部運営委員会規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第32号)

**国立大学法人北海道大学安全衛生本部規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第38号)

**国立大学法人北海道大学情報セキュリティ委員会規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第42号)

**国立大学法人北海道大学動物実験委員会規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第43号)

**国立大学法人北海道大学化学物質等管理委員会規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第44号)

**国立大学法人北海道大学情報公開・個人情報保護審査委員会規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第45号)

**教育職員免許状授与の所要資格の取得に関する規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第50号)

**北海道大学獣医師受託研修生受入れ規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第63号)

**北海道大学中国医学研修員規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第64号)

**国立大学法人北海道大学利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第72号)

**国立大学法人北海道大学職員表彰規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第79号)

国立大学法人北海道大学全学運用教員規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第80号)

国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第88号)

北海道大学アイソトープ総合センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第148号)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第149号)

北海道大学アイヌ・先住民研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第151号)

北海道大学社会科学実験研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第152号)

北海道大学環境健康科学研究教育センター運営委員会規程

(平成29年4月1日海大達第153号)

北海道大学総合博物館運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第155号)

北海道大学大学文書館運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第156号)

北海道大学保健センター規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第160号)

北海道大学保健センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第161号)

北海道大学国際連携研究教育局運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第163号)

本年4月1日付けで、本学大学院の経済学研究科を廃止し経済学院及び経済学研究院を設置すること、医学研究科を廃止し医学院及び医学研究院を設置すること、歯学研究科を廃止し歯学院及び歯学研究院を設置すること、獣医学研究科を廃止し獣医学院及び獣医学研究院を設置すること、医理工学院を設置すること、国際感染症学院を設置すること並びに国際食資源学院を設置すること等に伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第28号)

本年4月1日付けで、本学大学院の経済学研究科を廃止し経済学院及び経済学研究院を設置すること、医学研究科を廃止し医学院及び医学研究院を設置すること、歯学研究科を廃止し歯学院及び歯学研究院を設置すること、獣医学研究科を廃止し獣医学院及び獣医学研究院を設置すること、医理工学院、国際感染症学院及び国際食資源学院を設置すること並びに国際広報メディア・観光学院の観光文化論講座に観光マーケティング戦略論分野を加えること並びに医学院の社会医学講座に医薬品医療機器評価学教室を加えること及び医学院の放射線科学講座に放射線医学総合研究室を連携分野又は教室として加えること、工学院に共同資源工学専攻及びバイオマス計測化学分野を設置すること並びに医学部医学科の学科目を改めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第33号)

試験場部会の構成員を改めること及び国際総合入試の導入による部会を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第34号)

本年4月1日付けで、未来創薬・医療イノベーション推進室を廃止すること、グローバルファシリティセンターに室を置くこと、グローバルファシリティセンター会議の審議事項及び構成について見直すこと並びに機構の事務について改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第35号)

創成研究機構グローバルファシリティセンターにて行われる分析及び加工に関する事務の見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第36号)

本年4月1日付けで、副機構長を4名とすること並びに各センター及び室の長に指名することが出来る者に、本学の専任の准教授を追加することに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第37号)

本年4月1日付けで、高等教育推進機構に①高度数学IRセンター、キャリアセンター及びスポーツトレーニングセンターのコンディショニングサポート部門を設置すること並びに②運営委員会の組織を見直すこと並びに運営委員会に高度数学IR専門委員会、スポーツトレーニング専門委員会及びキャリア支援専門委員会を設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第39号)

副機構長及び産学推進本部長とすることができる職員の対象を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学総合IR室規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第40号)

本年4月1日付けで、総合IR室長に総長をもって充てること及び総合IR室に副室長を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

**北海道大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第41号)

入学者選抜委員会に委員の代理者の出席を認めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第46号)

本年4月1日付けで、総務課に置く総長秘書室を廃止すること、本学に政策調整室を置くこと並びに学務部キャリアセンターを学務部キャリア支援課に改めること、経済学研究科・経済学部事務部を経済学事務部に改めること、歯学研究科・歯学部事務部を歯学事務部に改めること、農学事務部を農学・食資源学事務部に改めること及び獣医学研究科・獣医学部事務部を獣医系事務部に改めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

**北海道大学通則の一部を改正する規則**

(平成29年4月1日海大達第47号)

医学部保健学科の編入学定員を削ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

**北海道大学大学院通則の一部を改正する規則**

(平成29年4月1日海大達第48号)

**北海道大学学位規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第49号)

本年4月1日付けで本学大学院の経済学研究科を廃止し経済学院を設置すること、医学研究科を廃止し医学院を設置すること、歯学研究科を廃止し歯学院を設置すること、獣医学研究科を廃止し獣医学院を設置すること、医理工学院、国際感染症学院及び国際食資源学院を設置すること並びに工学院に共同資源工学専攻を設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第51号)

北海道大学文学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第98号)

北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第99号)

北海道大学法学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第100号)

北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第101号)

北海道大学理学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第102号)

北海道大学医学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第103号)

北海道大学歯学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第104号)

北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第107号)

北海道大学工学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第108号)

北海道大学農学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第109号)

北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第110号)

北海道大学水産学部規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第112号)

各学部及び現代日本プログラム課程において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第52号)

新渡戸カレッジにおいて、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第53号)

全学教育科目について、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学大学院特別教育プログラム新渡戸スクール規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第54号)

本学大学院特別教育プログラム新渡戸スクールにおいて、①修了要件及び授業科目を変更すること、②運営会議に、代理者を出席させることができるようにすること並びに③本年4月1日付けで、本学大学院研究科等の改組等を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。



## 北海道大学大学院One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム規程

(平成29年4月1日海大達第55号)

## 北海道大学大学院One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム運営委員会規程

(平成29年4月1日海大達第56号)

本年4月1日付けで、本学大学院において、大学院獣医学研究科を廃止し大学院獣医学院及び大学院国際感染症学院を設置し、従来大学院獣医学研究科に置かれていた、文部科学省が所管する博士課程教育リーディングプログラムにより採択された学位プログラム「One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」が本学に置かれることに伴い、新たに本プログラムの編成及び修了要件等について所要の定めを行ったものです。

## 北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第57号)

大学院共通授業科目において、複数の授業形態を併用する際の単位数の計算方法について定めること及びより適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学職業紹介業務規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第58号)

## 北海道大学職業紹介業務に係る個人情報適正管理規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第59号)

学務部キャリアセンターを学務部キャリア支援課に改組することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規程の整備を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第60号)

## 国立大学法人北海道大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第61号)

## 国立大学法人北海道大学産業創出講座等規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第62号)

本学における共同研究及び受託研究の受入れ手続き等を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学動物実験に関する規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第65号)

実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準が改正されたことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規程の整備を行ったものです。

## 国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員就業規則の一部を改正する規則

(平成29年4月1日海大達第66号)

## 国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(平成29年4月1日海大達第67号)

## 国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則

(平成29年4月1日海大達第68号)

## 国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則

(平成29年4月1日海大達第69号)

## 国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(平成29年4月1日海大達第70号)

## 国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第74号)

国立大学法人北海道大学船員労働時間、休日及び休暇規程の一部を改正する規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第75号)

教職員のワークライフバランス充実のため教職員休暇制度の見直しを行うこと及び職員の勤務の実情に合わせて新たな勤務時間帯の区分を設けることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第71号)

北海道大学病院の病院長付に採用する教授について任期及び再任に関する事項を見直すこと、法学研究科に採用する助教について任期を見直すこと、薬学研究院の全部門の全分野に採用する准教授及び講師並びに研究院長付に採用する助教について大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号又は同項第2号に基づき任期を定めること並びに本学大学院の経済学研究科を廃止し経済学研究院を設置すること、医学研究科を廃止し医学研究院を設置すること、歯学研究科を廃止し歯学研究院を設置すること及び獣医学研究科を廃止し獣医学研究院を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学コンプライアンス基本規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第73号)

国立大学法人北海道大学における人を対象とする医学系研究に関する規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第82号)

国立大学法人北海道大学百年記念会館規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第95号)

北海道大学埋蔵文化財調査センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第162号)

本年4月1日付けで、理事及び副学長の職務分担を変更すること等に伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員育児休業・介護休業等規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第76号)

本年4月1日付けで、児童福祉法及び育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部が改正されることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第77号)

入試手当について、平成29年度から実施する国際総合入試に係る入試手当を支給することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第78号)

年俸制の適用を受ける教員に支給する基本年俸の決定方法及び改定方法について明確にすることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第81号)

本年4月1日付けで、本学大学院の経済学研究科を廃止し経済学院及び経済学研究院を設置すること、医学研究科を廃止し医学院及び医学研究院を設置すること、歯学研究科を廃止し歯学院及び歯学研究院を設置すること、獣医学研究科を廃止し獣医学院及び獣医学研究院を設置すること、医理工学院を設置すること、国際感染症学院を設置すること並びに国際食資源学院を設置すること並びに学務部キャリアセンターを学務部キャリア支援課に改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学安全保障輸出管理規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第83号)

外国為替及び外国貿易法及びこれに基づく政令、省令、通達等の改正並びに安全保障輸出管理全学責任者となることが出来る職員の対象を改めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第84号)

**国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第85号)

本年4月1日付けで、本学大学院の経済学院及び経済学研究院を設置すること、医学院及び医学研究院を設置すること、歯学院及び歯学研究院を設置すること、獣医学院及び獣医学研究院を設置すること、医理工学院を設置すること、国際感染症学院を設置すること、国際食資源学院を設置すること、大学文書館に公文書室を設置すること並びに学務部キャリアセンターを高等教育推進機構キャリアセンター及び学務部キャリア支援課に改組すること並びに経済学研究科・経済学部事務部を経済学事務部に改めること、歯学研究科・歯学部事務部を歯学事務部に改めること、農学事務部を農学・食資源学事務部に改めること及び獣医学研究科・獣医学部事務部を獣医系事務部に改めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学大学法人文書管理規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第86号)

**北海道大学大学文書館規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第157号)

**北海道大学大学文書館利用規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第158号)

**北海道大学大学文書館公文書室利用規程**

(平成29年4月1日海大達第159号)

本年4月1日付けで、本学の学内共同施設である大学文書館公文書室が国立公文書館等の指定を受けること及び沿革資料室が歴史資料等保有施設の指定を受けることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第87号)

学務部に支出契約のうち工事請負に関する職務権限を与えること及び産学・地域協働推進機構に収入契約のうち貸付契約に関する職務権限を与えることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学固定資産管理規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第89号)

国立大学法人法の一部を改正する法律（平成28年法律第38号）が平成29年4月1日付けで施行されること及び本学職員が退職し他の機関に採用された後に研究目的物品を無償譲渡できる機関の範囲を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学旅費規程の一部を改正する規程**

(平成29年4月1日海大達第90号)

鉄道賃における特別車両料金の定義が関係法律の改正に伴い変更されたこと及び国名が変更されたこと等に伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則**

(平成29年4月1日海大達第91号)

本学の運営組織である人材育成本部及び安全衛生本部において、寄附金を受け入れることができることを明記することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

---

国立大学法人北海道大学借上宿舎等規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第92号)

本年4月1日付けで、国立大学法人北海道大学病院借上宿舎規程の制定に伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

国立大学法人北海道大学病院借上宿舎規程

(平成29年4月1日海大達第93号)

本年4月1日付けで、北海道大学病院において、初期臨床研修医を対象とした借上宿舎を整備することに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

北海道地区国立大学大滝セミナーハウス規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第94号)

北海道地区国立大学大滝セミナーハウスの利用料等の改定に伴い、規定の整備を行ったものです。

---

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第96号)

大学のオープンファシリティについて、設備の追加、削除及び使用料の変更に伴い、所要の改正を行ったものです。

---

国立大学法人北海道大学入構車両規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第97号)

本年4月1日付けで、獣医学研究科附属動物病院を廃止し、獣医学研究院附属動物病院を設置すること及び有料臨時入構証の交付を受けた物が納付する入構料の額を300円から500円に改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学病院規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第105号)

本年4月1日付けで、①本学大学院の医学研究科を廃止し医学研究院を設置すること及び歯学研究科を廃止し歯学研究院を設置すること②高難度新規医療技術の提供について管理する部門を新たに設置すること③未承認新規医薬品等の提供について管理する部門を新たに設置すること並びに④女性医師等就労支援室について、女性医師等に係る就労支援から医師等に係る男女共同参画の推進に目的を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

国立大学法人北海道大学病院医療安全管理業務監査委員会規程

(平成29年4月1日海大達第106号)

本学に、医療法第16条の3第1項第7号及び医療法施行規則第9条の23第1項第9号の規定に基づき、北海道大学病院医療安全管理業務監査委員会を置くことに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

北海道大学獣医学部・帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程協議会規程

(平成29年4月1日海大達第111号)

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第144号)

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター協議会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第145号)

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター共同利用・共同研究拠点運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第146号)

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター共同利用・共同研究拠点共同研究委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第147号)

本年4月1日付けで、獣医学研究科・獣医学部事務部の名称を獣医学系事務部に改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学大学院文学研究科規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第113号)
北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第114号)
北海道大学大学院情報科学研究科規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第115号)
北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第116号)
北海道大学大学院農学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第117号)
北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第118号)
北海道大学大学院教育学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第119号)
北海道大学大学院環境科学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第120号)
北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第121号)
北海道大学大学院水産科学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第122号)
北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第123号)
北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第125号)
北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第126号)
北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程	(平成29年4月1日海大達第140号)

各研究科等において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

#### 北海道大学大学院工学院・九州大学大学院工学府共同資源工学専攻協議会規程

(平成29年4月1日海大達第124号)

本年4月1日付けで、大学院工学院に共同資源工学専攻を設置することに伴い、当該専攻の編成及び実施に関し必要な事項を協議するために置かれる北海道大学大学院工学院・九州大学大学院工学府共同資源工学専攻協議会の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

#### 北海道大学大学院経済学院規程

(平成29年4月1日海大達第127号)

#### 北海道大学大学院経済学研究院規程

(平成29年4月1日海大達第128号)

本年4月1日付けで、本学大学院の経済学研究科を廃止し、経済学院及び経済学研究院を設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

北海道大学大学院医学院規程

(平成29年4月1日海大達第129号)

北海道大学大学院医学研究院規程

(平成29年4月1日海大達第130号)

北海道大学大学院医学研究院附属動物実験施設規程

(平成29年4月1日海大達第131号)

本年4月1日付けで、本学大学院の医学研究科を廃止し、医学院及び医学研究院を設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

北海道大学大学院歯学院規程

(平成29年4月1日海大達第132号)

北海道大学大学院歯学研究院規程

(平成29年4月1日海大達第133号)

本年4月1日付けで、本学大学院の歯学研究科を廃止し、歯学院及び歯学研究院を設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

北海道大学大学院獣医学院規程

(平成29年4月1日海大達第134号)

北海道大学大学院獣医学研究院規程

(平成29年4月1日海大達第135号)

北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程

(平成29年4月1日海大達第136号)

本年4月1日付けで、本学大学院の獣医学研究科を廃止し、獣医学院及び獣医学研究院を設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

北海道大学大学院医理工学院規程

(平成29年4月1日海大達第137号)

本年4月1日付けで、本学大学院に医理工学院を設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

北海道大学大学院国際感染症学院規程

(平成29年4月1日海大達第138号)

本年4月1日付けで、本学大学院に国際感染症学院を設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

北海道大学大学院国際食資源学院規程

(平成29年4月1日海大達第139号)

本年4月1日付けで、本学大学院に国際食資源学院を設置することに伴い、所要の定めを行ったものです。

---

北海道大学遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第141号)

本年4月1日付けで、遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センターに病態解析リエゾンラボを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学附属図書館規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第142号)

北海道大学図書館委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第143号)

附属図書館長が副館長を兼務することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学観光学高等研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成29年4月1日海大達第150号)

本年4月1日付で、観光学高等研究センター運営委員会の構成員の見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学総合博物館施設利用規程

(平成29年4月1日海大達第154号)

北海道大学総合博物館の施設を教育研究の推進に資する目的のために利用させることに伴い、所要の定めを行ったものです。

表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
29.3.8	極東連邦大学（ロシア） Dmitry N. Bepalov 副学長	両大学の交流に関する懇談
29.3.14	華東理工大学（中国） Qu Jingping 学長	両大学の交流に関する懇談
29.3.22	中国江蘇省人民対外友好協会 Cai Xisheng 副会長	両国の交流に関する懇談
29.3.22	コロラド州立大学（アメリカ） Thom Hadley 獣医生物医学 財務・戦略部長	両大学の交流に関する懇談
29.3.23	Fortunato T. de la Peña フィリピン共和国科学技術大臣	学位記授与式出席及び両国の交流に関する懇談
29.3.24	オウル大学（フィンランド） Matti Sarén 副学長	両大学の交流に関する懇談



極東連邦大学（ロシア）  
Dmitry N. Bepalov 副学長（前列中央左）



華東理工大学（中国）  
Qu Jingping 学長（前列中央左）



中国江蘇省人民対外友好協会  
Cai Xisheng 副会長（前列中央左）



コロラド州立大学（アメリカ）  
Thom Hadley 獣医生物医学 財務・戦略部長  
（前列中央）



Fortunato T. de la Peña  
フィリピン共和国科学技術大臣（前列中央右）



オウル大学（フィンランド）  
Matti Sarén 副学長（前列中央左）

(国際部国際連携課)

## ■人事

平成29年3月14日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	坂 下 智 博	大学院医学研究科助教

平成29年3月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	福 田 真 生	北海道大学病院看護部看護師

平成29年3月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 国際連携機構助教	PATZKE NINA	採用

平成29年3月24日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【嘱託職員】 (辞職)	田 副 光 夫	北海道大学病院経営企画課

平成29年3月29日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (転出) 厚生労働省	西 村 淳	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

平成29年3月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (定年)	望 月 恒 子	大学院文学研究科教授
	山 田 友 幸	大学院文学研究科教授
	有 川 二 郎	大学院医学研究科教授
	岩 永 敏 彦	大学院医学研究科教授
	佐々木 秀 直	大学院医学研究科教授
	柴 田 健一郎	大学院歯学研究科教授
	片 倉 賢	大学院獣医学研究科教授
	原 口 誠	大学院情報科学研究科教授
	山 本 強	大学院情報科学研究科教授
	荒 井 克 俊	大学院水産科学研究院教授
	坂 入 信 夫	大学院地球環境科学研究院教授
	高 田 壯 則	大学院地球環境科学研究院教授
	新 井 朝 雄	大学院理学研究院教授
	稲 辺 保	大学院理学研究院教授
	喜多村 昇	大学院理学研究院教授



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(辞職)	小 笹 隆 司 鈴 木 徳 行 津 田 一 郎 日 夏 幸 雄 小 池 孝 良 原 博 長 井 裕 子 井 上 馨 千 葉 仁 志 良 村 貞 子 鶴 飼 重 治 岡 田 成 幸 越 崎 直 人 高 橋 正 宏 近 久 武 美 松 浦 清 隆 石 井 吉 春 田 中 歩 高 橋 英 樹 川 村 周 三 船 水 尚 行 仲 眞 紀 子 西 部 忠 田 口 精 一 田 村 亨	大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院保健科学研究院教授 大学院保健科学研究院教授 大学院保健科学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 低温科学研究所教授 総合博物館教授 国際連携研究教育局・大学院農学研究院教授 国際連携研究教育局・大学院工学研究院教授 大学院文学研究科教授 大学院経済学研究科教授 大学院工学研究院教授 大学院工学研究院教授
【准教授】 (定年)  (任期満了)  (辞職)	小 林 國 彦 山 下 成 治 今 川 敏 明 橋 元 明 彦 大 島 弘 光 植 村 滋 門 松 昌 彦 澤 村 淳 堺 谷 政 弘 稲 毛 富士郎 磯 田 典 和 泉 剛 荒 井 迅 保 田 諭 福 井 彰 雅 新 倉 謙 一	大学院歯学研究科准教授 大学院水産科学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授 北方生物圏フィールド科学センター准教授 北方生物圏フィールド科学センター准教授 大学院医学研究科准教授 大学院薬学研究科准教授 北海道大学病院准教授 国際連携研究教育局・人獣共通感染症リサーチセンター准教授 大学院医学研究科准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院先端生命科学研究院准教授 国際連携研究教育局・電子科学研究所准教授
【講師】 (任期満了)  (辞職)	PIANI LAURETTE 西 本 志 乃 李 妍 淑 若 狭 哲 土 屋 和 彦 船 越 忠 直 斉 藤 美 香	大学院理学研究院講師 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター講師 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター講師 大学院医学研究科講師 北海道大学病院講師 北海道大学病院講師 保健センター講師

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (定年)	小 野 修 司	大学院工学研究院助教
(任期満了)	小 宮 由里子	情報基盤センター助教
	川 村 行 論	大学院法学研究科助教
	姜 連 甲	大学院法学研究科助教
	酒 卷 修 也	大学院法学研究科助教
	濱 口 弘太郎	大学院法学研究科助教
	郭 薇	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教
	池 見 真 由	大学院経済学研究科助教
	國 松 淳	大学院医学研究科助教
	中 島 利 徳	大学院歯学研究科助教
	森 下 啓太郎	大学院獣医学研究科附属動物病院助教
	角 哲	大学院工学研究院助教
	荒 木 直 人	北海道大学病院助教
	神 津 将 仁	北海道大学病院助教
	佐 藤 精 一	遺伝子病制御研究所助教
	地 田 徹 朗	スラブ・ユーラシア研究センター助教
(辞職)	水 谷 武 臣	国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院助教
	角 本 和 理	大学院法学研究科助教
	伊 藤 智 城	大学院医学研究科助教
	志 馬 寛 明	大学院医学研究科助教
	杉 本 智 恵	大学院医学研究科助教
	藤 井 泰	大学院医学研究科助教
	松 沢 祐 介	大学院歯学研究科助教
	中 村 健 介	大学院獣医学研究科附属動物病院助教
	棟 方 渚	大学院情報科学研究科助教
	江 上 蓉 子	大学院薬学研究科助教
	佐 藤 浩 輔	大学院薬学研究科助教
	岸 上 博 俊	大学院保健科学研究科助教
	藤 田 和佳子	大学院保健科学研究科助教
	本 田 光	大学院保健科学研究科助教
	秋 元 琢 真	北海道大学病院助教
	天 野 虎 次	北海道大学病院助教
	石 津 桂	北海道大学病院助教
	小 野 雄 一	北海道大学病院助教
	小野寺 純	北海道大学病院助教
	作 原 祐 介	北海道大学病院助教
	千 葉 健太郎	北海道大学病院助教
	成 田 尚	北海道大学病院助教
	畠 山 博 充	北海道大学病院助教
	久 野 健二郎	北海道大学病院助教
	藤 本 勝 也	北海道大学病院助教
	宮 島 直 人	北海道大学病院助教
	久 保 和 也	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター助教
	GINDER ELLIOTT ABRAHAM	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター助教
【助手】 (定年)	大 島 正 裕	大学院工学研究院助手
(辞職)	佐 藤 松 治	大学院医学研究科助手
【専門職 (学術)】 (辞職)	武 村 理 雪	国際連携機構学術主任専門職

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部長】 (定年)	富 田 健 市 多 谷 司	附属図書館事務部長 工学系事務部長
【次長】 (定年)	吉 原 春 之	学務部次長 (兼) 学務部学務企画課長
【課長・事務長】 (定年)  (退職)	渡 邊 正 明 西 村 信 毅 植 西 勇 夫 大 石 和 博 山 本 正 幸 今 野 康 二	文学研究科・文学部事務長 獣医学研究科・獣医学部事務長 メディア・観光学事務部事務長 北海道大学病院総務課長 北方生物圏フィールド科学センター事務長 学務部学生支援課長
【補佐】 (定年)	長谷川 裕 藤 井 幹 彦 高 橋 克 郎	施設部施設企画課課長補佐 理学・生命科学事務部事務課課長補佐 工学系事務部総務課課長補佐
【専門員】 (定年)	平 林 晴 樹	総務企画部広報課専門員
【係長】 (定年)  (退職)	管 野 一 徳 中 谷 康 範 菊 池 健 二 長 井 伸 一 泉 澤 芳 史 押 田 亜 希	総務企画部情報企画課係長 施設部施設整備課係長 附属図書館利用支援課付係長 附属図書館利用支援課付係長 工学系事務部経理課係長 工学系事務部経理課係長
【主任】 (定年)	佐 藤 公 美 子	函館キャンパス事務部主任
【係員】 (定年) (退職)	間 口 久 美 子 渡 士 和 歌 奈 梶 山 美 紀	理学・生命科学事務部事務課 工学系事務部教務課 北海道大学病院総務課
【技術職員等】 (定年)  (任期満了)	池 田 光 雄 石 川 季 子 夫 松 尾 孝 之 中 村 和 洋 深 井 敏 隆 洪 谷 か を り 高 岡 勇 子 浅 野 恵 子 成 田 月 子 坂 本 治 子 村 上 愛 弓 山 口 桂 市 川 秀 雄 假 屋 洋 人 池 上 一 平 及 川 和 典 黒 川 瞳	総務企画部情報企画課技術専門職員 大学院医学研究科附属動物実験施設技術専門員 大学院工学研究院技術専門員 北海道大学病院物流管理センター技術専門職員 北海道大学病院薬剤部副薬剤部長 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部副看護師長 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 遺伝子病制御研究所技術専門員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門員 北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院薬剤部薬剤師

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	阿 部 真理絵	北海道大学病院看護部看護師
	荒 田 真 衣	北海道大学病院看護部看護師
	伊 藤 弥 生	北海道大学病院看護部看護師
	上 野 雅悠子	北海道大学病院看護部看護師
	大 原 千 秋	北海道大学病院看護部看護師
	川 島 有 加	北海道大学病院看護部看護師
	菊 池 奈々子	北海道大学病院看護部看護師
	木 下 知 子	北海道大学病院看護部看護師
	木 下 由 梨	北海道大学病院看護部看護師
	栗 栖 優 奈	北海道大学病院看護部看護師
	齋 藤 愛 子	北海道大学病院看護部看護師
	佐々木 理 恵	北海道大学病院看護部看護師
	澤 辺 千 夏	北海道大学病院看護部看護師
	城 市 理 佐	北海道大学病院看護部看護師
	須 藤 寛 子	北海道大学病院看護部看護師
	武 田 莉 奈	北海道大学病院看護部看護師
	中 西 舞亜紗	北海道大学病院看護部看護師
	西 村 春 菜	北海道大学病院看護部看護師
	菱 岡 なお子	北海道大学病院看護部看護師
	平 塚 恵光梨	北海道大学病院看護部看護師
	廣 川 舞	北海道大学病院看護部看護師
	安 川 愛 莉	北海道大学病院看護部看護師
	山 川 恵里奈	北海道大学病院看護部看護師
	山 本 彩 乃	北海道大学病院看護部看護師
	横 濱 佑三子	北海道大学病院看護部看護師
	和 嶋 陽 奈	北海道大学病院看護部看護師
	伊 藤 香 織	北海道大学病院看護部助産師
	加 藤 綾 華	北海道大学病院看護部助産師
	須 藤 菜月美	北海道大学病院看護部助産師
	藤 田 麻 奈	北海道大学病院看護部助産師
	真 壁 郁 子	北海道大学病院看護部助産師
	真 鍋 智 代	北海道大学病院医療技術部臨床検査技師
(辞職)	堀 岡 希 衣	大学院医学研究科
	中 尾 祥 一	水産学部附属練習船おしよろ丸機関員
	太 田 政 市	大学院工学研究院技術専門職員
	菅 優 子	北海道大学病院薬剤部薬剤師
	佐 近 亜梨奈	北海道大学病院薬剤部薬剤師
	小野塚 美 香	北海道大学病院看護部看護師長
	下 道 寿 恵	北海道大学病院看護部副看護師長
	水 口 美紀子	北海道大学病院看護部副看護師長
	荒 井 梨 佐	北海道大学病院看護部看護師
	安 藤 祥 子	北海道大学病院看護部看護師
	岡 田 麻 里	北海道大学病院看護部看護師
	長 内 絵 里	北海道大学病院看護部看護師
	長 船 紀 穂	北海道大学病院看護部看護師
	川 端 咲	北海道大学病院看護部看護師
	木 栖 明日香	北海道大学病院看護部看護師
	小 林 小百合	北海道大学病院看護部看護師
	斉 藤 祥 子	北海道大学病院看護部看護師
	佐々木 菜都水	北海道大学病院看護部看護師
	椎 谷 美 香	北海道大学病院看護部看護師
	大 中 沙 織	北海道大学病院看護部看護師
	高 橋 智 哉	北海道大学病院看護部看護師

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	彦 田 美季奈	北海道大学病院看護部看護師
	藤 井 絵理奈	北海道大学病院看護部看護師
	前 田 美 樹	北海道大学病院看護部看護師
	前 野 佑 佳	北海道大学病院看護部看護師
	孫 田 友 美	北海道大学病院看護部看護師
	南 ヌ グ	北海道大学病院看護部看護師
	室 野 真 里	北海道大学病院看護部看護師
	山 本 由 佳	北海道大学病院看護部看護師
	横 石 唯	北海道大学病院看護部看護師
	森 山 愛	北海道大学病院看護部助産師
	角 井 由 佳	北海道大学病院医療技術部作業療法士
	阿 部 朋 子	北海道大学病院医療技術部視能訓練士
	志 賀 一 希	北海道大学病院栄養士
	中 坪 俊 一	低温科学研究所技術専門職員
【特任教授 (再雇用)】 (任期満了)	小 野 芳 彦	大学院文学研究科特任教授
	津 曲 敏 郎	大学院文学研究科特任教授
	三 木 聰	大学院文学研究科特任教授
	林 田 清 明	大学院法学研究科特任教授
	櫻 木 範 明	大学院医学研究科特任教授
	玉 木 長 良	大学院医学研究科特任教授
	福 田 諭	大学院医学研究科特任教授
	水 上 尚 典	大学院医学研究科特任教授
	進 藤 正 信	大学院歯学研究科特任教授
	飯 田 浩 二	大学院水産科学研究院特任教授
	今 野 久仁彦	大学院水産科学研究院特任教授
	高 橋 是太郎	大学院水産科学研究院特任教授
	平 石 智 徳	大学院水産科学研究院特任教授
	吉 川 久 幸	大学院地球環境科学研究院特任教授
	高 畑 雅 一	大学院理学研究院特任教授
	野 村 一 成	大学院理学研究院特任教授
	生 方 信	大学院農学研究院特任教授
	増 田 清	大学院農学研究院特任教授
	間 宮 正 幸	大学院教育学研究院特任教授
	三 神 大 世	大学院保健科学研究院特任教授
	荒 井 正 彦	大学院工学研究院特任教授
	石 政 勉	大学院工学研究院特任教授
	吉 川 信 一	大学院工学研究院特任教授
	佐々木 一 彰	大学院工学研究院特任教授
	成 田 吉 弘	大学院工学研究院特任教授
	上 田 宏	北方生物圏フィールド科学センター特任教授
	丸 谷 知 己	国際連携研究教育局・大学院農学研究院特任教授
【特任准教授 (再雇用)】 (任期満了)	知 北 和 久	大学院理学研究院特任准教授
	辻 見 裕 史	電子科学研究所特任准教授
【特任助教 (再雇用)】 (任期満了)	瀧 田 裕 子	大学院歯学研究科特任助教
	森 下 満	大学院工学研究院特任助教
【嘱託職員】 (任期満了)	大 島 雅 明	総務企画部情報企画課
	徳 田 由 紀	財務部調達課

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	竹 田 充	学務部学生支援課
	岩 渕 徹 也	研究推進部研究支援課
	丸 山 浩 三	研究推進部研究支援課
	首 藤 佳 子	附属図書館利用支援課
	鹿 取 雅 幸	工学系事務部経理課
	加 納 美智代	大学院工学研究院
	斉 藤 清	大学院工学研究院
	佐 藤 孝 一	大学院工学研究院
	高 田 寿 明	大学院工学研究院
	杉 山 敏 保	工学系事務部教務課
	守 田 英 明	北方生物圏フィールド科学センター
	大 崎 明 美	保健センター
	野 崎 秀 雄	安全衛生本部

平成29年 4 月 1 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【役員】</b>		
総長 (期間：平成35年 3 月31日まで)	名 和 豊 春	大学院工学研究院教授
理事 (副学長) (期間：平成31年 3 月31日まで)	笠 原 正 典	大学院医学研究科教授
理事 (副学長) (期間：平成31年 3 月31日まで)	長谷川 晃	大学院法学研究科教授
理事 (副学長) (期間：平成31年 3 月31日まで)	西 井 準 治	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授
理事 (期間：平成31年 3 月31日まで)	皆 川 一 志	株式会社日本政策投資銀行執行役員
理事 (事務局長) (期間：平成31年 3 月31日まで)	徳 久 治 彦	理事 (事務局長)
<b>【副学長】</b>		
(期間：平成31年 3 月31日まで)	山 口 淳 二	大学院理学研究院教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	寶 金 清 博	北海道大学病院教授
<b>【総長補佐】</b>		
(期間：平成31年 3 月31日まで)	櫻 井 義 秀	大学院文学研究科教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	長谷山 美 紀	国際連携研究教育局・大学院情報科学研究科教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	南 雅 文	大学院薬学研究院教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	福 岡 淳	触媒科学研究所教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	児矢野 マ リ	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	藤 田 修	大学院工学研究院教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	高 橋 彩	国際連携機構国際教育研究センター教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	村 山 明 宏	大学院情報科学研究科教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	見 延 庄士郎	大学院理学研究院教授
(期間：平成29年10月31日まで)	大 場 雄 介	大学院医学研究院教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	香 内 晃	低温科学研究所教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	金 子 純 一	大学院工学研究院准教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	小 澤 丈 夫	大学院工学研究院教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	愛 甲 哲 也	大学院農学研究院准教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	秋 田 利 之	大学院理学研究院教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	村 松 正 隆	大学院文学研究科准教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	黒 岩 麻 里	大学院理学研究院教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	寒 川 美 奈	大学院保健科学研究院准教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(期間：平成31年 3 月31日まで)	長谷川 靖 哉	大学院工学研究院教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	石 塚 真由美	大学院獣医学研究院教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	LA FAY MICHELLE KAY	大学院文学研究科准教授
(期間：平成31年 3 月31日まで)	王 秀 峰	大学院農学研究院准教授
(期間：平成30年 3 月31日まで)	多 谷 司	
<b>【部局長・施設長等】</b>		
附属図書館長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	長谷川 晃	理事 (副学長)
附属図書館北図書館長 (期間：平成30年 3 月31日まで)	長谷川 晃	理事 (副学長)
大学院経済学研究院長 大学院経済学院長 (期間：平成30年 3 月31日まで)	町 野 和 夫	大学院経済学研究院教授
大学院医学研究院長 大学院医学院院长 医学部長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	吉 岡 充 弘	大学院医学研究院教授
大学院歯学研究院長 大学院歯学院長 (期間：平成30年 3 月31日まで)	横 山 敦 郎	大学院歯学研究院教授
大学院獣医学研究院長 獣医学部長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	堀 内 基 広	国際連携研究教育局・大学院獣医学研究院教授
大学院獣医学院長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	昆 泰 寛	大学院獣医学研究院教授
大学院理学研究院長 理学部長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	石 森 浩一郎	大学院理学研究院教授
大学院理学院院长 (期間：平成31年 3 月31日まで)	網 塚 浩	大学院理学研究院教授
大学院薬学研究院長 薬学部長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	佐 藤 美 洋	大学院薬学研究院教授
大学院農学研究院長 大学院農学院長 農学部長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	横 田 篤	大学院農学研究院教授
大学院先端生命科学研究院長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	出 村 誠	国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院教授
大学院生命科学院長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	山 下 正 兼	大学院理学研究院教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院長 大学院国際広報メディア・観光学院院长 (期間：平成31年 3 月31日まで)	山 田 義 裕	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院工学研究院長 工学部長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	増 田 隆 夫	大学院工学研究院教授
大学院工学院長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	小 林 幸 徳	大学院工学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部長 大学院公共政策学教育部長 (期間：平成31年 3 月31日まで)	高 野 伸 栄	大学院公共政策学連携研究部教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院医理工学院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	白 土 博 樹	国際連携研究教育局・大学院医学研究院教授
大学院国際感染症学院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	大 橋 和 彦	大学院獣医学研究院教授
大学院国際食資源学院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	井 上 京	国際連携研究教育局・大学院農学研究院教授
電子科学研究所長 (期間：平成31年 3月31日まで)	中 垣 俊 之	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授
情報基盤センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	高 井 昌 彰	情報基盤センター教授
アイソトープ総合センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	畠 山 鎮 次	大学院医学研究院教授
観光学高等研究センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	西 山 徳 明	観光学高等研究センター教授
アイス・先住民研究センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	常 本 照 樹	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
北極域研究センター長 (期間：平成30年 3月31日まで)	齊 藤 誠 一	国際連携研究教育局・北極域研究センター特任教授
外国語教育センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	西 川 克 之	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
総合博物館長 (期間：平成31年 3月31日まで)	中 川 光 弘	大学院理学研究院教授
大学文書館長 (期間：平成31年 3月31日まで)	長谷川 晃	理事 (副学長)
保健センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	橋 野 聡	保健センター教授
埋蔵文化財調査センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	小 杉 康	大学院文学研究科教授
技術支援本部長 (期間：平成31年 3月31日まで)	笠 原 正 典	理事 (副学長)
アドミッションセンター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	長谷川 晃	理事 (副学長)
人材育成本部長 (期間：平成31年 3月31日まで)	笠 原 正 典	理事 (副学長)
創成研究機構長 (期間：平成31年 3月31日まで)	西 井 準 治	理事 (副学長)
高等教育推進機構長 (期間：平成31年 3月31日まで)	長谷川 晃	理事 (副学長)
サステイナブルキャンパス推進本部長 (期間：平成31年 3月31日まで)	皆 川 一 志	理事
安全衛生本部長 (期間：平成31年 3月31日まで)	皆 川 一 志	理事
産学・地域協働推進機構長 (期間：平成31年 3月31日まで)	西 井 準 治	理事 (副学長)
国際連携機構長 (期間：平成31年 3月31日まで)	笠 原 正 典	理事 (副学長)
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長 (期間：平成30年 3月31日まで)	尾 崎 一 郎	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院医学研究院附属動物実験施設長 (期間：平成31年 3月31日まで)	渡 辺 雅 彦	大学院医学研究院教授
大学院獣医学研究院附属動物病院長 (期間：平成30年 3月31日まで)	滝 口 満 喜	大学院獣医学研究院教授



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	増 田 隆 一	大学院理学研究院教授
大学院先端生命科学研究院附属次世代物質生命科学研究センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	門 出 健 次	大学院先端生命科学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	榎 本 芳 人	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
水産学部附属練習船うしお丸船長 (期間：平成31年 3月31日まで)	亀 井 佳 彦	水産学部附属練習船うしお丸准教授
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター長 (期間：平成31年 3月31日まで)	小松崎 民 樹	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授
<b>【副研究科長・副研究院長等】</b>		
大学院経済学研究院副研究院長 (期間：平成30年 3月31日まで)	平 本 健 太	大学院経済学研究院教授
大学院医学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	篠 原 信 雄	大学院医学研究院教授
大学院医学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	畠 山 鎮 次	大学院医学研究院教授
大学院歯学研究院副研究院長 (期間：平成30年 3月31日まで)	八 若 保 孝	大学院歯学研究院教授
大学院獣医学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	滝 口 満 喜	大学院獣医学研究院教授
大学院理学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	齋 藤 陸	大学院理学研究院教授
大学院理学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	堀 口 健 雄	大学院理学研究院教授
大学院薬学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	木 原 章 雄	大学院薬学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	西 邑 隆 徳	大学院農学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	野 口 伸	大学院農学研究院教授
大学院先端生命科学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	門 出 健 次	大学院先端生命科学研究院教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	西 川 克 之	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	五十嵐 敏 文	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	瀬戸口 剛	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 (期間：平成31年 3月31日まで)	矢久保 考 介	大学院工学研究院教授
電子科学研究所副所長 (期間：平成31年 3月31日まで)	居 城 邦 治	国際連携研究教育局・電子科学研究所教授
<b>【教育研究評議会評議員】</b>		
(期間：平成31年 3月31日まで)	篠 原 信 雄	大学院医学研究院教授
(期間：平成31年 3月31日まで)	坪 田 敏 男	大学院獣医学研究院教授
(期間：平成31年 3月31日まで)	堀 口 健 雄	大学院理学研究院教授
(期間：平成31年 3月31日まで)	木 原 章 雄	大学院薬学研究院教授
(期間：平成31年 3月31日まで)	西 邑 隆 徳	大学院農学研究院教授
(期間：平成31年 3月31日まで)	五十嵐 敏 文	大学院工学研究院教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【教授】</b>		
大学院水産科学研究院教授	岸 村 栄 毅	大学院水産科学研究院准教授
大学院水産科学研究院教授	細 川 雅 史	大学院水産科学研究院准教授
大学院理学研究院教授	秋 田 利 之	大学院理学研究院准教授
大学院理学研究院教授	前 田 理	大学院理学研究院准教授
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授	高 橋 浩 晃	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授
大学院農学研究院教授	山 田 孝	三重大学大学院生物資源学研究科教授
大学院先端生命科学研究院教授	川 端 和 重	理事 (副学長)
大学院工学研究院教授	泉 典 洋	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院公共政策学連携研究部教授	石 川 達 也	大学院工学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部教授	宮 脇 淳	大学院法学研究科教授
大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	榎 本 芳 人	厚生労働省大臣官房付
北海道大学病院教授	荒 戸 照 世	大学院医学研究科教授
低温科学研究所教授	杉 山 慎	低温科学研究所准教授
北極域研究センター教授	安 部 智 久	国土交通省国土技術政策総合研究所港湾研究部・港湾計画研究室長
国際連携研究教育局教授	LINDNER ANKE	国際連携研究教育局准教授
国際連携研究教育局・大学院水産科学研究院教授 (転出)	松 石 隆	国際連携研究教育局・大学院水産科学研究院准教授
京都大学人文科学研究所教授	佐 藤 淳 二	大学院文学研究科教授
東京大学大学院理学系研究科教授	三 浦 徹	大学院地球環境科学研究院准教授
金沢大学医薬保健研究域薬学系教授	大 宮 寛 久	大学院理学研究院准教授
神戸大学教授	高 岡 秀 夫	大学院理学研究院教授
大阪大学教授	小布施 力 史	大学院先端生命科学研究院教授
東北大学教授	田 中 良 和	大学院先端生命科学研究院准教授
弘前大学自然科学系安全システム工学領域教授	岡 和 彦	大学院工学研究院准教授
総務省	笠 松 拓 史	大学院公共政策学連携研究部教授
新潟大学自然科学系教授	熊 野 英 和	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター准教授
東北大学大学院理学研究科教授	叶 深	触媒科学研究所准教授
<b>【准教授】</b>		
大学院文学研究科准教授	河 原 純一郎	採用
大学院文学研究科准教授	増 渕 隆 史	採用
大学院法学研究科准教授	前 田 亮 介	大学院公共政策学連携研究部准教授
大学院経済学研究院准教授	須 賀 宣 仁	大学院公共政策学連携研究部准教授
大学院医学研究院准教授	高 畑 雅 彦	大学院医学研究科講師
大学院医学研究院准教授	守 屋 仁 彦	北海道大学病院講師
大学院歯学研究院准教授	有 馬 太 郎	大学院歯学研究科講師
大学院歯学研究院准教授	佐 藤 真 理	大学院歯学研究科助教
大学院情報科学研究科准教授	西 村 寿 彦	大学院情報科学研究科助教
大学院情報科学研究科准教授	廣 瀬 善 大	東京大学大学院情報理工学系研究科助教
大学院理学研究院准教授	伊 庭 靖 弘	大学院理学研究院助教
大学院理学研究院准教授	田 中 暢 明	採用
大学院工学研究院准教授	林 重 成	東京工業大学物質理工学院准教授
大学院公共政策学連携研究部准教授	代 田 豊一郎	大学院経済学研究科准教授
大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター准教授	荒 川 溪	総務省大臣官房秘書課
電子科学研究所准教授	高 野 勇 太	採用
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター准教授	佐 藤 讓	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター准教授
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター准教授	寺 本 央	採用
国際連携研究教育局准教授	MARCELLAN ALBA	国際連携研究教育局助教
国際連携研究教育局・大学院農学研究院准教授 (転出)	内 田 義 崇	国際連携研究教育局・大学院農学研究院助教
広島大学大学院総合科学研究科准教授	眞 嶋 俊 造	大学院文学研究科准教授
京都大学大学院人間・環境学研究科准教授	松 江 崇	大学院文学研究科准教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道教育大学大学院高度教職実践専攻准教授	姫 野 完 治	大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター准教授
大阪大学准教授	長 尾 恒 治	大学院先端生命科学研究院講師
東北大学大学院工学研究科准教授	佐 野 大 輔	大学院工学研究院准教授
福井工業高等専門学校電気電子工学科准教授	松 浦 徹	大学院工学研究院助教
新潟大学大学院医歯学総合研究科准教授	新 熊 悟	北海道大学病院助教
東京工業大学科学技術創成研究院准教授	片 瀬 貴 義	電子科学研究所助教
東北大学大学院文学研究科准教授	小河原 義 朗	国際連携機構国際教育研究センター准教授
<b>【講師】</b>		
大学院医学研究院講師	新 宮 康 栄	北海道大学病院助教
大学院医学研究院講師	津 田 祥 美	大学院医学研究科助教
大学院医学研究院講師	早 川 峰 司	北海道大学病院助教
北海道大学病院講師	安 部 崇 重	大学院医学研究科講師
北海道大学病院講師	高 橋 大 介	北海道大学病院助教
遺伝子病制御研究所講師	森 岡 裕 香	遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター助教
遺伝子病制御研究所講師	BAGHDADI MUHAMMAD	遺伝子病制御研究所助教
国際連携研究教育局・北海道大学病院講師	阿 保 大 介	国際連携研究教育局・北海道大学病院助教
<b>【助教】</b>		
大学院法学研究科助教	木 戸 茜	採用
大学院法学研究科助教	西 村 曜 子	採用
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教	呉 逸 寧	採用
大学院医学研究院助教	杉 野 弘 和	採用
大学院医学研究院助教	藤 原 圭 志	採用
大学院医学研究院助教	三 井 信 幸	採用
大学院情報科学研究科助教	渡 邊 拓 貴	採用
大学院農学研究院助教	山 下 由 衣	採用
大学院先端生命科学研究院助教	塚 本 卓	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科助教
大学院メディア・コミュニケーション研究院助教	JANG JUHYEOK	採用
大学院メディア・コミュニケーション研究院助教	PAICHADZE SVETLANA	採用
大学院保健科学研究科助教	石 川 智 基	採用
大学院保健科学研究科助教	陳 震	採用
北海道大学病院助教	岩 田 浩 明	採用
北海道大学病院助教	馬 詰 武	採用
北海道大学病院助教	大 澤 崇 宏	採用
北海道大学病院助教	方波見 謙 一	採用
北海道大学病院助教	河 口 哲	採用
北海道大学病院助教	久保田 卓	採用
北海道大学病院助教	栗 田 紹 子	採用
北海道大学病院助教	後 藤 秀 樹	採用
北海道大学病院助教	後 藤 了 一	採用
北海道大学病院助教	提 嶋 久 子	採用
北海道大学病院助教	曾 山 武 士	採用
北海道大学病院助教	豊 島 邦 義	採用
北海道大学病院助教	中 澤 誠多朗	採用
北海道大学病院助教	中 村 明 枝	採用
北海道大学病院助教	早 瀬 英 子	採用
北海道大学病院助教	古 瀬 優 太	採用
北海道大学病院助教	干 野 晃 嗣	採用
北海道大学病院助教	溝 口 兼 司	採用
北海道大学病院助教	三田村 卓	採用
北海道大学病院助教	門 間 太 輔	採用
北海道大学病院助教	山 口 秀	採用
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター助教	伊 藤 創 祐	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
スラブ・ユーラシア研究センター助教	BULL JONATHAN EDWARD	大学院法学研究科助教
国際連携研究教育局・北海道大学病院助教	安 田 耕 一	採用
<b>【専門職 (学術)】</b> 産学・地域協働推進機構学術専門職	佐 藤 麻衣子	採用
<b>【専門職 (特定)】</b> 大学文書館特定専門職	山 本 美穂子	大学文書館技術専門職員
<b>【部長】</b> 附属図書館事務部長 工学系事務部長 北海道大学病院事務部長 (転出) 京都大学医学部附属病院事務部長	島 文 子 勝 山 憲 明 保 科 豊 次 田 中 宏 和	京都大学図書館企画課長 研究推進部次長 (兼) 研究推進部研究振興企画課長 筑波大学病院総務部長 北海道大学病院事務部長
<b>【次長・政策調整室長】</b> 政策調整室長 総務企画部次長 財務部次長 (兼) 財務部調達課長	大 道 元 浅 野 賢 二 佐々木 博 之	工学系事務部経理課長 総務企画部広報課長 財務部調達課長
<b>【課長・事務長・室長・政策調整室室長代理】</b> 政策調整室室長代理 総務企画部広報課長 学務部学務企画課長 学務部教育推進課長 学務部学生支援課長 学務部キャリア支援課長 研究推進部研究振興企画課長 研究推進部研究支援課長 施設部環境配慮促進課長 施設部施設整備課長 国際部国際交流課長 文学研究科・文学部事務長 経済学事務部事務長 医学系事務部保健科学研究院事務課長 獣医学系事務部事務長 メディア・観光学事務部事務長 工学系事務部経理課長 工学系事務部情報科学研究科事務課長 北海道大学病院経営企画課長 北海道大学病院管理課長 北海道大学病院医療支援課長 北方生物圏フィールド科学センター事務長 (出向復帰) 工学系事務部教務課長 北海道大学病院総務課長 (出向) 北海道教育大学学務部入試課長 帯広畜産大学総務課長 帯広畜産大学経理課長 (転出) 小樽商科大学施設課長 東北大学施設部建築整備課長 日本学術振興会研究事業部企画官	吉 田 年 克 金 川 眞 行 近 藤 俊 治 岡 林 精 二 富 樫 剛 小 塩 俊 二 川 上 豊 原 田 直 基 佐々木 津 祥 竹 内 真 司 小 山 佐 和 谷 口 貢 笹 原 英 明 松 嶋 敏 幸 井 上 直 樹 眞 野 茂 樹 入 澤 秀 次 佐々木 好 美 西 村 敏 信 石 井 進 三 浦 順 一 杉 山 淳 一  小 川 悟 阿 部 康 成  池 田 徹 鴨志田 敏 則 中 谷 慎 志  成 田 芳 道 中 西 康 晴 清 水 和 子	総務企画部総務課課長補佐 総務企画部総務課課長補佐 学務部教育推進課長 工学系事務部教務課長 北見工業大学総務課長 学務部キャリアセンター課長 研究推進部研究支援課長 総務企画部総務課総長秘書室長 帯広畜産大学経営管理部施設課長 施設部環境配慮促進課長 日本学術振興会研究事業部研究事業課課長代理 経済学研究科・経済学部事務長 理学・生命科学事務部事務課課長補佐 獣医学研究科・獣医学部事務長補佐 医学系事務部保健科学研究院事務課長 財務部主計課課長補佐 北海道大学病院経営企画課長 財務部調達課課長補佐 文部科学省初等中等教育局財務課高校修学支援室室長補佐 北海道大学病院医療支援課長 北海道大学病院経営企画課課長補佐 工学系事務部情報科学研究科事務課長  北海道教育大学学務部入試課長 北海道教育大学総務部人事課長  学務部学務企画課課長補佐 国際部国際連携課課長補佐 国際部国際教務課課長補佐  総務企画部人事課 (北海道教育大学出向中) 施設部施設整備課長 国際部国際交流課長

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
秋田工業高等専門学校学生課長 旭川医科大学総務部会計課長	齋 藤 嘉 光 吉 田 茂	理学・生命科学事務部事務課係長 北海道大学病院管理課長
<b>【補佐】</b> 総務企画部総務課課長補佐 総務企画部総務課課長補佐 財務部主計課課長補佐 財務部主計課課長補佐 学務部学務企画課課長補佐 学務部学生支援課課長補佐 学務部キャリア支援課課長補佐 施設部施設企画課課長補佐 国際部国際連携課課長補佐 附属図書館学術システム課課長補佐 医学系事務部総務課課長補佐 理学・生命科学事務部事務課課長補佐 理学・生命科学事務部事務課課長補佐 農学・食資源学事務部事務長補佐 工学系事務部総務課課長補佐 工学系事務部教務課課長補佐 北海道大学病院総務課課長補佐 北海道大学病院医事課課長補佐 北海道大学病院医療支援課課長補佐 (出向復帰) 財務部調達課課長補佐 施設部施設企画課課長補佐 附属図書館利用支援課課長補佐 (出向) 北海道教育大学財務部施設課副課長 室蘭工業大学総務広報課図書学術情報室長	菅 原 育 哉 芳 岡 洋 浅 野 智 裕 佐 藤 哲 生 山 本 透 原 田 由 美 加 福 千 明 岡 野 賢 泉 澤 成 実 金 子 敏 馬 淵 奈 美 浪 塚 良 平 横 岡 政 紀 折 田 朋 子 高 畑 範 昭 佐 藤 ひ と み 堀 川 ま ゆ み 渡 邊 玲 子 菊 池 洋 美  舘 山 雅 樹 空 橋 博 幸 横 井 有 紀  大 江 健 一 郎 梶 原 茂 寿	財務部経理課課長補佐 学務部学務企画課課長補佐 財務部調達課課長補佐 施設部施設企画課課長補佐 医学系事務部総務課課長補佐 総務企画部総務課安全衛生室専門員 学務部キャリアセンター課長補佐 理学・生命科学事務部事務課課長補佐 施設部施設企画課係長 附属図書館利用支援課課長補佐 医学系事務部総務課係長 北海道大学病院総務課課長補佐 財務部主計課課長補佐 北海道大学病院医療支援課係長 北海道大学病院医事課課長補佐 国際部国際連携課専門員 北海道大学病院医療支援課課長補佐 北海道大学病院医事課係長 農学事務部事務長補佐  帯広畜産大学財務課課長補佐 室蘭工業大学施設課副課長 室蘭工業大学総務広報課図書学術情報室長  施設部施設企画課係長 附属図書館学術システム課係長
<b>【専門員】</b> 政策調整室専門員 学務部学務企画課専門員	柴 田 珠 江 横 澤 史 彦	研究推進部研究振興企画課係長 学務部学務企画課係長
<b>【係長】</b> 総務企画部総務課安全衛生室係長 総務企画部企画課係長 総務企画部広報課係長 総務企画部情報企画課係長(兼)政策調整室係長 総務企画部情報企画課係長 学務部学務企画課係長 学務部学務企画課係長 学務部教育推進課係長 学務部教育推進課係長 学務部入試課係長 学務部学生支援課係長 学務部キャリア支援課係長 学務部キャリア支援課係長 研究推進部産学連携課係長 施設部施設企画課係長 施設部施設企画課係長 施設部施設整備課係長 国際部国際連携課係長 国際部国際連携課係長	山 下 敦 子 大 沢 将 野 口 明 広 西 村 公 子 村 岡 英 明 石 水 健 長谷川 修 平 高 原 め ぐ み 土 井 将 義 米 川 憲 司 佐 藤 通 寺 嶋 延 彦 野 坂 慎 一 小 野 美 木 子 今 野 日 出 男 瀬 川 貢 山 口 秀 貴 池 野 奈 保 子 佐 藤 真 美	農学事務部係長 総務企画部総務課総長秘書室係長 医学系事務部総務課係長 総務企画部総務課総長秘書室係長 薬学事務部係長 学務部学務企画課主任 工学系事務部総務課主任 学務部教育推進課主任 工学系事務部情報科学研究科事務課係長 北海道大学病院医療支援課係長 工学系事務部教務課係長 工学系事務部教務課係長 学務部キャリアセンター係長 学務部入試課係長 総務企画部企画課係長 函館キャンパス事務部係長 北海道教育大学財務部施設課係長 工学系事務部教務課係長 総務企画部総務課安全衛生室主任

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
国際部国際連携課係長	宮 田 朋 和	工学系事務部教務課主任
国際部国際交流課係長	小 澤 響 子	国際部国際交流課主任
附属図書館管理課係長	本 間 静一郎	横浜国立大学図書館・情報部図書館情報課専門職員(兼)情報サービス係長
附属図書館利用支援課係長	坂 本 ゆう子	附属図書館利用支援課付係長
附属図書館利用支援課付係長	小 林 流美子	附属図書館利用支援課係長
附属図書館学術システム課係長	堀 越 邦 恵	附属図書館管理課係長
法学研究科・法学部係長	寺 下 雅 子	工学系事務部総務課係長
経済学事務部係長	安 達 孝 徳	函館キャンパス事務部係長
経済学事務部係長	小 島 清 志	教育学事務部係長
医学系事務部総務課係長	石 川 由香里	工学系事務部教務課係長
医学系事務部総務課係長	西 村 直 樹	経済学研究科・経済学部係長
医学系事務部総務課係長	山 内 好 子	北海道大学病院総務課係長
歯学事務部係長	狩 野 高 志	歯学研究科・歯学部主任
函館キャンパス事務部係長	柳 谷 和 秀	研究推進部研究支援課係長
函館キャンパス事務部係長	吉 川 幸 児	理学・生命科学事務部事務課主任
理学・生命科学事務部事務課係長	鈴 木 正 章	法学研究科・法学部係長
理学・生命科学事務部事務課係長	波多野 訓 広	学務部教育推進課係長
薬学事務部係長	清 野 浩 昭	総務企画部情報企画課係長
農学・食資源学事務部係長	梶 栄 治	学務部キャリアセンター係長
農学・食資源学事務部係長	澤 田 浩 一	経済学研究科・経済学部係長
教育学事務部係長	白 川 孝 子	総務企画部情報企画課係長
工学系事務部総務課係長	武 藤 幹 夫	理学・生命科学事務部事務課係長
工学系事務部経理課係長	山 口 聡 子	国際部国際連携課係長
工学系事務部教務課係長	稻 葉 正 思	学務部学務企画課係長
工学系事務部教務課係長	西 東 宏 章	工学系事務部教務課主任
工学系事務部教務課係長	渡 邊 秀 雄	歯学研究科・歯学部係長
工学系事務部情報科学研究科事務課係長	脇 坂 恭 匡	学務部学生支援課主任
北海道大学病院総務課係長	伊 東 武 志	理学・生命科学事務部事務課係長
北海道大学病院医事課係長	宇野田 毅	北海道大学病院医事課主任
北海道大学病院医事課係長	佐 藤 友 美	北方生物圏フィールド科学センター係長
北海道大学病院医療支援課係長	鶴 田 由 佳	研究推進部産学連携課係長
(出向復帰)		
研究推進部研究振興企画課係長	三 浦 司	苫小牧工業高等専門学校総務課人事係長
施設部環境配慮促進課係長	相 原 寛 樹	小樽商科大学施設課設備係長
附属図書館利用支援課付係長	池 田 幸 代	北見工業大学情報図書課係長
附属図書館利用支援課付係長	千 葉 浩 之	室蘭工業大学総務広報課図書学術情報室係長
理学・生命科学事務部事務課係長	足 利 誠	北見工業大学総務課人事係長
北海道大学病院管理課係長	海老田 憲 人	苫小牧工業高等専門学校総務課施設管理係長
北海道大学病院医療支援課係長	久 保 明 啓	小樽商科大学総務課人事係長
北方生物圏フィールド科学センター係長	鈴 木 孝 幸	帯広畜産大学経営管理部総務課人事・労務係長
(出向)		
苫小牧工業高等専門学校総務課企画調査係長	富 塚 直 樹	総務企画部総務課主任
北見工業大学総務課人事係長	吉 本 幸 矩	財務部主計課主任
国立大雪青少年交流の家総務専門職	大 瀧 恵 二	学務部学生支援課係長
北海道教育大学施設課係長	早乙女 一 徳	施設部環境配慮促進課係長
日本学生支援機構	渡 辺 明	国際部国際連携課係長
旭川医科大学総務部会計課係長	嘉 見 拓 也	国際部国際交流課主任
室蘭工業大学総務広報課図書学術情報室係長	長 嶋 岳 生	附属図書館利用支援課
東京大学附属図書館情報サービス課係長	野 中 雄 司	附属図書館利用支援課係長
帯広畜産大学総務課人事・労務係長	塚 田 倫 子	医学系事務部総務課主任
苫小牧工業高等専門学校総務課施設管理係長	佐々木 重 晴	医学系事務部会計課係長
室蘭工業大学経営企画課人事労務室係長	高 山 大 樹	工学系事務部情報科学研究科事務課主任
室蘭工業大学施設課係長	池 森 一 之	北海道大学病院管理課主任

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
小樽商科大学施設課設備係長 (転出)	昔 農 清 岳	北海道大学病院管理課主任
東京工業大学	東 泰 彦	施設部環境配慮促進課係長
<b>【主任】</b>		
監査室主任	左 海 賢 志	監査室
総務企画部人事課主任	大 島 あゆみ	帯広畜産大学経営管理部人事・労務係主任
総務企画部人事課主任	前 田 龍之介	総務企画部人事課
総務企画部情報企画課主任	関 本 岳	総務企画部人事課主任
総務企画部情報企画課主任	高 口 智 美	メディア・観光学事務部主任
総務企画部情報企画課主任	土 田 とも峰	農学事務部主任
財務部主計課主任	伊 藤 和 矢	財務部主計課
財務部主計課主任	山 内 大 造	学務部学務企画課主任
財務部経理課主任	鎌 田 萌 子	財務部経理課
財務部経理課主任	関 藤 元 太	財務部経理課
財務部調達課主任	浅 野 泰 規	総務企画部企画課主任
財務部調達課主任	福 島 卓 哉	財務部調達課
学務部学務企画課主任	野 崎 なつみ	農学事務部主任
学務部教育推進課主任	小 林 敏 泰	学務部教育推進課
学務部入試課主任	小笠原 麻 美	学務部入試課
研究推進部研究振興企画課主任	青 木 文 男	研究推進部研究振興企画課
研究推進部研究支援課主任	下 條 春 香	農学事務部主任
国際部国際交流課主任	角 家 由紀子	国際部国際連携課主任
文学研究科・文学部主任	塚 越 翼	文学研究科・文学部
医学系事務部総務課主任	能 田 昌 久	医学系事務部総務課
医学系事務部会計課主任	佐 藤 祥 嗣	医学系事務部会計課
歯学事務部主任	昔 農 尚 子	工学系事務部情報科学研究科事務課主任
環境科学事務部主任	阿 部 裕 幸	農学事務部係長
理学・生命科学事務部事務課主任	尾 形 昌 信	理学・生命科学事務部事務課
薬学事務部主任	高 橋 絢 子	薬学事務部
農学・食資源学事務部主任	辻 陽 菜	農学事務部
教育学事務部主任	佐 藤 洋 一	学務部入試課主任
工学系事務部総務課主任	鈴 木 佑	総務企画部人事課厚生労務室
工学系事務部経理課主任	栗 林 哲 也	施設部施設整備課主任
北海道大学病院経営企画課主任	山 本 健 二	北海道大学病院経営企画課
北海道大学病院管理課主任	小 野 貴 弘	北海道大学病院管理課
北海道大学病院管理課主任	田 中 昌 平	工学系事務部経理課主任
北海道大学病院管理課主任	永 井 潤	北海道大学病院管理課
北海道大学病院管理課主任	林 宏 樹	北海道大学病院管理課
北海道大学病院医事課主任	木ノ内 明	北海道大学病院医事課
北海道大学病院医事課主任	辻 芳 朗	北海道大学病院医事課
低温科学研究所主任 (出向復帰)	長谷川 桃 子	法学研究科・法学部主任
研究推進部産学連携課主任 (出向)	野 崎 裕 貴	総務企画部人事課
千葉大学医学部附属病院管理課主任	大 坪 智 子	総務企画部人事課 (日本学術振興会出向中)
旭川医科大学総務部会計課主任	斉 藤 拓 朗	北海道大学病院総務課主任
<b>【係員】</b>		
総務企画部総務課安全衛生室	渡 部 瑞 穂	学務部学務企画課
総務企画部企画課	小 池 香 織	財務部主計課
総務企画部広報課	北 野 誉 直	総務企画部企画課
総務企画部人事課	五十嵐 猛 朗	教育学事務部
総務企画部人事課	片 岡 玄 吉	北キャンパス合同事務部

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
総務企画部人事課	武 井 智 裕	北海道大学病院管理課
総務企画部人事課	中 山 琴 絵	財務部主計課
総務企画部人事課	宮 崎 健 也	採用
総務企画部人事課厚生労務室	安 井 詩 絵	研究推進部研究支援課
財務部主計課	倉 澤 佳 央	財務部調達課
財務部主計課	諸 田 美 沙	歯学研究科・歯学部
財務部経理課	大 内 俊 輔	財務部調達課
財務部調達課	岡 部 啓 吾	北方生物圏フィールド科学センター
財務部調達課	佐 貫 翔 悟	採用
財務部調達課	中 原 寛 基	北海道教育大学財務部財務課
財務部調達課	袴 田 梨 紗	採用
財務部調達課	山 田 祐 輔	財務部資産運用管理課
財務部資産運用管理課	青 野 僚 太	採用
学務部学務企画課	安 田 三 冬	採用
学務部教育推進課	中 塚 沙 織	学務部学生支援課
学務部教育推進課	坂 東 光 太	採用
学務部学生支援課	荒 井 菜 々	採用
学務部学生支援課	鈴 木 里 奈	北海道大学病院総務課
学務部学生支援課	竹之内 希	メディア・観光学事務部
学務部学生支援課	渡 辺 巧 也	メディア・観光学事務部
学務部入試課	渡 邊 裕 敬	文学研究科・文学部
学務部キャリア支援課	佐々木 香 苗	学務部キャリアセンター
学務部キャリア支援課	濱 岡 小 紗	学務部キャリアセンター
研究推進部研究支援課	木 村 晃 平	採用
施設部施設企画課	中 根 万理子	採用
施設部環境配慮促進課	杉 本 拓 也	採用
施設部環境配慮促進課	吉 田 一 幸	採用
施設部施設整備課	村 上 紗 季	採用
国際部国際連携課	北 濱 玲 奈	採用
国際部国際教務課	永 井 香 那	採用
附属図書館管理課	安 藤 優 記	医学系事務部総務課
附属図書館管理課	清 重 周太郎	附属図書館利用支援課
附属図書館管理課	小 島 早 智	採用
附属図書館管理課	得 能 由 貴	附属図書館利用支援課付
附属図書館管理課	福 井 みゆき	附属図書館利用支援課
附属図書館利用支援課	奥 田 由 佳	採用
附属図書館利用支援課	杉 山 あかね	採用
附属図書館利用支援課	田 原 憧 子	採用
附属図書館利用支援課付	佐々木 美由紀	附属図書館学術システム課
附属図書館利用支援課付	中 村 瑞 穂	附属図書館管理課
附属図書館利用支援課付	根 本 萌	附属図書館管理課
附属図書館学術システム課	中 筋 知 恵	小樽商科大学学術情報課
附属図書館学術システム課	村 木 麻衣子	附属図書館管理課
文学研究科・文学部	岡 尚 樹	採用
文学研究科・文学部	北 川 俊 樹	採用
法学研究科・法学部	東 野 友 泰	函館キャンパス事務部
法学研究科・法学部	黒 澤 瑠	採用
医学系事務部総務課	魚 津 武 利	室蘭工業大学経営企画課人事労務室
医学系事務部総務課	金 姫 紗	採用
医学系事務部総務課	斉 藤 香 歩	採用
医学系事務部総務課	竹 道 祐里佳	獣医学研究科・獣医学部
医学系事務部会計課	城 弘 次	施設部環境配慮促進課
歯学事務部	五十嵐 里 奈	国際部国際教務課



新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
歯学事務部	豊 村 桃	北キャンパス合同事務部
獣医学系事務部	澤 田 実 歩	北海道大学病院医事課
獣医学系事務部	澁 谷 はる香	法学研究科・法学部
獣医学系事務部	助 川 祐 太	採用
函館キャンパス事務部	横 川 由 希	理学・生命科学事務部事務課
理学・生命科学事務部事務課	青 木 里 美	採用
理学・生命科学事務部事務課	有 田 真理子	採用
理学・生命科学事務部事務課	大 山 夏 未	北海道大学病院医事課
理学・生命科学事務部事務課	高 橋 麻 衣	採用
理学・生命科学事務部事務課	三 浦 辰 也	採用
農学・食資源学事務部	岡 坂 直 寛	北海道大学病院総務課
農学・食資源学事務部	黄 荔	採用
農学・食資源学事務部	佐々木 隼 斗	採用
農学・食資源学事務部	塚 田 愛	法学研究科・法学部
農学・食資源学事務部	中 野 文	採用
農学・食資源学事務部	藤 島 直	北海道大学病院医療支援課
メディア・観光学事務部	鈴 木 千 穂	学務部学務企画課
メディア・観光学事務部	本 間 真樹子	財務部主計課
工学系事務部総務課	原 渕 幸	採用
工学系事務部経理課	山 中 慎	採用
工学系事務部教務課	川 口 麻里子	医学系事務部総務課
工学系事務部教務課	佐 川 浩 太	国際部国際連携課
工学系事務部教務課	櫻 井 志 保	農学事務部
工学系事務部情報科学研究科事務課	佐 藤 亜由美	低温科学研究所
工学系事務部情報科学研究科事務課	森 航 児	北海道大学病院管理課
北海道大学病院総務課	明 石 奈 々	採用
北海道大学病院総務課	谷 口 桃 子	理学・生命科学事務部事務課
北海道大学病院総務課	船渡川 翔 太	採用
北海道大学病院経営企画課	木 島 晋	財務部調達課
北海道大学病院経営企画課	進 万里奈	採用
北海道大学病院管理課	新 谷 宏 太	室蘭工業大学経理課
北海道大学病院管理課	富 樫 奈 美	採用
北海道大学病院管理課	山 西 裕 大	採用
北海道大学病院医事課	佐 藤 礼 奈	採用
北海道大学病院医事課	新 堀 咲 里	採用
北海道大学病院医事課	中 鉢 裕 貴	採用
北海道大学病院医療支援課	佐久間 有 希	採用
北方生物圏フィールド科学センター	二ノ上 陽 太	採用
北キャンパス合同事務部	引 地 華 恵	総務企画部総務課(兼)総務企画部情報企画課
北キャンパス合同事務部 (出向復帰)	平 井 正 仁	文学研究科・文学部
総務企画部総務課	齋 藤 和 也	総務企画部人事課
総務企画部企画課 (出向)	對 木 文 宏	大学改革支援・学位授与機構評価事業部評価企画課
大学入試センター事業部事業第一課	林 健太郎	学務部学生支援課
室蘭工業大学施設課	鯉 江 勇 輝	施設部施設整備課
国立情報学研究所学術基盤推進部図書館連携・協力室 (転出)	山 形 知 実	附属図書館管理課
一橋大学	進 藤 千恵美	総務企画部人事課(一橋大学出向中)
北海道教育大学財務部経理課	尾 辻 大 貴	財務部調達課
室蘭工業大学経理課	堀 切 香 菜	附属図書館管理課
小樽商科大学企画戦略課	池 澤 奈 緒	工学系事務部総務課

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】		
総務企画部情報企画課	尾 形 かおり	採用
大学院医学研究院技術専門職員	越 山 隆 恵	大学院医学研究科附属動物実験施設技術専門職員
大学院医学研究院技術専門職員	菅 尚 登	大学院医学研究科附属動物実験施設技術専門職員
大学院医学研究院	大 瀧 越 騎	大学院医学研究科附属動物実験施設
大学院医学研究院	小 野 麻衣子	大学院医学研究科附属動物実験施設
水産学部附属練習船おしよろ丸操舵手	澤 田 光 希	水産学部附属練習船おしよろ丸甲板員
水産学部附属練習船おしよろ丸機関員	能 正 稔 紀	採用
大学院工学研究院	門 谷 琢 郎	採用
北海道大学病院薬剤部副薬剤部長	宮 本 剛 典	北海道大学病院薬剤部調剤室長
北海道大学病院薬剤部調剤室長	須 田 範 行	北海道大学病院薬剤部一般製剤室長
北海道大学病院薬剤部医薬品情報室長	熊 井 正 貴	北海道大学病院薬剤部薬品管理室長
北海道大学病院薬剤部薬品管理室長	山 崎 浩二郎	北海道大学病院薬剤部薬剤師
北海道大学病院薬剤部一般製剤室長	沖 洋 充	北海道大学病院薬剤部医薬品情報室長
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	北 村 綾 香	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	谷 口 理	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	本 田 愛 子	採用
北海道大学病院薬剤部薬剤助手	三 上 龍 生	採用
北海道大学病院看護部看護師長	伊 林 由美子	北海道大学病院看護部副看護師長
北海道大学病院看護部看護師長	古 藤 幸 子	北海道大学病院看護部副看護師長
北海道大学病院看護部看護師長	中 泉 晶 子	北海道大学病院看護部副看護師長
北海道大学病院看護部副看護師長	稲 田 範 子	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	岩 佐 幸 一	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	桑 原 陽 子	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	柴 田 貴 子	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	根 津 永 美	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	野 口 亜 実	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部副看護師長	春 木 綾 子	北海道大学病院看護部助産師
北海道大学病院看護部副看護師長	三 浦 拓 己	北海道大学病院看護部看護師
北海道大学病院看護部看護師	飯 塚 早奈英	採用
北海道大学病院看護部看護師	生 田 真 弥	採用
北海道大学病院看護部看護師	一 色 相 佳	採用
北海道大学病院看護部看護師	犬 塚 香央里	採用
北海道大学病院看護部看護師	兼 崎 真佐子	東京大学医学部附属病院看護部看護師
北海道大学病院看護部看護師	金 平 有加里	採用
北海道大学病院看護部看護師	酒 井 ゆりの	採用
北海道大学病院看護部看護師	坂 上 綾 未	採用
北海道大学病院看護部看護師	佐々木 枝莉子	採用
北海道大学病院看護部看護師	佐 原 侑 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	鳥 田 詩絵奈	採用
北海道大学病院看護部看護師	高 木 司世里	採用
北海道大学病院看護部看護師	中 岡 真 希	採用
北海道大学病院看護部看護師	中 村 郁 哉	採用
北海道大学病院看護部看護師	橋 本 あやめ	採用
北海道大学病院看護部看護師	濱 田 学	採用
北海道大学病院看護部看護師	吉 田 文	採用
北海道大学病院看護部看護助手	阿 部 友 紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	飯 島 彩 花	採用
北海道大学病院看護部看護助手	飯 野 実 穂	採用
北海道大学病院看護部看護助手	五十嵐 由 佳	採用
北海道大学病院看護部看護助手	伊 藤 聖 華	採用
北海道大学病院看護部看護助手	上 田 顕 世	採用
北海道大学病院看護部看護助手	上 野 夏 海	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護助手	梅 木 夏 菜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	榎 並 美 里	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 井 美由記	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大萱生 一 馬	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 崎 聖 果	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 桃 成 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	岡 田 紗 彩	採用
北海道大学病院看護部看護助手	岡 田 ひかり	採用
北海道大学病院看護部看護助手	岡 本 紘 佳	採用
北海道大学病院看護部看護助手	尾 碕 愛 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	角 田 萌	採用
北海道大学病院看護部看護助手	片 山 玖留実	採用
北海道大学病院看護部看護助手	鹿 又 麻 瑚	採用
北海道大学病院看護部看護助手	神 谷 貴 音	採用
北海道大学病院看護部看護助手	木 村 夏乃子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	木 村 直 実	採用
北海道大学病院看護部看護助手	小 中 柚 芽	採用
北海道大学病院看護部看護助手	今 野 葵	採用
北海道大学病院看護部看護助手	齊 藤 杏 佳	採用
北海道大学病院看護部看護助手	齊 藤 南 帆	採用
北海道大学病院看護部看護助手	齊 藤 希	採用
北海道大学病院看護部看護助手	齋 藤 有 希	採用
北海道大学病院看護部看護助手	坂 内 夢 佳	採用
北海道大学病院看護部看護助手	櫻 井 瑛梨香	採用
北海道大学病院看護部看護助手	笹 沼 優 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 亜里沙	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 早 紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 名 那	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 麗 也	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 伶 名	採用
北海道大学病院看護部看護助手	里 村 真寿美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	三 宮 千 昌	採用
北海道大学病院看護部看護助手	鹿 野 里 菜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	清水畑 駿	採用
北海道大学病院看護部看護助手	須 田 綾 香	採用
北海道大学病院看護部看護助手	曾我部 朱 莉	採用
北海道大学病院看護部看護助手	高 崎 かれん	採用
北海道大学病院看護部看護助手	高 山 明香里	採用
北海道大学病院看護部看護助手	立 山 美 空	採用
北海道大学病院看護部看護助手	田 中 佑 実	採用
北海道大学病院看護部看護助手	田 中 良 介	採用
北海道大学病院看護部看護助手	田 向 あやめ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	地 家 優美子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	辻 康 平	採用
北海道大学病院看護部看護助手	津 田 早也佳	採用
北海道大学病院看護部看護助手	當 瀬 むつみ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	鳥 潟 すみれ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	内 藤 美 月	採用
北海道大学病院看護部看護助手	長 瀬 友梨奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 田 結 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	長 田 晴 香	採用
北海道大学病院看護部看護助手	西 村 さなえ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	野 月 綾 乃	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護助手	登 晴 香	採用
北海道大学病院看護部看護助手	橋 本 美 咲	採用
北海道大学病院看護部看護助手	長谷川 麗 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	花 田 浩 大	採用
北海道大学病院看護部看護助手	馬 場 千 尋	採用
北海道大学病院看護部看護助手	兵 藤 麻里江	採用
北海道大学病院看護部看護助手	藤 平 みのり	採用
北海道大学病院看護部看護助手	星 紘 貴	採用
北海道大学病院看護部看護助手	真玉橋 杏 奈	採用
北海道大学病院看護部看護助手	松 倉 里 紗	採用
北海道大学病院看護部看護助手	宮 下 美 波	採用
北海道大学病院看護部看護助手	村 上 実 央	採用
北海道大学病院看護部看護助手	本 瀬 好	採用
北海道大学病院看護部看護助手	初 山 萌 華	採用
北海道大学病院看護部看護助手	森 若 ジェイムズ	採用
北海道大学病院看護部看護助手	安 川 優 花	採用
北海道大学病院看護部看護助手	矢 吹 美沙紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	八 卷 ひかり	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 田 有 紗	採用
北海道大学病院看護部看護助手	吉 田 隼 騎	採用
北海道大学病院看護部看護助手	渡 邊 菜 月	採用
北海道大学病院看護部助産師	河 嶋 亜 衣	採用
北海道大学病院看護部助産師	佐々木 紀 子	採用
北海道大学病院医療技術部視能訓練士	長谷川 裕 香	採用
北海道大学病院医療技術部臨床検査技師長	秋 沢 宏 次	北海道大学病院医療技術部主任臨床検査技師
北海道大学病院医療技術部主任臨床検査技師	福 元 達 也	北海道大学病院医療技術部臨床検査技師
北海道大学病院医療技術部臨床検査技師	市 川 智 大	採用
北海道大学病院医療技術部診療放射線技師	福 士 沙江子	東北大学病院診療技術部診療放射線技師
北海道大学病院医療技術部診療放射線技師	森 静 香	採用
北海道大学病院医療技術部理学療法士	藤 内 宏 典	採用
北海道大学病院医療技術部作業療法士	富 永 巧	採用
北海道大学病院栄養士	伊 藤 望	採用
低温科学研究所技術専門職員	平 田 康 史	電子科学研究所技術専門職員
電子科学研究所技術専門職員	遠 藤 礼 暁	電子科学研究所
電子科学研究所技術専門職員	大 西 広	電子科学研究所
技術支援本部付 (人獣共通感染症リサーチセンター) 技術専門職員	大 沼 愛 子	技術支援本部付 (人獣共通感染症リサーチセンター)
北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員	伊 藤 悠 也	北方生物圏フィールド科学センター
北方生物圏フィールド科学センター	奥 山 智 浩	採用
北方生物圏フィールド科学センター	菅 野 由 莉	採用
北方生物圏フィールド科学センター	古 川 望	採用
北方生物圏フィールド科学センター	宮 崎 徹	採用
保健センターカウンセラー	小 西 優 佳	採用
技術支援本部付 (創成研究機構) 技術専門職員 (出向)	徳 光 藍	技術支援本部付 (創成研究機構)
東北大学病院診療技術部診療放射線技師 (転出)	宮 本 佳史子	北海道大学病院医療技術部診療放射線技師
筑波大学附属病院	長谷川 真 里	北海道大学病院看護部副看護師長
岡山大学病院	佐 藤 知 弘	北海道大学病院看護部看護師
京都大学医学部附属病院	三 井 順 子	北海道大学病院看護部看護師
<b>【特任教授 (再雇用)】</b>		
大学院文学研究科特任教授	山 田 友 幸	
大学院医学研究院特任教授	有 川 二 郎	

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院医学研究院特任教授	岩 永 敏 彦	
大学院医学研究院特任教授	佐々木 秀 直	
大学院歯学研究院特任教授	柴 田 健一郎	
大学院獣医学研究院特任教授	片 倉 賢	
大学院情報科学研究科特任教授	原 口 誠	
大学院情報科学研究科特任教授	山 本 強	
大学院水産科学研究院特任教授	荒 井 克 俊	
大学院地球環境科学研究院特任教授	坂 入 信 夫	
大学院地球環境科学研究院特任教授	高 田 壯 則	
大学院理学研究院特任教授	新 井 朝 雄	
大学院理学研究院特任教授	喜多村 昇	
大学院理学研究院特任教授	小 笹 隆 司	
大学院理学研究院特任教授	鈴 木 徳 行	
大学院理学研究院特任教授	日 夏 幸 雄	
大学院農学研究院特任教授	小 池 孝 良	
大学院農学研究院特任教授	原 博	
大学院メディア・コミュニケーション研究院特任教授	長 井 裕 子	
大学院保健科学研究院特任教授	井 上 馨	
大学院保健科学研究院特任教授	千 葉 仁 志	
大学院工学研究院特任教授	鵜 飼 重 治	
大学院工学研究院特任教授	岡 田 成 幸	
大学院工学研究院特任教授	越 崎 直 人	
大学院工学研究院特任教授	高 橋 正 宏	
大学院工学研究院特任教授	近 久 武 美	
大学院工学研究院特任教授	松 浦 清 隆	
大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター特任教授	石 井 吉 春	
低温科学研究所特任教授	田 中 歩	
総合博物館特任教授	高 橋 英 樹	
国際連携研究教育局・大学院農学研究院特任教授	川 村 周 三	
<b>【特任准教授（再雇用）】</b>		
大学院歯学研究院特任准教授	小 林 國 彦	
大学院理学研究院特任准教授	今 川 敏 明	
大学院理学研究院特任准教授	橋 元 明 彦	
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター特任准教授	大 島 弘 光	
北方生物圏フィールド科学センター特任准教授	植 村 滋	
北方生物圏フィールド科学センター特任准教授	門 松 昌 彦	
<b>【特任助教（再雇用）】</b>		
大学院工学研究院特任助教	小 野 修 司	
情報基盤センター特任助教	小 宮 由 里 子	
<b>【特任助手（再雇用）】</b>		
大学院工学研究院助手	大 島 正 裕	
<b>【嘱託職員（再雇用）】</b>		
監査室	山 内 一 昭	総務企画部広報課
総務企画部広報課	高 橋 克 郎	
総務企画部広報課	平 林 晴 樹	
総務企画部情報企画課	池 田 光 雄	
財務部調達課	泉 澤 芳 史	
学務部教育推進課	吉 原 春 之	
学務部学生支援課	大 石 和 博	
学務部入試課	間 口 久 美 子	
研究推進部研究支援課	中 谷 康 範	

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
施設部環境配慮促進課	長谷川 裕	研究推進部研究支援課
附属図書館利用支援課	長 井 伸 一	
函館キャンパス事務部	佐 藤 公美子	
大学院工学研究院	松 尾 孝 之	
工学系事務部経理課	藤 井 幹 彦	
北海道大学病院物流管理センター	中 村 和 洋	
北海道大学病院経営企画課	管 野 一 徳	
北海道大学病院管理課	福 原 義 幸	
北海道大学病院看護部	村 上 愛 弓	
遺伝子病制御研究所	山 口 桂	
北方生物圏フィールド科学センター	市 川 秀 雄	
環境健康科学研究教育センター	植 西 勇 夫	
安全衛生本部	石 川 季子夫	
総合 I R 室	渡 邊 正 明	

※教育研究組織及び教育研究組織に置く事務部の名称変更等に係る配置換は記載省略

○教育研究組織

- ・「経済学研究科」→「経済学研究院」
- ・「医学研究科」→「医学研究院」
- ・「歯学研究科」→「歯学研究院」
- ・「獣医学研究科」→「獣医学研究院」

○教育研究組織に置く事務部

- ・「経済学研究科・経済学部」→「経済学事務部」
- ・「歯学研究科・歯学部」→「歯学事務部」
- ・「農学事務部」→「農学・食資源学事務部」
- ・「獣医学研究科・獣医学部」→「獣医学系事務部」

新任部局長等紹介

平成29年4月1日付

経済学研究院長・経済学院長・経済学部長に



まちの かずお  
**町野 和夫 教授**

平成29年4月1日付けで、経済学研究科が学院・研究院化され、経済学研究院長・経済学院長・経済学部長として町野和夫教授が発令されました。  
任期は、平成30年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和32年7月31日  
昭和55年3月 京都大学経済学部卒業  
昭和55年4月 } 三菱総合研究所研究員  
平成元年6月 }  
平成7年9月 ノースカロライナ大学大学院退学  
平成7年10月 北海道大学経済学部助教授  
平成8年12月 Ph.D(経済学) (ノースカロライナ大学)  
平成12年4月 北海道大学大学院経済学研究科助教授  
平成16年4月 北海道大学大学院経済学研究科教授  
平成17年4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授  
平成19年4月 北海道大学大学院経済学研究科教授  
平成20年8月 } 北海道大学大学院経済学研究科長・経済学部長  
平成24年3月 }  
平成24年4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授  
平成26年4月 北海道大学大学院経済学研究科教授  
平成27年4月 } 北海道大学総長補佐  
平成28年3月 }  
平成28年4月 } 北海道大学大学院経済学研究科長・経済学部長  
平成29年3月 }

医学研究院長・医学院長・医学部長に



よしおか みつひろ  
**吉岡 充弘 教授**

平成29年4月1日付けで医学研究科が学院・研究院化され、医学研究院長・医学院長・医学部長として吉岡充弘教授が発令されました。  
任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和33年7月25日  
昭和59年3月 北海道大学医学部卒業  
昭和60年6月 北海道大学医学部助手  
平成元年6月 医学博士(北海道大学)  
平成元年7月 北海道大学医学部講師  
平成3年6月 北海道大学医学部助教授  
平成9年9月 北海道大学医学部教授  
平成12年4月 北海道大学大学院医学研究科教授  
平成16年4月 } 北海道大学大学院医学研究科副研究科長  
平成23年3月 }  
平成23年4月 } 北海道大学役員補佐  
平成25年3月 }  
平成24年4月 } 北海道大学脳科学研究教育センター長  
平成28年3月 }  
平成25年4月 } 北海道大学大学院医学研究科副研究科長  
平成29年3月 }  
平成27年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
平成29年3月 }

歯学研究院長・歯学院長・歯学部長に



よこやま あつろう  
**横山 敦郎 教授**

平成29年4月1日付けで歯学研究科が学院・研究院化され、歯学研究院長・歯学院長・歯学部長として横山敦郎教授が発令されました。  
任期は、平成30年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和33年6月28日  
昭和59年3月 北海道大学歯学部卒業  
昭和63年3月 北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了  
昭和63年3月 歯学博士(北海道大学)  
昭和63年8月 北海道大学歯学部助手  
平成12年4月 北海道大学大学院歯学研究科助手  
平成14年6月 北海道大学歯学部附属病院講師  
平成15年10月 北海道大学医学部・歯学部附属病院講師  
平成16年4月 北海道大学病院講師  
平成17年6月 北海道大学大学院歯学研究科教授  
平成24年4月 } 北海道大学大学院歯学研究科副研究科長,  
平成26年3月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
平成26年4月 } 北海道大学大学院歯学研究科長・歯学部長  
平成29年3月 }

獣医学院長に



こん やすひろ  
**昆 泰寛 教授**

平成29年4月1日付けで、獣医学研究科が学院・研究院化され、獣医学院長として昆泰寛教授が発令されました。  
任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和33年7月4日  
昭和56年3月 北海道大学獣医学部卒業  
昭和58年3月 北海道大学大学院獣医学研究科修士課程修了  
昭和59年11月 北海道大学獣医学部助手  
昭和63年3月 獣医学博士(北海道大学)  
平成6年10月 北海道大学獣医学部助教授  
平成7年4月 北海道大学大学院獣医学研究科助教授  
平成15年4月 北海道大学大学院獣医学研究科教授  
平成25年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
平成29年3月 }  
平成26年4月 } 北海道大学高等教育推進機構教授  
平成27年3月 }

獣医学研究院長・獣医学部長に



ほりうち もとひろ  
**堀内 基広 教授**

平成29年4月1日付けで獣医学研究科が学院・研究院化され、獣医学研究院長・獣医学部長に堀内基広教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

- 生年月日 昭和39年2月26日
- 昭和61年3月 北海道大学獣医学部卒業
- 昭和63年3月 北海道大学大学院獣医学研究科修士課程修了
- 昭和63年4月 日本ロシユ株式会社研究所
- 昭和64年1月 帯広畜産大学畜産学部助手
- 平成6年6月 博士(獣医学) (北海道大学)
- 平成7年6月 帯広畜産大学原虫病分子免疫研究センター助教授、岐阜大学大学院連合獣医学研究科助教授
- 平成9年7月 } 米国立衛生研究所ロッキーマウンテン研究所訪問研究員
- 平成11年7月 }
- 平成12年4月 帯広畜産大学原虫病研究センター助教授
- 平成15年8月 北海道大学大学院獣医学研究科教授
- 平成25年4月 } 北海道大学役員補佐
- 平成26年3月 }
- 平成26年4月 } 北海道大学総長補佐
- 平成27年3月 }
- 平成26年7月 北海道大学国際連携研究教育局教授
- 平成27年4月 北海道大学高等教育推進機構教授

理学院長に



あみつか ひろし  
**網塚 浩 教授**

平成29年3月31日限りで鈴木徳行理学院長が任期満了となり、その後任として網塚 浩教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

- 生年月日 昭和39年3月27日
- 昭和62年3月 北海道大学理学部卒業
- 平成元年3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了
- 平成元年6月 北海道大学大学院理学研究科博士後期課程退学
- 平成元年7月 北海道大学理学部助手
- 平成6年3月 博士(理学) (北海道大学)
- 平成7年4月 北海道大学大学院理学研究科助手
- 平成12年5月 北海道大学大学院理学研究科助教授
- 平成17年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
- 平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授
- 平成26年4月 } 北海道大学総長補佐、北海道大学創成研究機構副機構長
- 平成29年3月 }
- 平成26年4月 } 北海道大学創成研究機構共用機器管理センター長
- 平成27年12月 }
- 平成28年1月 } 北海道大学グローバルファシリティセンター長
- 平成29年3月 }

薬学研究院長・薬学部長に



さとう よしひろ  
**佐藤 美洋 教授**

平成29年3月31日限りで南 雅文薬学研究院長・薬学部長が任期満了となり、その後任として佐藤美洋教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

- 生年月日 昭和40年10月1日
- 昭和63年3月 北海道大学薬学部卒業
- 平成2年3月 北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了
- 平成2年4月 北海道大学薬学部教務職員
- 平成5年9月 博士(薬学) (北海道大学)
- 平成7年10月 北海道大学薬学部助手
- 平成10年4月 北海道大学大学院薬学研究科助手
- 平成11年4月 北海道大学大学院薬学研究科講師
- 平成13年4月 北海道大学大学院薬学研究科助教授
- 平成16年4月 北海道大学大学院薬学研究科教授
- 平成18年4月 北海道大学大学院薬学研究科教授
- 平成27年4月 } 北海道大学大学院薬学研究科副院長、
- 平成29年3月 } 北海道大学教育研究評議会評議員

生命科学院長に



やました まさかね  
**山下 正兼 教授**

平成29年3月31日限りで山口淳二生命科学院長が辞任したため、その後任として山下正兼教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

- 生年月日 昭和31年11月15日
- 昭和54年3月 北海道大学理学部卒業
- 昭和56年3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了
- 昭和59年9月 北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了
- 昭和59年9月 理学博士(北海道大学)
- 昭和60年4月 日本学術振興会奨励研究員、北海道大学教養部非常勤講師
- 昭和63年4月 日本学術振興会特別研究員
- 平成元年8月 岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所助手
- 平成5年4月 北海道大学理学部助教授
- 平成7年4月 北海道大学大学院理学研究科助教授
- 平成10年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
- 平成18年4月 北海道大学大学院先端生命科学研究院教授
- 平成22年4月 北海道大学大学院理学研究院教授
- 平成22年4月 } 北海道大学大学院理学研究院副院長
- 平成23年3月 }
- 平成23年4月 } 北海道大学大学院理学研究院長・理学部長
- 平成25年3月 }
- 平成26年4月 } 北海道大学総長補佐
- 平成26年12月 }
- 平成26年4月 } 北海道大学高等教育推進機構副機構長
- 平成29年3月 }
- 平成27年1月 } 北海道大学副学長
- 平成29年3月 }



工学院院长に



こばやし ゆきのり  
**小林 幸徳 教授**

平成29年3月31日限りで名和豊春工  
学研究院長・工学院院长・工学部長が辞  
任したため、その後任として小林幸徳  
教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和32年8月27日  
昭和56年3月 北海道大学工学部卒業  
昭和58年3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了  
昭和61年3月 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了  
昭和61年3月 工学博士（北海道大学）  
昭和61年4月 北海道大学工学部  
昭和61年6月 北海道大学工学部講師  
平成元年4月 北海道大学工学部助教授  
平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科助教授  
平成16年4月 北海道大学大学院工学研究科教授  
平成22年4月 北海道大学大学院工学研究院教授  
平成24年4月 } 北海道大学高等教育推進機構副機構長  
平成26年3月 }  
平成26年4月 } 北海道大学大学院工学研究院副研究院長  
平成29年3月 }  
平成28年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
平成29年3月 }

工学研究院長・工学部長に



ますだ たかお  
**増田 隆夫 教授**

平成29年3月31日限りで名和豊春工  
学研究院長・工学院院长・工学部長が辞  
任したため、その後任として増田隆夫  
教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和32年1月11日  
昭和54年3月 京都大学工学部卒業  
昭和56年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了  
昭和57年10月 京都大学工学部助手  
昭和63年7月 工学博士（京都大学）  
平成元年4月 京都大学工学部講師  
平成6年2月 京都大学工学部助教授  
平成8年4月 京都大学大学院工学研究科助教授  
平成13年4月 北海道大学大学院工学研究科教授  
平成22年4月 北海道大学大学院工学研究院教授  
平成24年4月 } 北海道大学大学院総合化学院副院長  
平成26年3月 }  
平成26年4月 } 北海道大学大学院工学研究院副研究院長  
平成29年3月 }

公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長に



たかの しんえい  
**高野 伸栄 教授**

平成29年3月31日限りで石井吉春公  
共政策学連携研究部長・公共政策学教  
育部長が任期満了となり、その後任と  
して高野伸栄教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和35年5月29日  
昭和58年3月 北海道大学工学部卒業  
昭和58年4月 東北地方建設局仙台工事事務所調査第二課  
昭和62年3月 埼玉大学大学院政策科学研究科修士課程修了  
昭和62年4月 建設省建設経済局建設業課係長  
平成元年4月 土木研究所道路部交通安全研究室  
平成元年10月 北海道大学工学部助手  
平成9年3月 工学博士（北海道大学）  
平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科助手  
平成11年7月 北海道大学大学院工学研究科助教授  
平成19年4月 北海道大学大学院工学研究科准教授  
平成22年4月 北海道大学大学院工学研究院准教授  
平成23年4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部准教授  
平成27年7月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授

医理工学院院长に



しらと ひろき  
**白土 博樹 教授**

平成29年4月1日付けで医理工学院  
が設置され、医理工学院院长として白土  
博樹教授が発令されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和32年3月29日  
昭和56年3月 北海道大学医学部卒業  
昭和61年4月 北海道大学医学部助手  
平成2年9月 医学博士（北海道大学）  
平成5年4月 北海道大学医学部附属病院講師  
平成10年6月 北海道大学医学部助教授  
平成12年4月 北海道大学大学院医学研究科助教授  
平成12年10月 北海道大学医学部附属病院助教授  
平成18年10月 北海道大学大学院医学研究科教授  
平成19年4月 } 北海道大学大学院医学研究科副研究科長  
平成21年3月 }  
平成20年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
平成21年3月 }  
平成21年4月 } 北海道大学役員補佐  
平成23年3月 }  
平成21年4月 } 北海道大学病院放射線部長  
平成29年3月 }  
平成23年4月 } 北海道大学大学院医学研究科副研究科長  
平成27年3月 }  
平成26年4月 } 北海道大学国際連携研究教育局量子医理工学グローバルステーション長  
平成29年3月 }

国際感染症学院長に



おおはし かずひこ  
**大橋 和彦 教授**

平成29年4月1日付けで国際感染症学院が設置され、国際感染症学院長に大橋和彦教授が発令されました。任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和36年2月18日  
 昭和58年3月 北海道大学獣医学部卒業  
 昭和60年3月 北海道大学大学院獣医学研究科修士課程修了  
 昭和60年4月 } 三楽(現メルシヤン)株式会社中央研究所  
 平成元年7月 }  
 平成5年8月 米国コーネル大学大学院獣医学研究科博士課程修了  
 平成5年8月 Ph.D.(コーネル大学)  
 平成5年9月 北海道大学獣医学部助手  
 平成7年10月 北海道大学大学院獣医学研究科助手  
 平成13年1月 北海道大学大学院獣医学研究科助教授  
 平成19年4月 北海道大学大学院獣医学研究科准教授  
 平成20年7月 北海道大学大学院獣医学研究科教授  
 平成23年4月 } 北海道大学高等教育推進機構教授  
 平成24年3月 }

国際食資源学院長に



いのうえ たかし  
**井上 京 教授**

平成29年4月1日付けで国際食資源学院が設置され、国際食資源学院長として井上京教授が発令されました。任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和35年2月9日  
 昭和58年3月 北海道大学農学部卒業  
 昭和60年3月 北海道大学大学院農学研究科修士課程修了  
 昭和60年4月 農林水産省  
 昭和63年4月 北海道大学農学部助手  
 平成8年3月 博士(農学)(北海道大学)  
 平成8年9月 北海道大学農学部講師  
 平成10年4月 北海道大学農学部助教授  
 平成11年4月 北海道大学大学院農学研究科助教授  
 平成18年4月 北海道大学大学院農学研究科助教授  
 平成19年4月 北海道大学大学院農学研究科准教授  
 平成25年1月 北海道大学大学院農学研究科教授  
 平成27年4月 } 北海道大学大学院農学研究科副研究科長  
 平成29年3月 }  
 平成28年4月 北海道大学国際連携研究教育局教授、  
 北海道大学大学院農学研究科教授

電子科学研究所長に



なかがき としゆき  
**中垣 俊之 教授**

平成29年3月31日限りで西井準治電子科学研究所長が辞任したため、その後任として中垣俊之教授が発令されました。任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和38年8月7日  
 昭和62年3月 北海道大学薬学部卒業  
 平成元年4月 ファイザー製薬株式会社中央研究所研究員  
 平成9年3月 名古屋大学大学院人間情報学研究所博士課程修了  
 平成9年4月 理化学研究所基礎科学特別研究員  
 平成12年4月 理化学研究所フロンティア研究員  
 平成12年11月 北海道大学電子科学研究所助教授  
 平成19年4月 北海道大学電子科学研究所准教授  
 平成22年4月 公立ほこだて未来大学システム情報科学部教授  
 平成25年4月 北海道大学電子科学研究所教授  
 平成27年4月 北海道大学電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授

外国語教育センター長に



にしかわ かつゆき  
**西川 克之 教授**

平成29年3月31日限りで鈴木純一外国語教育センター長が任期満了となり、その後任として西川克之教授が発令されました。任期は、平成31年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和34年4月24日  
 昭和57年3月 北海道大学文学部卒業  
 昭和61年3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了  
 昭和61年3月 文学修士(北海道大学)  
 昭和61年4月 高知大学人文学部助手  
 昭和63年4月 高知大学人文学部講師  
 平成5年4月 北海道大学言語文化部講師  
 平成7年12月 北海道大学言語文化部助教授  
 平成19年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授  
 平成22年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授

## 部局長等（再任）紹介

平成29年4月1日付

## 理学研究院長・理学部長に

いしもり こういちろう  
石森 浩一郎 教授

石森浩一郎教授は、平成27年4月1日から理学研究院長・理学部長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

## 先端生命科学研究院長に

でむら まこと  
出村 誠 教授

出村 誠教授は、平成25年4月1日から先端生命科学研究院長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

## 情報基盤センター長に

たかい よしあき  
高井 昌彰 教授

高井昌彰教授は、平成23年4月1日から情報基盤センター長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

## 観光学高等研究センター長に

にしやま のりあき  
西山 徳明 教授

西山徳明教授は、平成25年4月1日から観光学高等研究センター長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

## 北極域研究センター長に

さいとう せいいち  
齊藤 誠一 特任教授

齊藤誠一特任教授は、平成27年4月1日から北極域研究センター長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同特任教授が再任されました。

任期は、平成30年3月31日までです。

## 農学研究院長・農学院長・農学部長に

よこた あつし  
横田 篤 教授

横田 篤教授は、平成27年4月1日から農学研究院長・農学院長・農学部長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

## メディア・コミュニケーション研究院長・国際広報メディア・観光学院長に

やまだ よしひろ  
山田 義裕 教授

山田義裕教授は、平成27年4月1日からメディア・コミュニケーション研究院長・国際広報メディア・観光学院長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

## アイソトープ総合センター長に

はたけやま しげつぐ  
畠山 鎮次 教授

畠山鎮次教授は、平成23年4月1日からアイソトープ総合センター長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

## アイヌ・先住民研究センター長に

つねもと てるき  
常本 照樹 教授

常本照樹教授は、平成19年4月1日からアイヌ・先住民研究センター長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

## 総合博物館長に

なかがわ みつひろ  
中川 光弘 教授

中川光弘教授は、平成27年4月1日から総合博物館長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

### 保健センター長に

はしの  
**橋野** さとし  
**聡** 教授

---

橋野 聡教授は、平成25年4月1日から保健センター長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

### 埋蔵文化財調査センター長に

こすぎ やすし  
**小杉** **康** 教授

---

小杉 康教授は、平成27年4月1日から埋蔵文化財調査センター長を務め、平成29年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成31年3月31日までです。

## 新任教授紹介

平成29年4月1日付



水産科学研究院教授に

きしむら ひでき  
**岸村 栄毅 氏**

 海洋応用生命科学部門  
 水産資源開発工学分野

生年月日

昭和36年11月4日

最終学歴

 北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程退学（昭和62年12月）  
 博士（水産科学）（北海道大学）

専門分野

水産化学



水産科学研究院教授に

ほそかわ まさし  
**細川 雅史 氏**

 海洋応用生命科学部門  
 生物資源化学分野

生年月日

昭和41年6月22日

最終学歴

 北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了（平成4年3月）  
 博士（水産学）（北海道大学）（平成8年3月）

専門分野

水産化学，分子栄養学，脂質化学



理学研究院教授に

あきた としゆき  
**秋田 利之 氏**

数学部門数学分野

生年月日

昭和40年11月29日

最終学歴

 大阪大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成7年3月）  
 博士（理学）（大阪大学）

専門分野

位相幾何学



理学研究院教授に

まえだ さとし  
**前田 理 氏**

化学部門物理化学分野

生年月日

昭和54年8月30日

最終学歴

 東北大学大学院理学研究科博士課程修了（平成19年3月）  
 博士（理学）（東北大学）

専門分野

理論化学，計算化学


 理学研究院附属  
 地震火山研究観測センター教授に

たかはし ひろあき  
**高橋 浩晃 氏**

地震観測研究分野

生年月日

昭和45年8月11日

最終学歴

 北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成10年6月）  
 博士（理学）（北海道大学）

専門分野

地震学，火山学



農学研究院教授に

やまだ たかし  
**山田 孝 氏**

基盤研究部門森林科学分野

生年月日

昭和36年3月19日

最終学歴

 北海道大学大学院農学研究科修士課程中退（昭和60年3月）  
 博士（農学）（北海道大学）

専門分野

砂防学，砂防工学



公共政策学連携研究部附属  
公共政策学研究センター教授に

えのもと よしひと  
**榎本 芳人 氏**

エコ・ウェルフェア研究部門

生年月日

昭和44年 5月23日

最終学歴

ハーバード大学行政大学院修士課程（平成12年 6月）  
MPA（ハーバード大学）

専門分野

社会保障



低温科学研究所教授に

すぎやま しん  
**杉山 慎 氏**

雪氷新領域部門  
氷河・氷床分野

生年月日

昭和44年 3月 5日

最終学歴

北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了（平成15年 3月）  
地球環境科学博士（北海道大学）

専門分野

氷河学、雪氷学



北極域研究センター教授に

あべ ともひさ  
**安部 智久 氏**

研究部環境工学研究グループ

生年月日

昭和44年 9月 3日

最終学歴

東京工業大学理工学研究科修士課程修了（平成 7年 3月）  
修士（土木工学）（東京工業大学）

専門分野

グローバルロジスティクス、物流政策



国際連携研究教育局教授に

アンケ リントナー  
**Anke Lindner 氏**

ソフトマターグローバルステーション  
フランスユニット

生年月日

1971年 9月12日

最終学歴

フランス ピエール・エ・マリーキュリー大学博士課程修了（2000年10月）  
博士（物理）（ピエール・エ・マリーキュリー大学）

専門分野

複雑流体・活性物質・マイクロ流体工学・  
不安定流動



国際連携研究教育局・  
水産科学研究院教授に

まついし たかし  
**松石 隆 氏**

国際連携研究教育局  
食水土資源グローバルステーション ガバナンスグループ  
水産科学研究院海洋生物資源科学部門  
資源生物学分野

生年月日

昭和39年10月 3日

最終学歴

東京大学大学院農学系研究科後期博士課程中退（平成 5年 3月）  
博士（農学）（東京大学）

専門分野

水産資源学、鯨類学

新任部課長等紹介

平成29年4月1日付



附属図書館事務部長に

しま ふみこ  
島 文子 氏

昭和36年6月生  
昭和59年4月 京都工芸繊維大学  
平成10年4月 京都大学  
平成12年4月 京都教育大学図書館情報サービス係長  
平成14年4月 京都大学医学部閲覧掛長  
平成15年4月 京都大学医学部整理掛長  
平成16年4月 京都大学医学部研究科整理掛長  
平成18年4月 京都大学附属図書館総務課専門職員  
平成19年4月 京都大学附属図書館専門員  
平成20年4月 大阪教育大学学術情報課長  
平成23年4月 千葉大学学術情報課長  
平成24年4月 千葉大学附属図書館利用支援企画課長  
平成26年4月 京都大学附属図書館情報管理課長  
平成27年4月 京都大学附属図書館総務課長,  
京都大学本部構内(文系)共通事務部図書担当課長  
平成28年4月 京都大学附属図書館企画課長,  
京都大学本部構内(文系)共通事務部図書担当課長



工学系事務部長に

かつやま のりあき  
勝山 憲明 氏

昭和33年12月23日生  
昭和52年4月 室蘭工業大学  
昭和54年5月 北海道大学  
平成11年4月 旭川医科大学総務部会計課用度第一係長  
平成12年4月 旭川医科大学総務部会計課司計係長  
平成14年4月 北海道大学経理部主計課第二予算掛長  
平成15年4月 北海道大学経理部主計課第一予算掛長  
平成16年4月 北海道大学財務部主計課総括予算係長  
平成17年4月 北海道大学財務部主計課課長補佐  
平成21年4月 北海道大学企画部企画調整課長  
平成23年4月 北海道大学総務企画部企画課長  
平成24年4月 帯広畜産大学財務課長  
平成26年4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課長  
平成28年4月 北海道大学研究推進部次長  
(兼) 研究推進部研究振興企画課長



北海道大学病院事務部長に

ほしな とよじ  
保科 豊次 氏

昭和37年1月14日生  
昭和55年3月 福島県立郡山高等学校卒業  
昭和55年4月 東京医科歯科大学  
昭和60年4月 文部省高等教育局医学教育課  
昭和61年5月 臨時教育審議会事務局総務課  
昭和62年8月 文部省大臣官房政策課  
平成4年4月 文部省大臣官房会計課総務班  
平成5年1月 文部省大臣官房会計課総務班法規係主任  
平成5年4月 文部省大臣官房会計課管財班管財第一係主任  
平成8年4月 文部省大臣官房会計課政府調達室専門職員  
平成8年10月 文部省大臣官房会計課政府調達室政府調達第三係長  
平成9年4月 文部省大臣官房会計課政府調達室政府調達第二係長  
平成10年4月 文部省大臣官房会計課管財班宿舍係長  
平成11年9月 文部省大臣官房会計課管財班管財第一係長  
平成12年1月 京都工芸繊維大会計課長  
平成14年2月 東京大学経理部管財課長  
平成16年4月 文化庁文化財部美術学芸課美術館・歴史博物館室専門官  
平成18年1月 文部科学省大臣官房会計課宿舍専門官  
平成18年6月 文部科学省大臣官房会計課国有財産調査官  
平成20年4月 文部科学省大臣官房会計課管理班主査  
平成22年4月 茨城大学財務部長  
平成24年4月 山梨大学財務管理部長  
平成26年4月 筑波大学病院総務部長



政策調整室長に

おおみち はじめ  
大道 元 氏

昭和36年6月25日生  
昭和58年1月 金沢大学医学部附属病院  
昭和62年6月 文部省大臣官房会計課総務班  
昭和62年7月 放送大学学園総務部会計課司計第二係  
平成元年7月 文部省大臣官房会計課経理班経理第二係  
平成5年7月 文部省大臣官房会計課経理班経理第四係主任  
平成6年4月 文部省大臣官房会計課経理班経理第一係主任  
平成8年4月 国立学校財務センター管理部企画課財産管理係長  
平成9年4月 国立学校財務センター管理部総務課会計係長  
平成11年4月 文部省大臣官房会計課用度班庶務係長  
平成12年4月 帯広畜産大会計課長  
平成14年4月 東京医科歯科大学医学部管理課長  
平成16年4月 岡山大学医学部・歯学部附属病院医事課長  
平成18年4月 愛知教育大学財務部財務課長  
平成20年4月 北海道大学財務部調達課長  
平成23年4月 北海道大学病院医事課長  
平成25年4月 北海道大学病院経営企画課長  
平成27年4月 北海道大学工学系事務部経理課長



総務企画部次長に

あさの けんじ  
浅野 賢二 氏

昭和32年10月28日生  
 昭和59年1月 北海道大学  
 平成10年4月 釧路工業高等専門学校庶務課人事係長  
 平成13年4月 北海道大学理学研究科・理学部専門職員（人事担当）  
 平成15年4月 北海道大学総務部総務課秘書掛長  
 平成16年4月 北海道大学総務部総務課秘書室秘書係長  
 平成18年9月 北海道大学総務部人事課課長補佐  
 平成21年4月 北海道大学総務部職員課長  
 平成23年4月 北海道教育大学総務部人事課長  
 平成26年4月 北海道大学総務企画部広報課長



財務部次長（兼）調達課長に

ささき ひろゆき  
佐々木 博之 氏

昭和37年11月30日生  
 昭和63年10月 北海道大学  
 平成13年4月 室蘭工業大会計課専門職員  
 平成14年4月 室蘭工業大会計課用度係長  
 平成15年4月 北海道大学経理部第一契約課政府調達掛長  
 平成16年4月 北海道大学監査室監査係長  
 平成17年4月 北海道大学財務部主計課財務法規係長  
 平成19年4月 北海道大学財務部主計課総務係長  
 平成20年4月 北海道大学学術国際部研究協力課課長補佐  
 平成22年4月 北海道大学財務部主計課課長補佐  
 平成24年4月 北海道大学財務部資産運用管理課長  
 平成28年4月 北海道大学財務部調達課長



政策調整室室長代理に

よしだ としかつ  
吉田 年克 氏

昭和42年3月19日生  
 北海学園大学経済学部卒業  
 平成3年11月 北海道大学法学部教務掛  
 平成5年10月 北海道大学医学部人事掛  
 平成9年4月 北海道大学総務部人事課職員掛  
 平成11年10月 北海道大学総務部研究協力課付  
 平成12年4月 北海道大学総務部研究協力課付主任  
 平成15年4月 北海道大学総務部研究協力課専門職員  
 平成15年10月 北海道大学研究協力部研究協力課専門職員  
 平成16年4月 北海道大学北キャンパス合同事務部庶務掛長  
 平成17年10月 北海道大学総務部職員課専門職員  
 平成19年4月 北海道大学総務部職員課係長  
 平成22年4月 北海道大学企画部企画調整課係長  
 平成23年4月 帯広畜産大学企画総務部総務課課長補佐  
 平成25年4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課課長補佐  
 平成27年4月 北海道大学総務企画部総務課課長補佐



広報課長に

かながわ まさゆき  
金川 眞行 氏

昭和38年1月9日生  
 昭和56年4月 北海道大学歯学部附属病院  
 平成13年4月 国立大雪青年の家庶務課庶務係長  
 平成16年4月 薬学研究科・薬学部庶務掛長  
 平成19年4月 北キャンパス合同事務部係長（総務担当）  
 平成22年4月 北キャンパス合同事務部事務長補佐  
 平成24年4月 総務企画部広報課課長補佐  
 平成26年4月 総務企画部総務課課長補佐





学務部学生支援課長に  
とがし つよし  
**富樫 剛 氏**

昭和38年 3月20日生  
平成2年 4月 北海道大学  
平成11年 7月 (併) 国立極地研究所事業部(～平成11年11月)  
平成11年 7月 } 第41次南極地域観測隊員  
平成13年 3月 }  
平成14年 4月 国立日高少年自然の家事業課業務係長  
平成16年 4月 国立日高少年自然の家事業推進課利用サービス係長  
平成17年 4月 北海道大学財務部調達課調達第六係長  
平成18年 4月 北海道大学財務部調達課調達第五係長  
平成19年 4月 北海道大学財務部調達課係長(債務計上担当)  
平成21年 4月 釧路工業高等専門学校総務課長  
平成24年 4月 小樽商科大学キャリア支援課長  
平成26年 4月 北見工業大学学生支援課長  
平成27年 4月 北見工業大学総務課長



施設部環境配慮促進課長に  
ささき つよし  
**佐々木 津祥 氏**

昭和37年 7月9日生  
昭和56年 3月 北海道小樽工業高等学校卒業  
昭和56年 3月 室蘭工業大学施設課  
昭和60年 4月 (併) 文部省大臣官房文教施設部札幌工事事務所(～昭和61年3月)  
平成12年 4月 北海道教育大学施設課工営第一係主任  
平成14年 4月 釧路工業高等専門学校会計課施設係長  
平成18年 4月 北海道大学函館キャンパス事務部営繕係長  
平成19年 4月 北海道大学函館キャンパス事務部係長(営繕担当)  
平成20年 4月 北海道大学施設部施設整備課係長(整備計画担当)  
平成23年 4月 北海道教育大学事務局財務部施設課総括主査  
平成24年 4月 北海道教育大学事務局財務部施設課副課長  
平成27年 4月 帯広畜産大学経営管理部施設課長



国際交流課長に  
こやま さわ  
**小山 佐和 氏**

5月1日生  
平成4年 3月 津田塾大学文学部卒業  
平成4年 4月 日本学術振興会国際事業部研究協力課  
平成7年 9月 英国エセックス大学政治学院留学  
平成8年10月 日本学術振興会国際事業部地域交流課  
平成10年 4月 東京大学総務部学務課  
平成12年 6月 日本学術振興会国際事業部地域交流課係長  
平成16年10月 文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官付推進第一係長  
平成18年10月 日本学術振興会ボン研究連絡センター副センター長  
平成20年 7月 同国際事業部人物交流課交流係長  
平成25年 4月 同国際事業部研究協力第二課交流第一係長  
平成26年 4月 同専門員  
平成28年 4月 同研究事業部研究事業課課長代理  
(兼) 研究倫理推進室室長代理



経済学事務部事務長に  
ささきはら ひであき  
**笹原 英明 氏**

平成13年 4月 釧路工業高等専門学校庶務課人事係長  
平成16年10月 北海道大学国際広報メディア研究科・言語文化部総務係長  
平成20年 7月 苫小牧工業高等専門学校総務課課長補佐  
平成22年 7月 北海道大学学術部産学連携・研究推進課長補佐  
平成23年 4月 北海道大学研究推進部産学連携課課長補佐  
平成24年 4月 北海道大学病院総務課課長補佐  
平成27年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課課長補佐



医学系事務部保健科学研究院事務課長に

まつしま としゆき  
松嶋 敏幸 氏

昭和35年 1月18日生  
昭和53年 4月 苫小牧工業高等専門学校  
昭和55年 4月 北海道大学  
平成 5年 4月 室蘭工業大学  
平成 8年 4月 北海道大学  
平成12年 4月 釧路工業高等専門学校会計課出納係長  
平成15年 4月 北海道大学医学部附属病院管理課企画掛長  
平成15年10月 北海道大学医学部・歯学部附属病院管理課施設企画掛長  
平成18年 4月 北海道大学農学事務部専門職員  
平成19年 4月 北海道大学農学事務部係長  
平成21年 4月 北海道大学薬学事務部係長  
平成23年 7月 室蘭工業大学財務グループコーディネーター  
平成25年 7月 北海道大学獣医学研究科・獣医学部事務長補佐



メディア・観光学事務部事務長に

まの しげき  
眞野 茂樹 氏

昭和41年11月10日生  
昭和60年 3月 北海道倶知安高等学校卒業  
昭和60年 4月 北海道大学医学部附属病院医事課  
平成 3年 4月 北海道大学経理部管財課  
平成 7年 4月 北海道大学経理部経理課  
平成 9年 4月 北海道大学経理部主計課  
平成12年 4月 北海道大学経理部第一契約課付主任  
平成13年 4月 北海道大学経理部第一契約課政府調達掛主任  
平成14年 4月 北海道大学経理部主計課監査掛主任  
平成16年 4月 北海道大学財務部主計課財務企画掛主任  
平成17年 4月 北海道大学財務部主計課専門職員  
平成19年 4月 北海道大学財務部主計課係長  
平成20年 4月 北海道大学医学系事務部会計課係長  
平成22年 7月 北海道大学財務部主計課係長  
平成23年 4月 北海道教育大学事務局財務部経理課主査  
平成24年 4月 北海道教育大学事務局財務部経理課副課長  
平成25年 7月 北海道大学財務部主計課課長補佐



工学系事務部情報科学研究科事務課長に

ささき よしみ  
佐々木 好美 氏

昭和39年 6月29日生  
昭和60年 4月 北海道大学  
平成16年 4月 北海道大学病院医療企画課専門職員  
平成17年10月 北海道大学病院医事課歯科保険係長  
平成18年 4月 北海道大学病院医事課入院係長  
平成19年 4月 北海道大学病院医事課係長  
平成20年 4月 北海道大学北キャンパス合同事務部係長  
平成23年 7月 北海道大学財務部調達課係長  
平成24年 4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課専門員  
平成26年10月 北海道大学財務部調達課課長補佐



北海道大学病院経営企画課長に

にしむら としのぶ  
西村 敏信 氏

昭和48年 1月24日生  
平成 9年 3月 北海学園大学経済学部卒業  
平成 9年 4月 北海道大学  
平成12年 4月 (併) 文部省高等教育局大学課  
平成14年 4月 文部科学省高等教育局私学部私学行政課  
平成16年 4月 文部科学省高等教育局私学部私学行政課法人係主任  
平成16年10月 文部科学省高等教育局国立大学法人支援課専門職  
平成18年 4月 文部科学省高等教育局国立大学法人支援課運営支援第二係長  
平成19年 4月 文部科学省高等教育局私学部私学助成課助成第一係長  
平成22年 4月 文部科学省高等教育局私学部私学助成課総括係長  
平成23年 4月 小樽商科大学財務課長  
平成26年 4月 文部科学省初等中等教育局財務課高校修学支援室室長補佐



北海道大学病院医療支援課長に

みうら じゅんいち  
三浦 順一 氏

昭和36年 6月 3日生  
昭和61年 8月 北海道大学  
平成13年 4月 旭川工業高等専門学校会計課総務係長  
平成16年10月 北海道大学病院医療支援課医療支援係長  
平成17年10月 北海道大学病院経営企画課経営企画係長  
平成19年 4月 北海道大学病院経営企画課係長  
平成20年 4月 北海道大学病院総務課係長  
平成21年 7月 北海道大学病院医事課医療支援室室長補佐  
平成24年 4月 北海道大学病院経営企画課課長補佐



工学系事務部教務課長に

おがわ さとる  
小川 悟 氏

昭和34年12月 5日生  
昭和58年 3月 明治大学商学部卒業  
平成元年 4月 北海道大学  
平成13年 4月 旭川医科大学総務部庶務課係長  
平成16年 4月 北海道大学総務部総務課係長  
平成19年 1月 北海道大学企画部企画調整課係長  
平成20年 4月 北海道大学企画部調査分析課係長  
平成21年 4月 北海道大学学務部入試課係長  
平成22年 4月 北海道大学学務部入試課課長補佐  
平成25年 4月 北海道教育大学学務部入試課長



北海道大学病院総務課長に

あべ やすなり  
阿部 康成 氏

昭和34年12月10日生  
昭和63年 4月 東京大学  
平成 4年 4月 北海道大学  
平成12年 4月 北見工業大学総務課職員係長  
平成15年 4月 北海道大学総務部人事課職員掛長  
平成16年 4月 北海道大学総務部職員課職員掛長  
平成19年 4月 北海道大学総務部総務課係長  
平成20年 8月 北海道大学総務部職員課課長補佐  
平成23年 4月 北海道大学総務企画部人事課労務管理室長  
平成24年 4月 北海道大学総務企画部人事課厚生労務室長  
平成26年 4月 北海道教育大学総務部人事課長

## 訃報

名誉教授 横山 眞太郎 氏  
よこやま しんたろう  
(享年68歳)



名誉教授 横山眞太郎先生が平成29年3月13日に逝去されました。

先生は、九州芸術工科大学（現九州大学）を卒業・修了され、昭和49年1月に北海道大学に助手として着任されました。その後、昭和63年4月助教授、平成15年4月に大学院工学研究科（その後、改組により大学院工学研究科）環境人間工学研究室の教授に昇任され、同24年3月退職されました。その間、デンマーク工科大学及びアメリカ・ミネソタ大学において在外研究にも従事されました。

教育面では、空気調整工学、環境人間工学特論等多数の科目を担当され、多くの博士・修士・卒業論文を指導さ

れました。さらに、多くの大学で非常勤講師を歴任され、本学工学部以外でも人間工学の教育に尽力されました。本学退職後も、北翔大学教授として関連する多分野における教育活動に対して大きく貢献されました。

研究面では、温熱環境評価に必須の生体内産熱量に関わる多数の論文を公表され、昭和58年3月医学博士（昭和大学）の学位を授与されました。さらに、科学研究費補助金助成の成果を「生体内熱移動現象」として上梓されました。その後、ISO（国際標準化機構）の人間工学委員等を務められ、「温熱環境に対する動的数値モデル」の確立に寄与されました。

学内においては、専攻長、部門長、予算・施設委員会委員等を務められるとともに、総合入試導入に伴う全学教育科目の充実に大きく貢献されました。

他方、労働大臣及び厚生労働大臣の任命により粉じん対策指導委員を務められ、平成17年度に北海道労働局長表彰功績賞を授与されました。

さらに、学会活動等に関しては、日

本人間工学会理事・北海道支部長・大会長、空気調和・衛生工学会理事・北海道支部長等、人間－生活環境系学会副会長・理事・大会長、日本生理人類学会理事・大会長、寒冷地空気調和・衛生工学国際会議等の事務局長等を務められました。平成22年度には、日本生理人類学会より、長年にわたる学会の発展への貢献と学会活動を通じた功績が評価され、日本生理人類学会賞を受賞、平成28年度には空気調和・衛生工学会特別会員に推薦されました。

本学はもとより他大学においても多くの学生の教育に務められたほか、学会活動等による国際的な学術研究の発展や、本学の運営及び環境人間工学を中心とする人間工学の分野に対する貢献は、極めて大なるものがございました。

先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

# 資料

## 平成29年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等	募集人員	入学者数		道内・道外人数		道内・道外比率		卒業年度別人数		卒業年度別比率		その他			
		全体	女子	道内	道外	道内	道外	29年3月卒業	過年度卒業	29年3月卒業	過年度卒業	人数	比率		
総合入試文系	100	100	23	22	77	22.0%	77.0%	73	26	73.0%	26.0%	1	1.0%		
総合入試理系	数学重点選抜群	130	138	14	45	93	32.6%	67.4%	98	40	71.0%	29.0%	0	0.0%	
	物理重点選抜群	235	248	22	98	149	39.5%	60.1%	136	111	54.8%	44.8%	1	0.4%	
	化学重点選抜群	235	240	41	67	172	27.9%	71.7%	124	115	51.7%	47.9%	1	0.4%	
	生物重点選抜群	177	187	75	44	143	23.5%	76.5%	129	58	69.0%	31.0%	0	0.0%	
	総合科学選抜群	250	264	96	85	178	32.2%	67.4%	168	95	63.6%	36.0%	1	0.4%	
	計	1,027	1,077	248	339	735	31.5%	68.2%	655	419	60.8%	38.9%	3	0.3%	
文学部	155	157	85	65	91	41.4%	58.0%	115	41	73.2%	26.1%	1	0.6%		
教育学部	30	31	10	13	18	41.9%	58.1%	22	9	71.0%	29.0%	0	0.0%		
法学部	180	188	48	94	90	50.0%	47.9%	125	59	66.5%	31.4%	4	2.1%		
経済学部	160	169	52	99	69	58.6%	40.8%	101	67	59.8%	39.6%	1	0.6%		
理学部	数学科	13	13	2	5	8	38.5%	61.5%	12	1	92.3%	7.7%	0	0.0%	
	物理学科	10	10	1	1	7	10.0%	70.0%	6	2	60.0%	20.0%	2	20.0%	
	化学科	23	23	5	7	16	30.4%	69.6%	15	8	65.2%	34.8%	0	0.0%	
	生物科学科	生物学専修分野	10	11	4	1	9	9.1%	81.8%	7	3	63.6%	27.3%	1	9.1%
		高分子機能学専修分野	5	5	2	2	3	40.0%	60.0%	4	1	80.0%	20.0%	0	0.0%
	小計	15	16	6	3	12	18.8%	75.0%	11	4	68.8%	25.0%	1	6.3%	
	地球惑星科学科	10	10	1	1	9	10.0%	90.0%	9	1	90.0%	10.0%	0	0.0%	
計	71	72	15	17	52	23.6%	72.2%	53	16	73.6%	22.2%	3	4.2%		
医学部	医学科	102	102	22	51	51	50.0%	50.0%	42	60	41.2%	58.8%	0	0.0%	
	保健学科	看護学専攻	67	73	64	56	16	76.7%	21.9%	50	22	68.5%	30.1%	1	1.4%
		放射線技術科学専攻	35	36	9	26	10	72.2%	27.8%	24	12	66.7%	33.3%	0	0.0%
		検査技術科学専攻	35	36	23	25	11	69.4%	30.6%	20	16	55.6%	44.4%	0	0.0%
		理学療法専攻	17	17	9	5	12	29.4%	70.6%	10	7	58.8%	41.2%	0	0.0%
		作業療法専攻	17	18	12	14	4	77.8%	22.2%	11	7	61.1%	38.9%	0	0.0%
	小計	171	180	117	126	53	70.0%	29.4%	115	64	63.9%	35.6%	1	0.6%	
計	273	282	139	177	104	62.8%	36.9%	157	124	55.7%	44.0%	1	0.4%		
歯学部	43	43	18	19	24	44.2%	55.8%	17	26	39.5%	60.5%	0	0.0%		
薬学部	24	24	5	3	21	12.5%	87.5%	9	15	37.5%	62.5%	0	0.0%		
工学部	応用理工系学科	38	39	1	4	34	10.3%	87.2%	21	17	53.8%	43.6%	1	2.6%	
	情報エレクトロニクス学科	38	42	3	9	28	21.4%	66.7%	25	12	59.5%	28.6%	5	11.9%	
	機械知能工学科	30	36	4	1	27	2.8%	75.0%	21	7	58.3%	19.4%	8	22.2%	
	環境社会工学科	53	54	2	11	41	20.4%	75.9%	26	26	48.1%	48.1%	2	3.7%	
	計	159	171	10	25	130	14.6%	76.0%	93	62	54.4%	36.3%	16	9.4%	
農学部	53	54	11	4	48	7.4%	88.9%	29	23	53.7%	42.6%	2	3.7%		
獣医学部	35	37	24	2	35	5.4%	94.6%	21	16	56.8%	43.2%	0	0.0%		
水産学部	175	175	47	50	124	28.6%	70.9%	110	64	62.9%	36.6%	1	0.6%		
現代日本学プログラム	-	22	13	-	-	-	-	-	-	-	-	22	100.0%		
合計	2,485	2,602	748	929	1,618	35.7%	62.2%	1,580	967	60.7%	37.2%	55	2.1%		

※その他とは、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、帰国子女入試による入学者及び外国人留学生である。

(学務部入試課)

## 平成29年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

北海道	929	602	327	35.7%
-----	-----	-----	-----	-------

東北	116	78	38	4.5%
----	-----	----	----	------

青森県	27	16	11	
-----	----	----	----	--

岩手県	13	10	3	
-----	----	----	---	--

宮城県	39	25	14	
-----	----	----	----	--

秋田県	16	14	2	
-----	----	----	---	--

山形県	6	4	2	
-----	---	---	---	--

福島県	15	9	6	
-----	----	---	---	--

関東	594	459	135	22.8%
----	-----	-----	-----	-------

茨城県	53	35	18	
-----	----	----	----	--

栃木県	25	20	5	
-----	----	----	---	--

群馬県	23	19	4	
-----	----	----	---	--

埼玉県	78	69	9	
-----	----	----	---	--

千葉県	57	43	14	
-----	----	----	----	--

東京都	236	184	52	
-----	-----	-----	----	--

神奈川県	122	89	33	
------	-----	----	----	--

北陸・中部	394	287	107	15.1%
-------	-----	-----	-----	-------

新潟県	42	32	10	
-----	----	----	----	--

富山県	40	25	15	
-----	----	----	----	--

石川県	50	34	16	
-----	----	----	----	--

福井県	4	3	1	
-----	---	---	---	--

山梨県	12	7	5	
-----	----	---	---	--

長野県	27	21	6	
-----	----	----	---	--

岐阜県	21	17	4	
-----	----	----	---	--

静岡県	88	68	20	
-----	----	----	----	--

愛知県	110	80	30	
-----	-----	----	----	--

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

近畿	348	265	83	13.4%
----	-----	-----	----	-------

三重県	22	18	4	
-----	----	----	---	--

滋賀県	24	18	6	
-----	----	----	---	--

京都府	61	44	17	
-----	----	----	----	--

大阪府	106	83	23	
-----	-----	----	----	--

兵庫県	86	64	22	
-----	----	----	----	--

奈良県	26	18	8	
-----	----	----	---	--

和歌山県	23	20	3	
------	----	----	---	--

中国・四国	91	72	19	3.5%
-------	----	----	----	------

鳥取県	6	4	2	
-----	---	---	---	--

島根県	8	7	1	
-----	---	---	---	--

岡山県	11	10	1	
-----	----	----	---	--

広島県	30	23	7	
-----	----	----	---	--

山口県	5	4	1	
-----	---	---	---	--

徳島県	3	3	0	
-----	---	---	---	--

香川県	7	6	1	
-----	---	---	---	--

愛媛県	17	12	5	
-----	----	----	---	--

高知県	4	3	1	
-----	---	---	---	--

九州・沖縄	75	57	18	2.9%
-------	----	----	----	------

福岡県	35	27	8	
-----	----	----	---	--

佐賀県	5	4	1	
-----	---	---	---	--

長崎県	5	3	2	
-----	---	---	---	--

熊本県	7	6	1	
-----	---	---	---	--

大分県	6	3	3	
-----	---	---	---	--

宮崎県	3	2	1	
-----	---	---	---	--

鹿児島県	7	6	1	
------	---	---	---	--

沖縄県	7	6	1	
-----	---	---	---	--

その他	55	34	21	2.1%
-----	----	----	----	------

高等学校卒業程度認定試験等	8	7	1	
---------------	---	---	---	--

帰国子女入試	8	5	3	
--------	---	---	---	--

外国人留学生	39	22	17	
--------	----	----	----	--

入学者数合計	2,602	1,854	748	
--------	-------	-------	-----	--

※地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(学務部入試課)

## 編集メモ

---

●キャンパス内では、ツツジやコブシの花が咲き始め、ようやく春めいてきました。  
本学では、第19代総長として名和豊春総長が就任し、新たな役員体制で新年度が始まりました。

●連携協定を締結した北海道テレビ放送株式会社のマスコットキャラクター「onちゃん」が、特別学生として本学に入学しました。25日（火）にはインフォメーションセンター「エルムの森」をonちゃんが訪れ、学生や観光客らと交流する姿が見られました。



2012.4.28 根室本線 布部～山部（富良野市）

## 北の鉄道風景 49 早春の根室本線を往く

根室本線・滝川～富良野～新得の区間は、かつては道央と道東を結ぶための幹線ルートであった。しかし、1981年（昭和56年）に、南千歳～新得間をショートカットする石勝線が開通すると、道央～道東間の幹線としての役割は石勝線に移り、同区間は地域輸送のためのローカル線となった。それから36年が経過した現在、JR北海道の厳しい経営状況など

を背景に、富良野～新得間は廃線の危機に瀕している。この写真は滝川発釧路行き普通列車が早春の根室本線・布部付近を往く光景だ。このように長閑な光景も、近い将来、廃線によって失われてしまうのだろうか。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ④ No.757 平成29年4月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。<http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>